



FDK

FDK Group Integrated Report 2026

FDKグループ 統合報告書

FDKのアイデンティティ

経営理念 進化に挑戦 輝く未来と笑顔のために

グループ戦略 Framework「10年の計」

Vision

FDKグループは、Smart Energy Partnerとして、先進技術を結集し、お客様に電気エネルギーを安心して効率的に活用いただき、持続可能な社会の実現と発展に貢献します。

あるべき姿

誰に 人々の暮らしと社会を支える企業と個々のユーザーに

何を クリーン且つ、安全な電気エネルギーを安定的に活用できるオファリングを届ける(電池／ものづくり、次世代電池、パワーマネジメントソリューション)

いつ 2029年

中期事業計画

—R1—R2—R3→ 2029

And Game

計画実行にあたり大切にすべき、FDKの新しい文化

お客様の満足

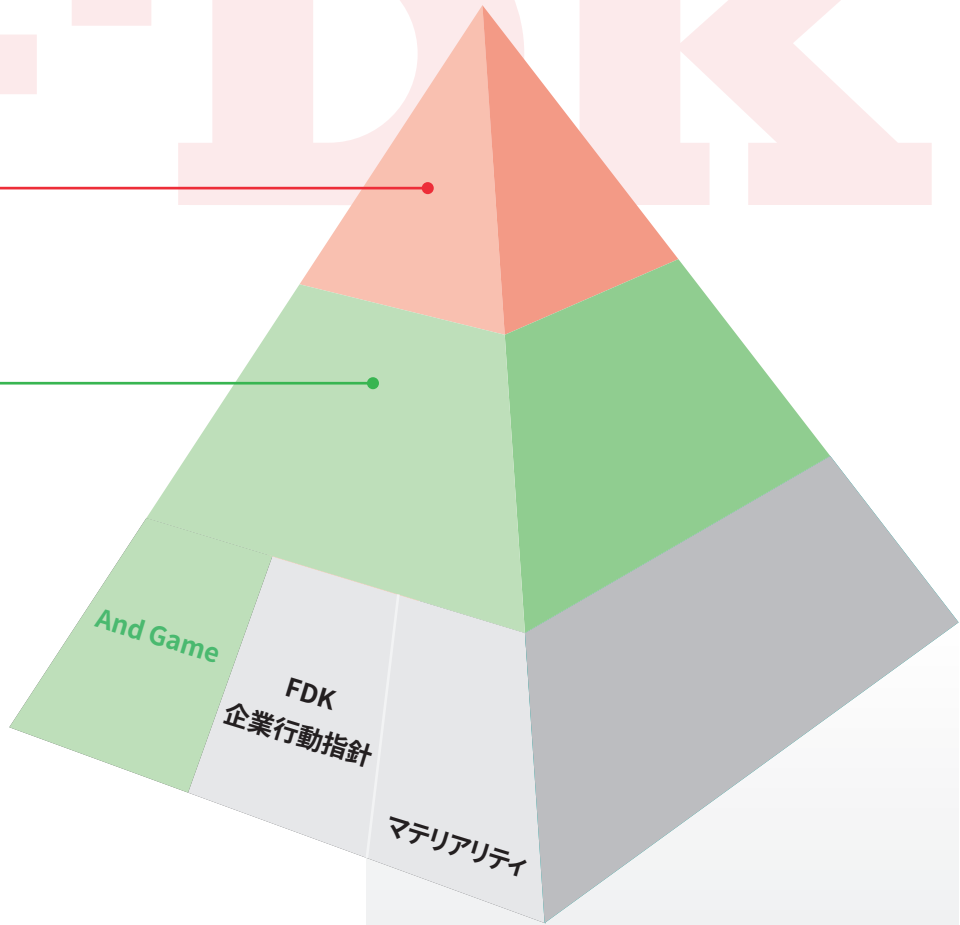
従業員に対する責任

株主への約束

社会への貢献

and

(すべてに応える)



- 安心安全な電気エネルギーの提供
- 地球環境との共生
- 多様な人材の活躍推進
- コーポレート・ガバナンスの持続的強化／リスクコンプライアンスの高度化
- 地域・社会・コミュニティの持続可能性への貢献



HOME



INDEX

イントロダクション

FDKのアイデンティティ

Contents

TOP MESSAGE

事業紹介

財務・非財務ハイライト

FDKの歩み

外部環境

強み

FDKグループの価値創造ストーリー

サステナビリティ

財務情報

概要、グループ会社

Contents

イントロダクション

FDKのアイデンティティ	1
Contents	2
TOP MESSAGE	3
事業紹介	8
財務・非財務ハイライト	10
FDKの歩み	12
外部環境	15
強み	16

FDKグループの価値創造ストーリー

価値創造モデル	18
6つの資本	19
FDKグループ戦略Framework「10年の計」	20
中期事業計画「R2」の振り返り	21
新中期事業計画「R3」	23
現行ビジネスの多角的拡大	25
財務戦略	30

サステナビリティ

FDKアイデンティティにおける「10年の計」×サステナビリティ経営	32
サステナビリティマネジメント	33
マテリアリティ	34
①安心安全な電気エネルギーの提供	38
②地球環境との共生	41
③多様な人材の活躍推進	46
④コーポレート・ガバナンスの持続的強化／リスクコンプライアンスの高度化	58
⑤地域・社会・コミュニティの持続可能性への貢献	69

財務情報

財務情報	70
概要、グループ会社	
会社概要	76
株式の状況	78

概要、グループ会社

編集方針

FDKグループでは、FDKグループのサステナビリティ基本方針に基づく様々な活動をステークホルダーの皆様にご理解いただくために、2017年から「FDKグループCSRレポート」を発行してまいりました。
2024年から「FDKグループ 統合報告書」として財務・非財務の両面から当社の事業、取り組みを中心にご報告しています。

対象期間

2025年度（2025年4月1日～2026年3月31日）の活動を中心に
ご報告しています（一部対象期間外の内容を含みます）。
対象範囲
FDKおよびFDKグループを対象としています。一部FDK単体の報告があります。

参考にしたガイドライン

「FDKグループ統合報告書2026」は、「国際統合報告フレームワーク」（国際統合報告評議会）、「価値協創のための統合的開示・対話ガイダンス（価値協創ガイダンス）」（経済産業省）、「GRI(Global Reporting Initiative)サステナビリティ・レポートिंग・スタンダード」を参考に作成しています。

将来に関する事項についての注意事項

本報告書に記載されている将来の見通しに関する記載は、本報告書の作成時点の当社グループの判断に基づくものであり、リスクや不確定な要因が含まれています。
今後、様々な要因によって、見通しとは大きく異なる結果となる可能性があります。



INDEX

イントロダクション

FDKのアイデンティティ

Contents

TOP MESSAGE

事業紹介

財務・非財務ハイライト

FDKの歩み

外部環境

強み

FDKグループの価値創造ストーリー

サステナビリティ

財務情報

概要、グループ会社

TOP MESSAGE

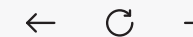
FDK

蓄えた**力**を、次の**成長**へ

代表取締役社長
下園 浩史



HOME



INDEX

イントロダクション

FDKのアイデンティティ

Contents

TOP MESSAGE

事業紹介

財務・非財務ハイライト

FDKの歩み

外部環境

強み

FDKグループの価値創造ストーリー

サステナビリティ

財務情報

概要、グループ会社

TOP MESSAGE

就任にあたって

2026年6月、代表取締役社長に就任した下園浩史です。私は約40年にわたり、一貫して電池事業に携わり、技術、営業、海外事業など、様々な立場からお客様と向き合ってきました。その経験を活かし、技術と市場の双方の視点を持ちながら、FDKの持続的な成長に向けた経営に取り組んでまいります。

この数年間、当社は事業構造改革や財務基盤の強化を進め、経営基盤を着実に整えてきました。その成果を土台として、これからは守りを固める段階から、成長を実現する段階へと経営の重心を移していかなければなりません。

また、2026年度は、2029年度の「あるべき姿」の実現を目指すFDKグループ戦略Framework「10年の計」の最終フェーズとなる中期事業計画「R3」のスタートの年でもあります。この3年間は、これまで築いてきた基盤を確かな成長へ結び付けられるかどうかを左右する、極めて重要な期間です。

今年度、私が掲げる言葉は「転換」です。これは、これまでの取り組みを否定することではありません。長年培ってきた技術力や品質へのこだわり、お客様との信頼関係という強みをさらに磨きながら、既存事業の収益力を高めるとともに、新たな成長領域へ積極的に挑戦し、持続的に企業価値を高めていくことです。

「10年の計」の総仕上げとなるこの3年間で、FDKが持続的な成長企業へ飛躍する期間にしたい。その思いを「転換」という言葉に込め、社員とともに挑戦を続けてまいります。

収益基盤を強化し、
次の成長への土台を築いた2025年度

2025年度は、地政学リスクや資源価格の変動など厳しい外部環境が続く中、売上高は前年を下回る結果となりました。しかし、高付加価値製品へのシフトやコスト構造改革を進めたことで、利益面では改善を実現できました。収益の質を高めることに軸足を置いて乗り切った一年だったと捉えています。

一方で、積み残した課題もあります。次世代電池をはじめとする新規事業を、事業として収益に結び付けるところまでは至りませんでした。また、中期事業計画「R2」の期間を

通じて、売上高とROICはいずれも計画に未達という結果に終わっています。ここは私自身が最も重く受け止めている課題であり、今後の経営における最優先のテーマです。

この一年を通じてFDKは、守りの改革から、成長を見据えた経営へと一段進んだと感じています。既存事業の高付加価値化を進める一方で、次世代電池の種まきも着実に進み、人材・DX・ガバナンスといった経営基盤の強化にも取り組んできました。会社全体として、経営の質を高めるフェーズに入ってきたことが、この一年の最も大きな変化だと考えています。



HOME



INDEX

イントロダクション

FDKのアイデンティティ

Contents

TOP MESSAGE

事業紹介

財務・非財務ハイライト

FDKの歩み

外部環境

強み

FDKグループの価値創造ストーリー

サステナビリティ

財務情報

概要、グループ会社

TOP MESSAGE

中期事業計画「R1・R2」の総括と 新中期事業計画の「R3」始動

2020年度に始まった「10年の計」のもと、「R1・R2」の6年間は、既存三事業の基盤強化と収益体質の改善に注力してきた期間でした。ニッケル水素電池、リチウム電池、電子事業という三本柱の強化に加え、包頭富士電気化学の連結子会社化、SILITECH社を筆頭株主とする資本構成の変化、減資による欠損てん補、そしてEnergizer社とのブランドライセンス契約締結など、次の成長に向けた足場を一つひとつ固めてきました。

一方で、売上高・ROICは「R2」期間を通じて計画に届かず、ニッケル亜鉛電池や全固体電池といった次世代電池についても、事業化までには至っていません。外部環境の影響を受けやすい事業構造、新規事業を収益化する力の不足、そして成長を支える人材・組織・ガバナンス基盤の不安定さ。この三つが、「R2」を通じて見えてきた構造的な



課題だと認識しています。

こうした認識のもと、2026年度から新たな中期事業計画「R3」（2026～2028年度）を始動します。「R3」では、「現行ビジネスの多角的拡大」「事業ポートフォリオの多様化」「失敗に学び、成長を実感できる文化の醸成」の三本柱を掲げ、事業の安定化から持続的な成長へと重心を移してまいります。目標として、「R3」期間累計で連結売上高2,000億円、営業利益70億円、ROIC5.5%（最終年度7.0%）、営業キャッシュ・フロー150億円を掲げ、2029年度の「あるべき姿」である売上高800億円（うち新事業3割）、営業利益率7.5%の実現につなげます。

事業ポートフォリオの多様化

「R3」で私が最も重視しているのは、事業ポートフォリオの多様化です。既存事業を収益基盤としてしっかりと稼ぐ力を高めながら、成長領域への資源配分を確実に進めていく。これがこれからの経営の中心テーマになります。

FDKの強みは、電池・電子という二つの事業ドメインに加えて、エンジニアリングという設備領域までを併せ持ち、これらを組み合わせお客様に価値を提供できる点にあります。単品の電池を供給するだけでなく、お客様の用途に応じた加工やパッケージ化、ソリューションとしての提案ができる企業は、業界の中でも多くありません。

事業構成では電池が約8割、電子が約2割を占め、電池事業の大部分はBtoBが中心です。特にニッケル水素電池やリチウム一次電池は、車載、スマートメーター、住宅用火災報知器といった社会インフラを支える分野で、高い信頼性を評価いただいております。顧客の半数以上を海外が占めています。成熟した製品でありながら競合が限られる分野だからこそ、伸びしろのある市場だと捉えています。安全性の面でも、水溶液系の電解液を用いるニッケル水素電池は発火リスクが低く、有機溶媒を使うリチウムイオン電池が課題を抱える中で、独自のポジションを確立しています。長年培ってきた技術力と、漏液対策をはじめとする品質へのこだわりは、一朝一夕には模倣できないFDKならではの財産であり、この強みをさらに磨きながら、収益基盤・成長領域それぞれの戦略を進めてまいります。

収益基盤となるニッケル水素電池、リチウム電池、アルカリ電池、電子事業は、伸びる市場と付加価値の高い領域への深掘りを進め、稼ぐ力そのものを強化していきま



HOME



INDEX

イントロダクション

FDKのアイデンティティ

Contents

TOP MESSAGE

事業紹介

財務・非財務ハイライト

FDKの歩み

外部環境

強み

FDKグループの価値創造ストーリー

サステナビリティ

財務情報

概要、グループ会社

TOP MESSAGE

す。アルカリ電池では、長年のパートナーであった富士通ブランドに代わり、Energizer社とのブランドライセンス契約のもとで新ブランドを立ち上げます。国内での製造力と販売力を持つ当社と、グローバルで高い認知度を誇るEnergizerブランドとの組み合わせにより、この一年でしっかりと市場に浸透させていきたいと考えています。

成長領域と位置づけるニッケル亜鉛電池、全固体電池といった次世代電池、そしてパワーソリューション事業には、市場性やお客様との協業を見極めながら投資を重点配分し、量産・事業化のフェーズへと着実に引き上げてまいります。あわせて、その先を見据えた革新型電池についても、外部機関との共同研究を通じて開発を進めています。水素社会の実現に向けて期待が高まる水素吸蔵合金も、包頭富士電気化学の連結子会社化を通じて事業基盤を強化しており、今後の展開が楽しみな領域です。

一方、収益性や競争力の観点から構造改革が必要な領域については、生産体制の見直しや設備集約を継続し、経営資源の最適配分を進めます。判断の軸は、市場の成長性、収益性、そして当社の強みとの適合性の三点です。

人と組織、そして挑戦する文化

こうした事業ポートフォリオの転換を実現できるかどうかは、突き詰めれば人と組織の力にかかっています。「R3」の三本柱の一つに「失敗に学び、成長を実感できる文化の醸成」を掲げているのも、そのためです。果敢に挑戦し、失敗を投資として将来の価値を生み出す風土を、経営陣だけでなく従業員一人ひとりが持てるようにすること。これが、事業戦略と両輪をなす、もう一つの重要なテーマです。

経営理念「進化に挑戦 輝く未来と笑顔のために」のもと、これからのFDKに求められるのは、自ら考え、課題を見つけ、解決していける人材、そして技術とビジネスの両方を理解して動ける人材です。変化を恐れず、過去の良いところを残しながらも新しいものを取り入れていくこの姿勢も、経営陣だけでなく従業員一人ひとりが持てるよう、挑戦できる環境づくりを進めています。

人材確保の観点では、若手の採用に加えて、豊富な経験と技術を持つシニア層が引き続き力を発揮できるよう、再雇用制度の充実にも取り組みました。技術やノウハウの継承は製造業にとって欠かせない要素であり、世代を超えて高め合える組織を目指

します。次世代電池やDXといった技術領域の人材育成にも力を入れ、事業視点を持った人材を育てる研修の充実や、社員が自ら事業アイデアを提案できるPMOプロジェクトの取り組みも進めています。従業員の多様性を、付加価値を生み出す力に変えていくことも、この文化醸成の一部だと考えています。

DX人材の育成では、社内でレベルに応じた学習制度を整え、公的資格の取得費用を会社が負担するなど、誰もが挑戦しやすい仕組みを設けています。まだアナログな業務が残る現場も多く、DX化によって効率化できる余地は大きいと考えており、2028年までに150名のデジタル人材を育成する計画のもと、着実に取り組みを進めてまいります。

環境対応についても、単なるコストではなく事業機会として捉えています。PFASフリー化はお客様に新たな価値を提供する取り組みであり、水素関連事業は中長期的に大きな成長が期待できる分野です。ガバナンス面では、経営の透明性を高めながら、現場が迅速に判断できる体制を整えることを重視し、持続的な企業価値向上を支える基盤づくりを進めてまいります。



HOME



INDEX

イントロダクション

FDKのアイデンティティ

Contents

TOP MESSAGE

事業紹介

財務・非財務ハイライト

FDKの歩み

外部環境

強み

FDKグループの価値創造ストーリー

サステナビリティ

財務情報

概要、グループ会社

TOP MESSAGE

財務基盤の強化と株主還元

事業ポートフォリオの転換や、人と組織への投資を着実に進めるためには、それを支える財務基盤が欠かせません。収益性・資本効率の改善に向けては、ROICを最重要指標と位置づけています。売上規模の拡大だけでなく、どれだけ効率よく利益を生み出せるかという視点を持ち、付加価値の高い領域へのシフト、コスト構造改革、資産効率の向上を軸に、稼ぐ力を高めてまいります。

資金の配分にあたっては、持続的成長による企業価値向上を最優先とし、成長投資と既存ビジネスの強化に重点的に資金を配分する方針です。そのうえで、事業収益力および財務基盤強化の進捗を踏まえ、株主還元の在り方についても検討してまいります。昨年度の減資による欠損てん補を経て、その検討を進められる環境が整ったことは、大きな一歩だと捉えています。安定的な利益創出力、財務の健全性、成長投資とのバランスを総合的に見極めながら、配当を含めた具体的な還元策を検討してまいります。

株主・投資家の皆様には、企業価値の向上と株主還元の両面において、常に高い期待をお寄せいただいていると受け止めています。その期待にお応えするためにも、資本政策の考え方や事業戦略について、より分かりやすい情報開示を進めてまいります。とりわけ海外投資家への情報発信は十分とは言えない状況にあり、当社の海外売上比率の高さを踏まえても、これは早急に強化すべき課題です。WEBサイトの刷新をはじめ、国内外への発信力を高め、投資家の皆様との対話を一層深めてまいります。

ステークホルダーの皆様へ

「10年の計」も、いよいよ目指す姿の実現に向けた総仕上げの局面を迎えます。これまでの構造改革で整えてきた基盤をもとに、これからは成長領域へのシフトを確実に進めることが、私に課せられた最大の使命だと考えています。

既存事業でしっかりと収益を確保しながら、新たな事業を育てていくことで持続的な成長を実現し、透明性の高い経営と着実な成果でステークホルダーの皆様にお応えしてまいります。引き続き、皆様のご理解とご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。



HOME



INDEX

イントロダクション

FDKのアイデンティティ

Contents

TOP MESSAGE

事業紹介

財務・非財務ハイライト

FDKの歩み

外部環境

強み

FDKグループの価値創造ストーリー

サステナビリティ

財務情報

概要、グループ会社

事業紹介

FDKグループは、世界の人々に快適な日常と利便性の提供、地球と生命にやさしい環境保全に取り組み、暮らしを支えています。

身近な暮らしの様々なシーン、日々進化するデジタル環境、未来のスマートシティを支える多種多様な電池と電子製品を提供しています。

FDKグループは、Smart Energy Partnerとして、先進技術を結集し、お客様に電気エネルギーを安心して効率的に活用いただき、持続可能な社会の実現と発展に貢献します。

電池事業（482 億 15 百万円） 前年比 7 億 40 百万円減

安全性が高く、環境にやさしい「ニッケル水素電池」。家電機器や車の緊急通報システムの電源、その他各種バックアップ電源などに使われています。ニッケル水素電池は、各種用途に合わせた幅広いラインアップを揃えており、さらに、充放電回路と組み合わせ、緊急時のバックアップ電源などとしても使われています。

私たちの暮らしに最も身近な「アルカリ乾電池」。確かな実績とノウハウを活かして高性能なアルカリ乾電池を生産しています。その用途は幅広く、あらゆる製品に必要とされています。

高電圧で長寿命な「リチウム電池」。自己放電率が小さく、広い温度範囲で使用が可能な「リチウム一次電池」は、住宅用火災警報器や水道・ガス・電気などのスマートメーターをはじめ幅広い用途で使われ、「薄形リチウム一次電池」は、薄形でありながら寿命が長くクレジットカードなどのカード類に搭載可能な電池です。

FDKエンジニアリングは、メカ駆動技術を駆使した圧縮エアー消費の削減による省エネルギー化をはじめ、フルオートメーション設備などの提供により、脱炭素や労働力不足などの課題を解決し、お客様の持続可能なものづくりを支援しています。

主力製品



ニッケル水素電池

アルカリ乾電池



リチウム電池

活用先 車両緊急通報システム・リモコン・住警器

コア技術 電気化学技術・CAE技術・素材技術

2025 年度 連結売上高 595 億 61 百万円

電池事業
81.0%

電子事業
19.0%

電子事業（113 億 45 百万円） 前年比 28 億 70 百万円減

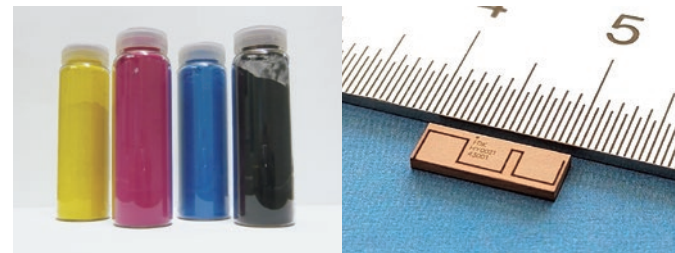
デジタル環境を支える電子製品。様々な機器の電源に使われている「スイッチング電源」、モビリティ用途向け電子機器などを制御する「各種モジュール」、大型プリンターで使われている「トナー」といった電子製品を、お客様のニーズに応じて提供しています。

近年では、世界最小クラス^{*1}の「Bluetooth[®]*2 Low Energy モジュール」の開発を進め、センシングデータをクラウドに上げて管理する小型医療機器やビーコン(Beacon)の情報をスマートフォンに伝える紛失防止タグ、高齢者や子供の外出・帰宅を家族に知らせる見守りタグなどでの活用が期待されています。

^{*1} アンテナ付きシールドタイプ32kHz/32MHz 水晶振動子、電源周辺受動部品内蔵モジュールとして。
参考値。2025年11月12日現在。(FDK調べ)

^{*2} Bluetooth[®]ワードマークは、Bluetooth SIG, Inc. が所有する商標です。

主力製品

トナー・Bluetooth[®] Low Energy モジュール

活用先 複写機、通信機器、産業用制御装置

コア技術 パワーエレクトロニクス技術・回路技術・ファイン印刷技術・高密度実装技術・CAE 技術・素材技術



HOME



INDEX

イントロダクション

FDKのアイデンティティ

Contents

TOP MESSAGE

事業紹介

財務・非財務ハイライト

FDKの歩み

外部環境

強み

FDKグループの価値創造ストーリー

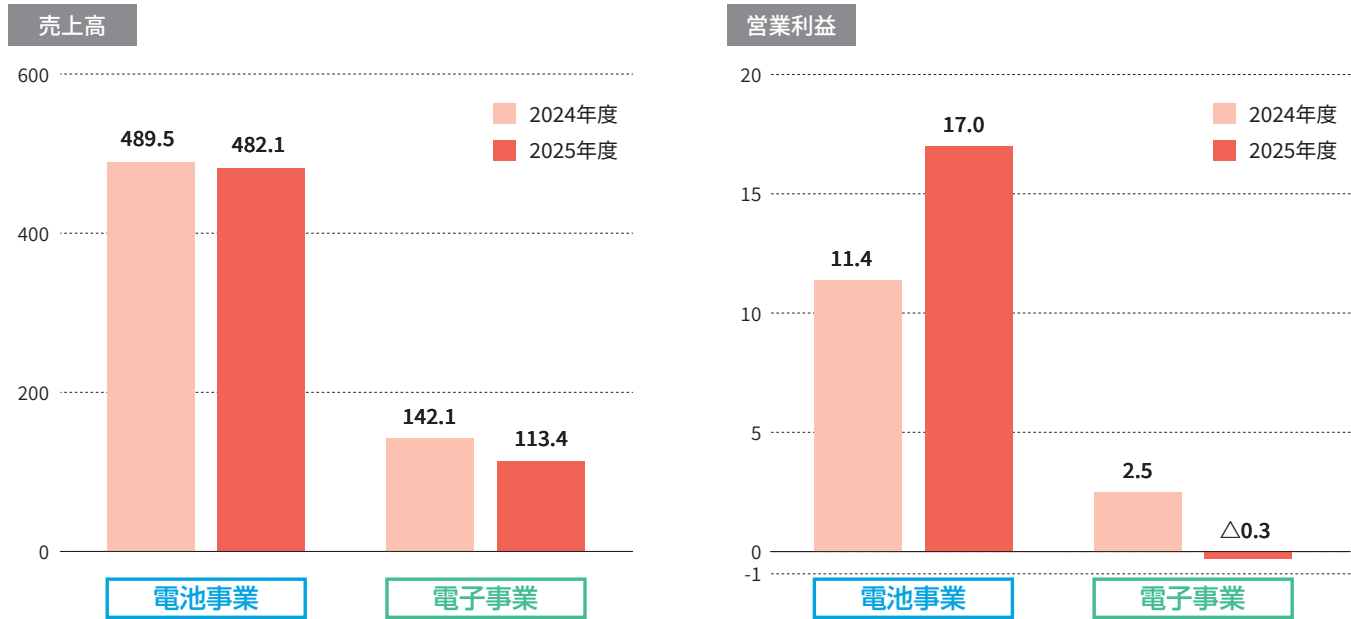
サステナビリティ

財務情報

概要、グループ会社

事業紹介

セグメント別情報(億円)



※0.1億円未満切り捨て

地域別売上高(億円)



※「地域別売上高」は顧客の所在地別売上を示しています
※0.1億円未満切り捨て



HOME



INDEX

イントロダクション

FDKのアイデンティティ

Contents

TOP MESSAGE

事業紹介

財務・非財務ハイライト

FDKの歩み

外部環境

強み

FDKグループの価値創造ストーリー

サステナビリティ

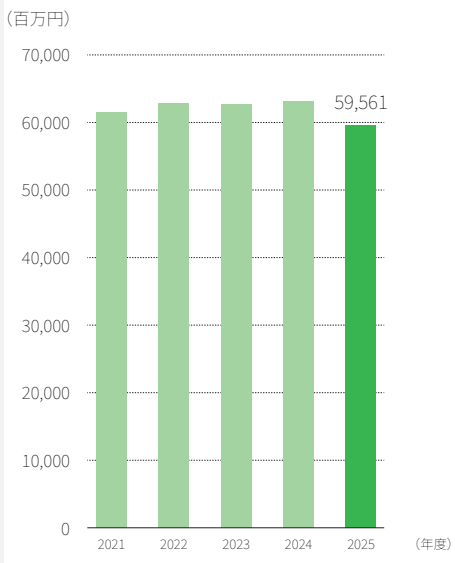
財務情報

概要、グループ会社

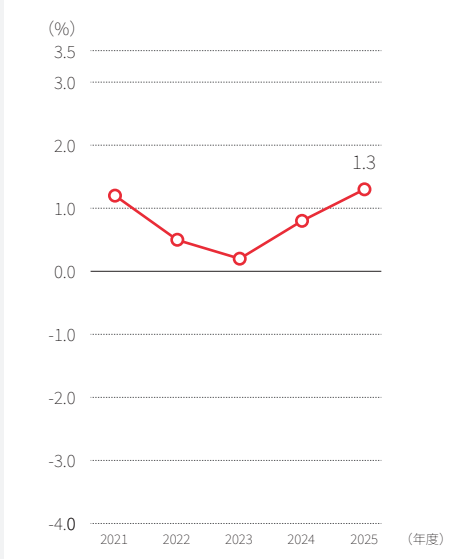
財務・非財務ハイライト

財務情報

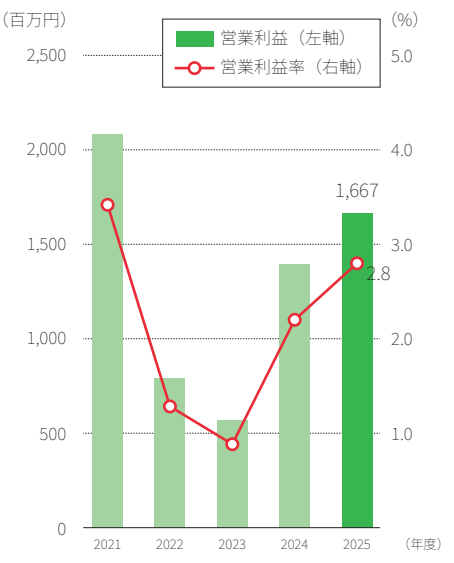
売上高(連結)



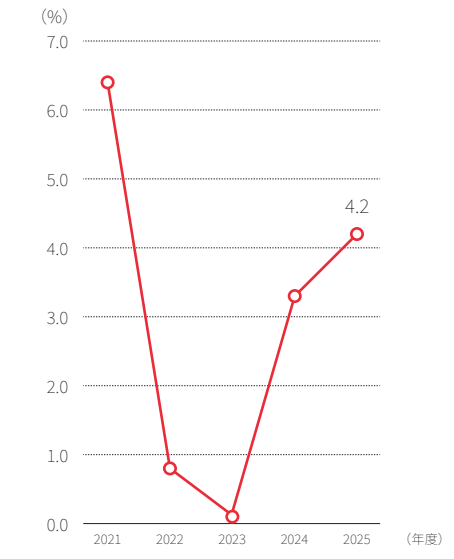
当期純利益率



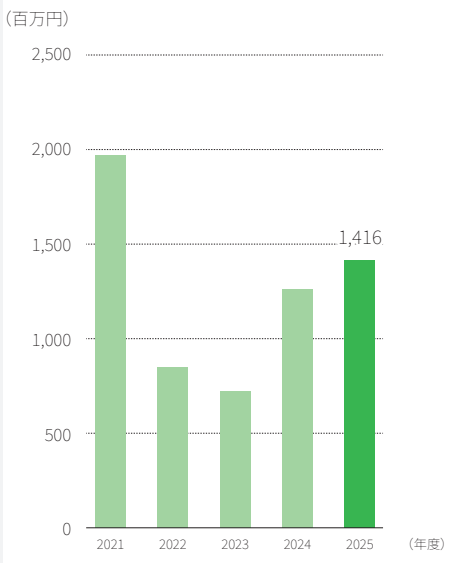
営業利益(連結)／営業利益率



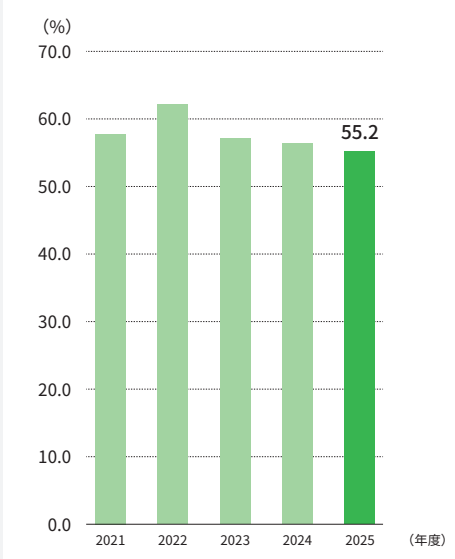
ROIC



経常利益(連結)



国内売上比率



売上高は、2019年度に実施した電子事業での一部事業の譲渡以降、概ね600億円規模を維持しています。損益面では、電子事業での選択と集中による損益改善や収益構造改革を進め、2021年度には大幅な利益改善を実現しました。その後、原材料価格やエネルギーコストの上昇など外部環境の影響を受けたものの、2024年度は技術VEによるコストダウンや為替効果などにより大幅な増益となりました。2025年度もコスト削減施策や為替影響などが寄与し収益性向上が継続した結果、営業利益・経常利益ともに9期連続の黒字を達成しました。



HOME



INDEX

イントロダクション

FDKのアイデンティティ

Contents

TOP MESSAGE

事業紹介

財務・非財務ハイライト

FDKの歩み

外部環境

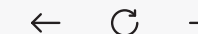
強み

FDKグループの価値創造ストーリー

サステナビリティ

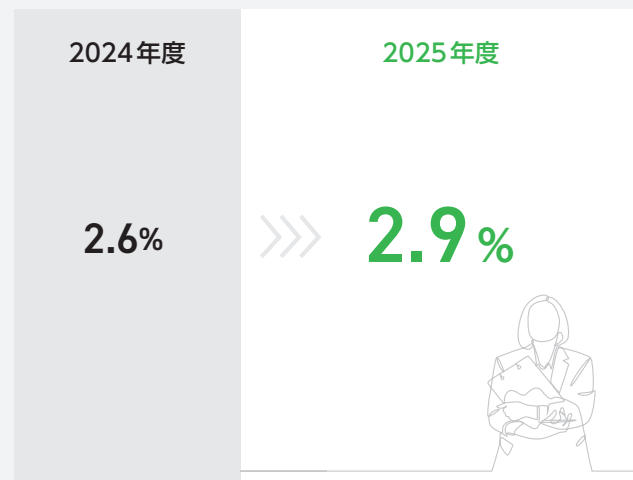
財務情報

概要、グループ会社



非財務情報

女性管理職比率

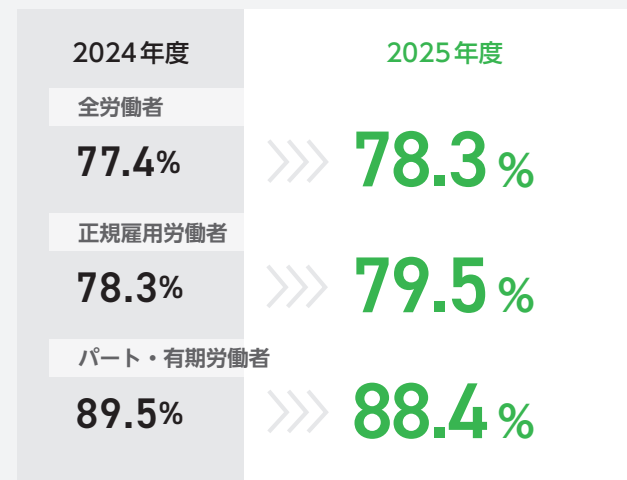


女性管理職の計画的な育成・登用を進めています。

1人当たり教育研修費用



FDKグループでは、従業員の自律的な学びと成長を支援するため、教育体系およびカリキュラムを毎年見直しています。

男女賃金差異^{*1}

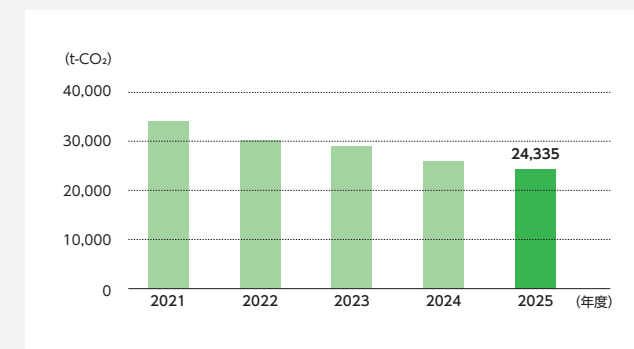
^{*1} 「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律」(平成27年法律第64号)の規定に基づき算出しています。

障がい者雇用率^{*3}

^{*3} 「障害者の雇用の促進等に関する法律」(昭和35年法律第123号)の規定に基づき算出しています。

男性育休取得率^{*2}

^{*2} 「育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律」(平成3年法律第76号)の規定に基づき、「育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律施行規則」(平成3年労働省令第25号)第71条の4第1号における育児休業等の取得割合を算出しています。

CO₂排出量^{*4}

^{*4} GHG プロトコルに基づき Scope 1 と Scope 2 の合計として算出しています。国内・海外ともにマーケット基準で算出しております。

INDEX

イントロダクション

FDKのアイデンティティ

Contents

TOP MESSAGE

事業紹介

財務・非財務ハイライト

FDKの歩み

外部環境

強み

FDKグループの価値創造ストーリー

サステナビリティ

財務情報

概要、グループ会社

FDKの歩み

1950年のマンガン乾電池の製造から始まったFDK(旧東京電気化学工業株式会社・旧富士電気化学株式会社)は、多様な電子製品、アルカリ電池、リチウム電池、ニッケル水素電池を世に送り出し社会を支えてまいりました。今後もSmart Energy Partnerとして、先進技術を結集し、お客様に電気エネルギーを安心して効率的に活用いただき、持続可能な社会の実現と発展に貢献してまいります。

1950

ハイライト1

1950年2月
東京電気化学工業株式会社設立



1950年、東京電気化学工業株式会社は東京芝浦電機株式会社(現・東芝)の乾電池工場(大船工場、鷺津工場)の創立者である志岐隆清と杉田忠嗣が買収する形から始まりました。朝鮮戦争特需の勢いもありマンガン乾電池の製造、販売で経営基盤を固め、事業拡大につなげていきました。

ハイライト2

1969年10月
東京証券取引所第二部上場



静岡県鷺津町でのマンガン乾電池製造から始まった当社は、高度経済成長と電子工業の飛躍的発展の波に乗り、フェライトの製造販売に着手したことで急成長を遂げ、1969年10月1日に東京証券取引所市場第二部に上場しました。

1980

創業期

静岡県湖西市鷺津に創業。朝鮮戦争特需を背景に乾電池メーカーとして経営基盤を固め、後にフェライトの研究から電子事業にも着手。

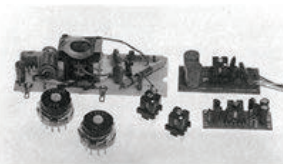
- 1950年 東京電気化学工業株式会社設立
マンガン乾電池製造・販売開始
- 1958年 富士電気化学株式会社に社名変更
- 1959年 フェライト製造開始
- 1960年 コアメモリ製造開始、電子部品業界に進出
- 1967年 アルカリ乾電池製造開始
- 1969年 東京証券取引所第二部上場
- 1972年 富士通グループに入る
- 1973年 DC-DC コンバータ発売
- 1975年 ステッピングモータ発売



ノーベル乾電池(マンガン)



ノーベル乾電池(アルカリ)



DC-DC コンバータ

当時のコア技術

- 粉体技術
- 冶金技術
- 量産技術
- 材料技術

FDKグループの技術は1950年の創業当時の主製品であるマンガン乾電池の二酸化マンガンや炭素粉といった「粉」を取り扱う粉体技術や、粉を加工する冶金技術から始まりました。
1960年代にはテレビの爆発的な需要増により、ブラウン管で使用するフェライト(偏向ヨーク)が大幅に伸長し、マンガン乾電池で培った粉体技術や冶金技術が製品製造を支えました。
1970年代には冶金技術を応用したセラミック製品であるプザーや無線・通信機器用の誘電体フィルタ、ノイズフィルタを製造、販売いたしました。



HOME



INDEX

イントロダクション

FDKのアイデンティティ

Contents

TOP MESSAGE

事業紹介

財務・非財務ハイライト

FDKの歩み

外部環境

強み

FDKグループの価値創造ストーリー

サステナビリティ

財務情報

概要、グループ会社



INDEX

イントロダクション

FDKのアイデンティティ

Contents

TOP MESSAGE

事業紹介

財務・非財務ハイライト

FDKの歩み

外部環境

強み

FDKグループの価値創造ストーリー

サステナビリティ

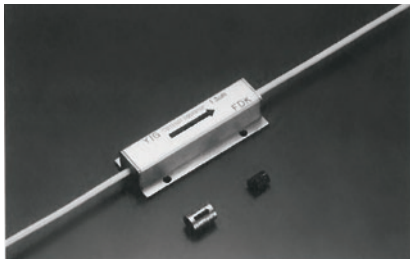
財務情報

概要、グループ会社

1981

ハイライト1

1982年
富士電気化学と情報通信を支えた
光アイソレータ開発



1980年以降、大量の情報を高速で伝達する光ファイバー通信が実用段階となり、YIG単結晶を用いたアイソレータや、光スイッチが光通信における重要材料として注目され、1982年に高性能光アイソレータ、光アイソレータモジュールを開発し、日米情報伝達の中核として役割を果たしました。

ハイライト2

1984年9月1日
東京証券取引所第一部上場



1979年の第二次石油ショックの影響を受け、厳しい経営環境が続きましたが、積極的な設備投資と生産体制の拡充、合理化によりフェライト、ステッパモータ、磁気ヘッド、リチウム電池、アルカリ乾電池、高性能マンガン乾電池が伸長し、1984年9月1日に東京証券取引所市場第一部上場を果たしました。

2000

拡大・グローバル化

電子事業の開花と、リチウム電池の発売。日本からグローバルへ生産拠点と販売網の拡大。

1981年 FUCHI ELECTRONICS CO., LTD. 設立、ロータリートランス発売

1982年 光アイソレータ開発

1983年 リチウム電池発売、トナー発売

1984年 東京証券取引所第一部上場

1992年 FDK ELECTRONICS GMBH 設立、無水銀アルカリ乾電池発売

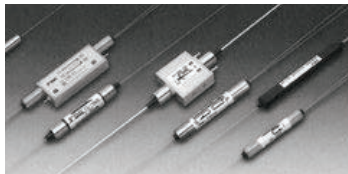
1993年 光スイッチ開発

1994年 XIAMEN FUCHI ELECTRONICS CO., LTD. 設立
(現: XIAMEN FDK CORPORATION)

1999年 積層チップパワーインダクタ発売



XIAMEN FDK CORPORATION



光通信用部品



ロータリートランス

当時のコア技術

■ 磁気回路技術

■ 積層技術

■ 電池加工技術

■ ハイブリッド・モジュール技術

■ 無水銀・無カドミウム技術

1980年代にはそれまでに培った粉体技術と冶金技術を応用した磁気回路技術をもって、VTR(ビデオテープレコーダー)で使用されたロータリートランスやフロッピーディスクで使用された磁気ヘッドが開発・製造され当時の主製品となりました。

1990年代には携帯電話が流行し、ハイブリッド・モジュール技術をもってVCO(電圧制御発振器)を開発・製造し、電波発信機能で使用されました。



INDEX

イントロダクション

FDKのアイデンティティ

Contents

TOP MESSAGE

事業紹介

財務・非財務ハイライト

FDKの歩み

外部環境

強み

FDKグループの価値創造ストーリー

サステナビリティ

財務情報

概要、グループ会社

2001

ハイライト 1

2001年1月
FDK株式会社に社名変更

FDK

2001年1月1日、創立50周年を機会に社名を「富士電気化学株式会社」から「FDK株式会社」に改めました。電子製品の登録商標であった、「FDK」に社名を統一し、グローバル企業グループとしての姿勢を示し、21世紀に向け新生FDKが誕生しました。

ハイライト 2

2025年3月
SILITECH TECHNOLOGY
CORPORATIONが筆頭株主に

SILITECH × FDK

2025年3月21日、SILITECH社による当社株式のTOBが完了したことにより当社は1972年から所属していた富士通グループから離脱し、SILITECH社が当社の筆頭株主となりました。当社は、SILITECH社との様々なシナジーで企業価値を向上させ、すべてのステークホルダーの皆様の期待に応えてまいります。

現在

成長のための選択と集中

効率的な生産体制とコスト削減によるローコストマニュファクチャリング体制。
コア事業での利益ある成長と新事業の立ち上げ。

2001年	FDK株式会社に社名変更
2002年	世界最小の可変光アッテネータを開発
2009年	ステッピングモータ事業をミネベア株式会社に譲渡 東京証券取引所市場第二部に指定替え
2010年	三洋電機株式会社より三洋エナジートワイセル株式会社(ニッケル水素電池事業)および三洋エナジー鳥取株式会社(リチウム電池事業)を譲受
2012年	低自己放電型ニッケル水素電池発売
2015年	光部品事業を湖北工業株式会社に譲渡 富士通テレコムネットワークス株式会社より、電源事業を譲受
2018年	新事業への投資のための第三者割当による第1回新株予約権の発行
2019年	フェライト・コイルデバイス・積層パワーインダクタ・セラミックス部品事業を 長野日本無線株式会社に譲渡 SMD対応全固体電池のサンプル出荷開始 FDKグループ戦略Framework「10年の計」を公表
2020年	FDKグループ経営理念を制定
2022年	東京証券取引所の市場区分の見直しにより市場第二部からスタンダード市場へ移行
2023年	Bluetooth® Low Energy モジュールのサンプル出荷開始
2024年	BAOTOU SANTOKU BATTERY MATERIALS CO., LTD(電池材料および希土合金)を譲受
2025年	SILITECH TECHNOLOGY CORPORATION が筆頭株主に就く
2026年	FUCHI ELECTRONICS CO.,LTD. を存続会社とし、FDK TAIWAN LTD. を消滅会社として吸収合併

旧三洋エナジートワイセル株式会社
(現高崎工場)旧三洋エナジー鳥取株式会社
(現鳥取工場)旧BAOTOU SANTOKU
BATTERY MATERIALS CO., LTD
(現BAOTOU FDK CO., LTD.)

現在のコア技術

■ 電気化学技術

■ パワーエレクトロニクス技術

■ 回路技術

■ ファイン印刷技術

■ 高密度実装技術

■ CAE技術

■ 素材技術

2000年頃にはパワーエレクトロニクス技術が台頭し、液晶パネルなどで使用された画面を発光させるインバータトランスが事業を支えました。

その後、2010年には三洋電機株式会社より三洋エナジートワイセル株式会社と三洋エナジー鳥取株式会社を譲受し、電池が事業を支える時代となりました。

電池の開発においては希土材料を扱う素材技術と、電池製品と電子製品を組み合わせる電気回路技術が培われました。

また、近年では今までに培ってきた粉体技術や積層技術、素材技術を用いた全固体電池やニッケル亜鉛電池、株式会社三徳より譲受したBAOTOU FDKにて水素吸蔵合金の製造・開発を行なっております。

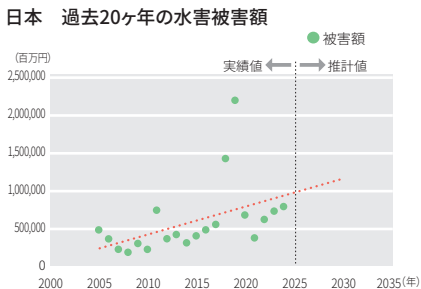
外部環境

外部環境の認識

気候変動・自然災害の激甚化

気候変動の進行に伴ない、豪雨や洪水等の自然災害が激甚化しており、日本国内では水害による経済損失や保険金支払額が高水準で推移しています。また、将来に向けて極端降雨の発生頻度や強度の増加が予測されており、防災・減災への社会的要請が一層高まることが見込まれます。

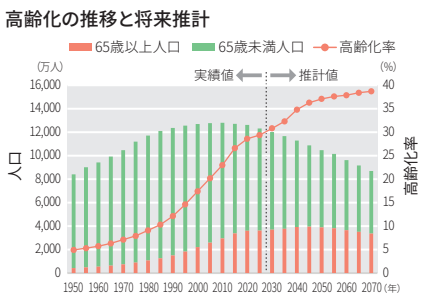
出典：国土交通省 水害統計調査データより FDK にて作成、2024 年実績は暫定値を使用。
<https://www.e-stat.go.jp/stat-search?page=1&toukei=00600590&survey=%E6%B0%B4%E5%AEB3%E7%B5%B1%E8%A8%88%E8%AA%BF%E6%9F%BB>



少子高齢化・労働力不足

日本では総人口の減少と高齢化が進行しており、高齢化率は1950年の4.9%から2025年には29.4%まで上昇し、2040年には34.8%に達すると予測されています。その結果、生産年齢人口は今後も継続的に減少する見通しであり、多くの産業で労働力不足の深刻化が懸念されています。このような環境変化を背景に、自動化・省人化・DXへの投資需要が拡大しています。

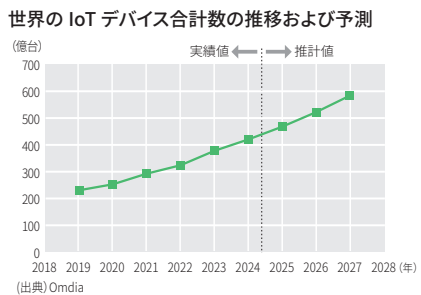
出典：令和8年版高齢社会白書 - 内閣府
https://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2026/zenbun/08pdf_index.html



デジタル社会の進展

AI活用の拡大やIoT化の進展により、社会全体でセンサー、通信機器およびデータ活用基盤の整備が加速しています。製造業、物流、社会インフラ、医療、農業など幅広い分野でIoT機器の導入が進むとともに、スマートメーターや通信インフラ、データセンターへの投資拡大が見込まれています。IoT接続機器数は今後も大幅な増加が予測されており、Smart社会を支える電源需要の拡大が期待されています。

出典：「令和7年版情報通信白書」(総務省)
<https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/r07/html/datashu.html#f00231>



リスク

- 事業継続リスク増大
- サプライチェーン不安定化
- 環境規制強化

機会

- 安心安全な電気エネルギーの需要拡大
- 防災・減災市場拡大
- 持続可能な社会・地域への貢献

リスク

- 人材確保競争激化
- 技能伝承停滞
- 労働力不足による成長制約

機会

- 自動化・省人化需要拡大
- 多様な人材活躍
- 人的資本価値向上

リスク

- 技術革新加速による事業環境変化
- 市場ニーズの変化
- 競争激化

機会

- Smart社会関連市場拡大
- 新たな価値創造
- 事業ポートフォリオ拡大



INDEX

イントロダクション

FDKのアイデンティティ

Contents

TOP MESSAGE

事業紹介

財務・非財務ハイライト

FDKの歩み

外部環境

強み

FDKグループの価値創造ストーリー

サステナビリティ

財務情報

概要、グループ会社

強み

技術体系

FDKグループの強みは、多様な製品群を支える技術体系にあります。その技術体系は、材料（粉体）からシステム製品に至るまでの垂直統合型ポートフォリオを実現する「電池・電子デバイス技術」と、製品開発を支える「基盤技術」で構成されており、グループの事業基盤を支えています。

システム化技術

熱設計技術

充電制御技術

ファームウェア技術

熱設計技術

溶接技術

製造プロセス技術

電池設計技術

素材技術



蓄電システム



大型カスタム電源



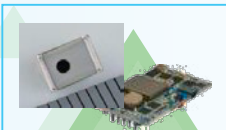
各種電源



電池パック



ニッケル亜鉛電池



全固体電池



ニッケル水素電池



アルカリ乾電池



リチウム電池

Synergy
シナジー

電池

電子デバイス



センサー製品



小型樹脂パッケージ製品

システム化技術

ファームウェア技術

熱設計技術

パワーエレクトロニクス技術

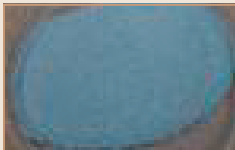
高周波・無線回路技術

小型モジュール技術

実装技術

セラミックス技術

パウダー技術



亜鉛合金粉



二酸化マンガン



水素吸蔵合金



球状水酸化ニッケル



高電位 LCPO



粉砕トナー



HOME



INDEX

イントロダクション

FDKのアイデンティティ

Contents

TOP MESSAGE

事業紹介

財務・非財務ハイライト

FDKの歩み

外部環境

強み

FDKグループの価値創造ストーリー

サステナビリティ

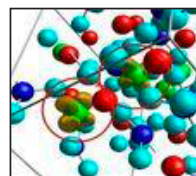
財務情報

概要、グループ会社

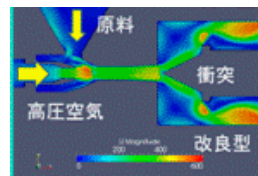
基盤技術

FDKグループの基盤技術は、「CAE技術」「分析解析技術」「生産技術」の3つで構成されています。これらの技術は、電池・電子デバイス技術を支える横断的な技術基盤として、材料開発から製品設計、生産プロセスの最適化に至るまで幅広く活用されています。CAE技術によるシミュ

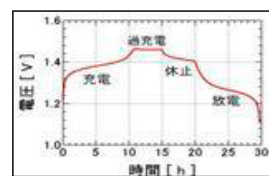
CAE技術



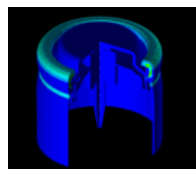
素材



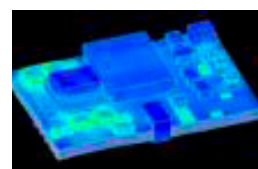
粉体プロセス



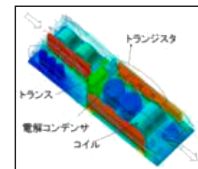
電池充放電特性予測



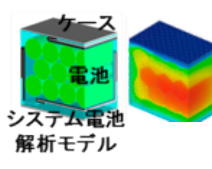
電池封口プロセス



熱・実装



電源モジュール
熱・流体解析



蓄電モジュール
熱・流体解析

Pick Up: CAE技術

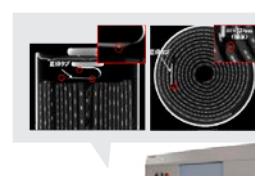
CAEとは「Computer Aided Engineering」の略です。コンピューターで原理・原則あるいは自然科学法則に基づいた理論式を用いて演算をすることで、応力・強度や発熱、抵抗の計算に試作や実験を必要としないというメリットをもたらしています。

製造の設計支援やプロセス改善、あるいはトラブル発生時の原因究明や対策立案のために従来必要としていたものづくりを省略できることから、FDKグループ全体の開発効率・開発スピードアップに大きく貢献しています。

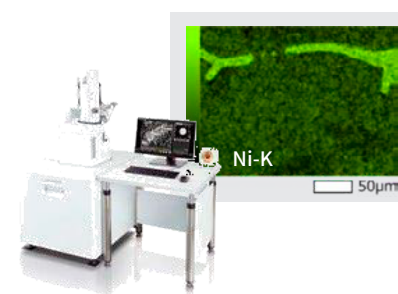
レーションを活用した設計精度の向上、分析解析技術による現象の可視化と原因究明、生産技術による高品質かつ高効率な製造プロセスの実現を通じて、研究開発から量産までの各段階で技術力を発揮しています。

これらの基盤技術の高度化と融合を継続的に推進することで、社会課題の解決に貢献する製品・サービスの創出と、持続可能な成長を支える競争力の強化を図っています。

分析解析技術



CT (コンピューター断層撮影)



SEM (走査型電子顕微鏡)



XRD
(X線回折装置)

生産技術 (要素技術開発部隊を擁する)



自動化しやすい電池パック構造



充放電制御技術



位置検出技術
地図作成技術



HOME



INDEX

イントロダクション

FDKのアイデンティティ

Contents

TOP MESSAGE

事業紹介

財務・非財務ハイライト

FDKの歩み

外部環境

強み

FDKグループの価値創造ストーリー

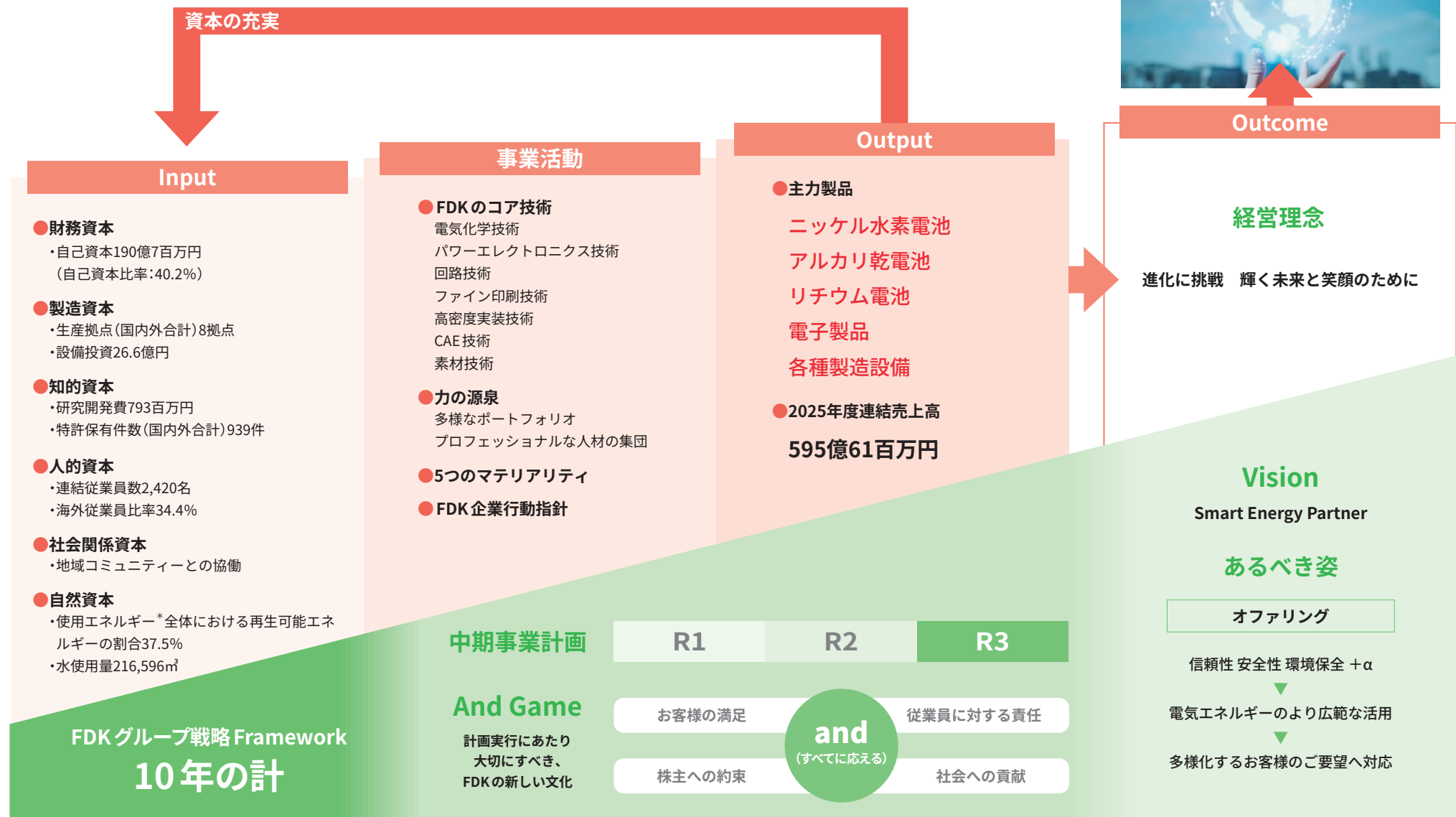
サステナビリティ

財務情報

概要、グループ会社

価値創造モデル

FDKグループは、これまでの76年の歴史を通じて培ってきた人的資本や、製造資本を総合的に活用しながら多くの電池・電子製品を送り出してきました。そして、「進化に挑戦 輝く未来と笑顔のために」という経営理念のもと、「持続可能な社会への貢献」のため、FDKグループのあるべき姿、Visionを追求し続けてまいります。



*使用エネルギーは電気エネルギーを指します。再生可能エネルギーの割合には非化石証書の割合を含みます。



HOME



INDEX

イントロダクション

FDK グループの価値創造ストーリー

価値創造モデル

6つの資本

FDKグループ戦略Framework「10年の計」

中期事業計画 「R2」の振り返り

新中期事業計画 「R3」

現行ビジネスの多角的拡大

財務戦略

サステナビリティ

財務情報

概要、グループ会社

6つの資本

項目	財務資本	製造資本	知的資本	人的資本	社会関係資本	自然資本
概要	事業を支える資金	生産設備・施設などの製造基盤	技術ノウハウ・特許・ブランドなどの知的財産	人材の能力・経験・意欲	顧客・地域との信頼関係	水・森林などの環境資源
資本の具体例と実績・目標	■ ROIC 3.3% (2024年度実績) 4.2% (2025年度実績) ⇒目標5.5% (「R3」期間累計) ■ 自己資本比率 35.2% (2025年3月末実績) 40.2% (2026年3月末実績) ■ 自己資本 16,302百万円 (2025年3月末実績) 19,007百万円 (2026年3月末実績)	■ 国内外生産拠点ネットワーク 国内事業所 4工場 生産関連会社 国内1社、 海外3社 ■ 設備投資額 25.4億円 (2024年度実績) 26.6億円 (2025年度実績) ■ FDK エンジニアリングによる 生産設備の開発・製作能力 自動車関連向けフルオートメー ション設備等の提供	■ 特許保有件数 895件 (国内505件、外国390件) (2025年3月末実績) 939件 (国内511件、外国428件) (2026年3月末実績) ■ 研究開発費 747百万円 (2024年度実績) 793百万円 (2025年度実績) ■ 次世代電池 (全固体電池・ニッケル 亜鉛電池等) の開発	■ 連結従業員数 2,405名 (2025年3月末実績) 2,420名 (2026年3月末実績) ■ 海外従業員比率 31.9% (2025年3月末実績) 34.4% (2026年3月末実績) ■ 女性管理職比率 2.6% (2025年3月末実績) 2.9% (2026年3月末実績) ⇒目標 4.4% (2031年3月)	■ 社会インフラを支える顧客基盤 スマートメーター・車載・防災用途へ の製品提供 ■ サプライチェーンとの協働 CSR調査 245社 (2024年度実績) 255社 (2025年度実績) ■ ステークホルダーとの対話・情報発信 太陽とツナガル電池の音コンサート開催 17回 (2024年度実績) 16回 (2025年度実績) ソナエルRadioによる防災情報発信 統合報告書発行	■ 使用エネルギー全体における再生可能 エネルギーの割合 24.0% (2024年度実績) 37.5% (2025年度実績) ⇒目標 100% (2030年度) ■ 廃棄物のリサイクル率 85.4% (2024年度実績) 74.8% (2025年度実績) (ケミカルリサイクル、マテリアルリサイクル、 サーマルリサイクル) ■ 水使用量 224,210m ³ (2024年度実績) 216,596m ³ (2025年度実績)
強み	■ 9期連続黒字を支える収益 基盤 ■ 自己資本比率向上による 財務健全性の改善 ■ ROICを重視した経営基盤	■ 国内外生産拠点による安定 供給体制 ■ 製造設備の内製化による高い 生産技術力 ■ 高品質・高信頼性を支える モノづくり基盤	■ 長年培った電池技術・素材技術 ■ 顧客ニーズに応える、材料から 製品まで一貫して生み出す開発・ 製品設計力 ■ 次世代電池の研究開発力	■ 電池・電子部品分野における専門 人材層 ■ 開発・製造・品質保証が一体と なったモノづくり力 ■ グローバル事業を支える多様な 人材層	■ 社会インフラを支える顧客との信頼 関係、地域社会との共創基盤 ■ 顧客課題を解決する提案力・実行力 ■ サプライチェーンとの協働基盤	■ 環境価値を生む幅広い電池・電子製品群 ■ 再生可能エネルギー社会の実現に貢献 する次世代電池の開発 ■ 環境マネジメント基盤
課題	■ 成長投資と資本効率向上の 両立 ■ 適切なキャッシュアロケー ション	■ 自動化・DX化の推進 ■ エネルギーコスト・環境負荷へ の対応	■ 次世代技術・新製品の創出 ■ 開発成果の迅速な事業化・量産化	■ 高度専門人材の確保・育成 ■ 技能・ノウハウの継承強化	■ 社会課題解決に向けた顧客・地域と の連携強化 ■ 社会的価値の発信強化	■ エネルギー消費製造工程の脱炭素化 ■ 環境規制対応 (欧州電池規則等)
経営戦略における 強化策	■ ROICを重視した経営の推進 による資本効率の向上 ■ 電池事業を中心とした成長 分野への重点投資の実施 ■ 収益性改善・棚卸資産管理 強化によるキャッシュ創出力 の向上	■ DX・AI・自動化による生産性 向上 ■ 工場再編・設備投資による 競争力強化 ■ 省エネ設備導入による環境 負荷低減	■ 次世代電池および新エネルギー 領域における研究開発の強化 ■ 特許・ノウハウの活用による差別化 製品の創出 ■ 顧客との共創による新製品開発の 推進	■ 戦略的人材ポートフォリオの構築 ■ 次世代電池、DX、品質保証、生産 技術など重点領域人材の育成・ 確保 ■ DE&I (ダイバーシティ・エクイティ &インクルージョン) の推進と次世 代リーダー育成	■ 社会インフラ分野での顧客接点拡大 ■ 地域社会や自治体との連携強化 ■ ステークホルダーとの継続的なエン ゲージメント推進	■ 高効率設備導入、再生可能エネルギー 利用拡大による生産拠点の脱炭素化 ■ リサイクル材利用拡大、電池回収ス キーム強化による資源循環の高度化 ■ 次世代電池開発の加速に伴うレアメタル 依存低減、安全性向上、環境負荷低減



HOME



INDEX

イントロダクション

FDK グループの価値創造ストーリー

価値創造モデル

6つの資本

FDK グループ戦略Framework「10年の計」

中期事業計画 「R2」の振り返り

新中期事業計画 「R3」

現行ビジネスの多角的拡大

財務戦略

サステナビリティ

財務情報

概要、グループ会社



HOME



INDEX

イントロダクション

FDK グループの価値創造ストーリー

価値創造モデル

6つの資本

FDKグループ戦略Framework「10年の計」

中期事業計画 「R2」の振り返り

新中期事業計画 「R3」

現行ビジネスの多角的拡大

財務戦略

サステナビリティ

財務情報

概要、グループ会社

Vision 2029年のFDKの到達点

FDKグループは、Smart Energy Partnerとして、先進技術を結集し、お客様に電気エネルギーを安心して効率的に活用いただき、持続可能な社会の実現と発展に貢献します。

実現すべき企業像

あるべき姿 Visionが実現された状態の定義

- 誰に 人々の暮らしと社会を支える企業と個々のユーザーに
- 何を クリーン且つ、安全な電気エネルギーを安定的に活用できるオファリングを届ける（電池／ものづくり、次世代電池、パワーマネジメントソリューション）
- いつ 2029年
- 目標 売上800億円（うち新事業30%）
営業利益率7.5%

FDKグループ戦略Framework
「10年の計」

FDKグループは、さらなる経営体質強化と企業価値の向上を図り、様々なステークホルダーの期待にお応えすべく、2019年度にグループ戦略Framework「10年の計」を公表しました。「10年の計」では、2029年に当社グループが実現すべき企業像や実現へのロードマップ、計画実行にあたり大切にすべき価値観を定義しています。

十年之計
莫如樹木

十年の計は木を植えるに及ぶものはない(管子より)

And Game 計画実行にあたり大切にすべき、FDKの新しい文化

お客様の満足

and

従業員に対する責任

(すべてに應える)

株主への約束

社会への貢献

中期事業計画 Vision・あるべき姿を実現するためのロードマップ

R1

2020～2022

R2

2023～2025

R3

2026～2028

中期事業計画 「R2」の振り返り

中期事業計画「R2」では、「主力ビジネスの利益ある成長の加速」「新規ビジネスの始動と開拓」「認め合い・高め合う文化の醸成」を重点方針として掲げ、事業基盤の強化と将来成長に向けた取り組みを推進しました。外部環境の変化に直面しながらも、事業構造改革や高付加価値製品へのシフトを進めることで収益力の改善を図り、次の成長ステージへの土台構築に取り組みました。

中期事業計画「R2」三本柱の振り返り

「R2」では、三本柱に基づき各事業の競争力強化と新たな成長機会の創出を推進しました。主力ビジネスでは、車載用途や産業用途など成長市場への展開を進めるとともに、高付加価値製品へのシフトや生産体制の最適化を推進し、収益力向上に取り組みました。新規ビジネスでは、

ニッケル亜鉛電池や全固体電池など次世代技術の研究開発を進めるとともに、水素社会を見据えた新たな取り組みを推進しました。一方で、事業環境の変化への対応や新規事業の早期事業化、人材戦略およびガバナンス強化などの課題も認識しており、「R3」においてこれらの取り組みをさらに発展させていきます。

三本柱	①主力ビジネスの利益ある成長の加速	②新規ビジネスの始動と開拓	③認め合い・高め合う文化の醸成
成果	● 伸びる市場・付加価値の高い市場への注力 ・ ニッケル水素：車載用途の売上拡大、工業用途など高付加価値モデルへの転換 ・ リチウム電池：高容量電池 CR17500EX の開発 ・ エンジニアリング：xEV 用設備の獲得と着実な実行 ・ 電子：Bluetooth® Low Energy モジュールの量産 ● 構造改革による事業規模の適正化 ・ ニッケル水素：内製化推進によるコストダウン対応 ・ リチウム電池：工程移設など設備集約を進め、事業拡大への基盤固めを実行	● ニッケル亜鉛電池 ・ 技術的課題（充放電サイクル等）の目標クリア ・ 顧客と協業し、実証試験開始／サンプル出荷の拡大 ● 全固体電池 ・ 電池特性・品質改善の進捗／量産体制の構築 ● パワーソリューション ・ 電池バック・ソリューション開発におけるフィールドテストに向けた活動への移行 ● 水素吸蔵合金 ・ 水素社会実現に向けて、水素貯蔵タンク用高容量 AB2 型水素吸蔵合金を開発	● 各自が能力を発揮できる仕組みの構築 ・ 人的資本経営の実現に向けた基盤構築と施策推進 ・ タレントマネジメントの強化と人材活用 ・ DX 推進によるビジネスモデルの変革と業務プロセスの再設計／「DX 認定」取得 ● ガバナンスを含む経営の質の向上 ・ コンプライアンス体制強化や教育の充実、内部通報制度の周知
改善すべき点	・ 外部環境変化への対応（中国レアアース輸出規制、米国相互関税対応） ・ リチウム電池の旺盛な需要への対応	● ニッケル亜鉛電池 ・ 市場実績の蓄積、認知度の向上 ● 全固体電池 ・ ターゲット市場の見極め、事業化の大幅遅延	・ 若手世代の不足／高齢層の活用／グローバルな採用戦略の構築 ・ リスクマネジメントの実効性向上／グローバルな危機管理体制の構築



INDEX

イントロダクション

FDK グループの価値創造ストーリー

価値創造モデル

6つの資本

FDK グループ戦略 Framework「10年の計」

中期事業計画 「R2」の振り返り

新中期事業計画 「R3」

現行ビジネスの多角的拡大

財務戦略

サステナビリティ

財務情報

概要、グループ会社

中期事業計画「R2」財務目標の振り返り

成果

- 売上減も、高付加価値製品へシフトし、営業利益率は伸長
- 減資欠損てん補を実行し、累損解消

高付加価値製品へのシフトや構造改革を継続的に推進した結果、営業利益率は2019年度の1.4%から2025年度には2.8%へ改善しました。また、資本政策の実施により欠損金を解消し、財務基盤の健全化を進めました。収益力と財務体質の両面で改善が進み、今後の成長に向けた基盤整備に一定の進展が見られました。

未達

- 売上高は全年度で計画未達
- 営業利益は初年度以降、計画未達成
- ROICは全年度で計画未達

事業環境の変化や市場需要の変動などの影響を受け、売上高は各年度とも計画値には届きませんでした。営業利益率およびROICについては、目標水準には届かなかったものの、着実な改善基調を維持しました。これらの結果を踏まえ、事業ポートフォリオの強化や資本効率の向上に取り組み、持続的な成長と収益力向上の実現を目指していきます。

年度別財務目標達成状況

	2019年度 (Year0) 実績	2023年度 実績	2024年度 実績	2025年度 実績	中期事業計画「R2」 2025年度 (目標)
連結売上高 (億円)	621.2	626.7	631.7	595.6	678.8
営業利益率	1.4%	0.9%	2.2%	2.8%	4.1%
ROIC	2.1%	0.1%	3.3%	4.2%	8.5%
新事業への投資等 (億円)	0.6	0.3	1.0	0.8	9.2

累計財務目標達成状況

	2023-2025年度 実績	中期事業計画「R2」 期間累計(目標)
連結売上高 (億円)	1,854	2,000
営業利益率	2.0%	2.5%
ROIC	2.5%	5.0%
新事業への投資等 (億円)	2.1	



INDEX

イントロダクション

FDK グループの価値創造ストーリー

価値創造モデル

6つの資本

FDKグループ戦略Framework「10年の計」

中期事業計画「R2」の振り返り

新中期事業計画「R3」

現行ビジネスの多角的拡大

財務戦略

サステナビリティ

財務情報

概要、グループ会社

新中期事業計画 「R3」

「R1・R2」を通じて進めてきた構造改革や事業基盤の強化を踏まえ、新中期事業計画「R3」では持続的成長の実現に向けた取り組みを加速します。
現行ビジネスの拡大と新たな事業ポートフォリオの構築を進めるとともに、挑戦と成長を支える企業文化の醸成を通じて、中長期的な企業価値向上を目指します。

「R3」の三本柱

「R1」および「R2」を通じて進めてきた構造改革や事業基盤の整備、財務体質の強化を土台として、新中期事業計画「R3」では持続的成長の実現に向けた取り組みを一層加速します。「現行

ビジネスの多角的拡大」により既存事業の成長機会を深耕するとともに、「事業ポートフォリオの多様化」により新たな収益の柱を育成します。さらに、「失敗に学び、成長を実感できる文化の醸成」を通じて、従業員一人ひとりの挑戦を後押しし、企業としての競争力向上を図ります。これら三本柱を通じ、企業価値の持続的向上につなげてまいります。

①現行ビジネスの多角的拡大	②事業ポートフォリオの多様化	③失敗に学び、成長を実感できる文化の醸成
● 伸びる市場の追求と深掘り： 顧客ポートフォリオ・製品アプリケーションの拡大 ● 付加価値の増大： 製造体制の最適化・サービス／サポートの拡充 	● 新テクノロジー製品の開発加速： 次世代電池・パワーソリューション・次々世代電池 ● 新ビジネスの開拓： 既存テクノロジーの活用・新たなビジネスモデルの模索 	● 「果敢に挑戦し、失敗を投資として、将来の価値を生み出す」 風土づくり ● 従業員の多様性を活用して、付加価値を生み出す仕組みづくり 



INDEX

イントロダクション

FDK グループの価値創造ストーリー

価値創造モデル
6つの資本
FDKグループ戦略Framework「10年の計」
中期事業計画 「R2」の振り返り
新中期事業計画 「R3」
現行ビジネスの多角的拡大
財務戦略

サステナビリティ

財務情報

概要、グループ会社



INDEX

イントロダクション

FDK グループの価値創造ストーリー

価値創造モデル

6つの資本

FDKグループ戦略Framework「10年の計」

中期事業計画「R2」の振り返り

新中期事業計画「R3」

現行ビジネスの多角的拡大

財務戦略

サステナビリティ

財務情報

概要、グループ会社

経営目標① 新たな経営環境下での安定的事業運営

新たな株主構成のもとで、事業環境の変化に柔軟に対応しながら、安定的な事業運営と持続的成長の両立を目指します。既存事業では成長市場の深耕や高付加価値化を進めるとともに、新規事業では次世代電池やパワーマネジメントソリューションなどの育成を推進します。これにより収益基盤の強化と事業ポートフォリオの多様化を図り、中長期的な企業価値向上につなげていきます。「R3」期間においては売上高2,000億円、営業利益70億円、ROIC5.5%、営業キャッシュ・フロー150億円を目標として掲げています。

	R1期間 累計実績	R2期間 累計実績	R3期間 累計目標		10年の計 2029年度目標
連結売上高 (億円)	1,857	1,854	2,000	連結売上高 (億円)	800
営業利益 (億円)	46	36	70	売上高に占める 新規事業の割合	30%
ROIC	4.30%	2.50%	5.5% (最終年度 7.0%)	営業利益率	7.50%
営業 キャッシュ・フロー (億円)	69	65	150		

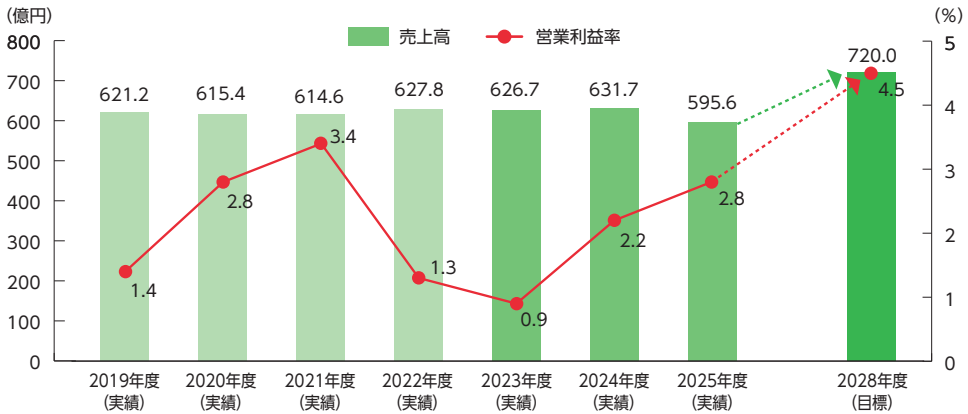
経営目標② ROIC向上に向けた取り組み

P31「資本効率の改善：ROIC向上に向けた取り組み」をご参照ください。

経営目標③ 経営基盤の強化

持続的な企業価値向上を支える基盤として、人材、DX、サステナビリティおよびガバナンスの強化に取り組みます。多様な人材が能力を発揮できる環境づくりを進めるとともに、デジタル技術を活用した業務改革や生産性向上を推進します。また、マテリアリティに基づくESG施策の推進やコーポレートガバナンスの強化を通じて、社会から信頼される企業を目指します。変化の激しい事業環境に対応できる強固な経営基盤を構築し、持続的な成長につなげていきます。

売上高・営業利益率



「R3」期間累計(目標)キャピタル・アロケーション方針

P30「財務戦略」をご参照ください。

現行ビジネスの多角的拡大

ニッケル水素電池事業

2025年度の事業概況

2025年度のニッケル水素電池事業は、海外向け市販・家電用途向けモデルの販売減少により減収となりましたが、車載用途を中心とした工業用途向けモデルへのシフトによる販売モデルミックスの改善に加え、VE (Value Engineering) 活動および製造工程の内製化推進を通じた収益性向上により、増益を確保しました。

上期は材料高騰影響により厳しい状況でしたが、下期にはVEの改善効果により、利益を改善することができました。

注力市場

新たな五本柱を主軸に、引き続き拡販活動を進めてまいります。



車載市場



電源バックアップ市場

取得済み特許件数

379 件

2025年度に取り組んだテーマ

ターゲットとする新たな五本柱市場の拡販

ニッケル水素電池事業では、2025年度に新たに設定した五本柱市場（車載／電源バックアップ／輸送機器／アライアンス／家電（市販／家電））への拡販を推進しました。

車載向けは、大手カスタマーの新規企画を獲得し拡販に成功しました。年々市場が拡大しており、幅広い温度環境下での性能と安全性が重視されるため、需要の高まりが期待されます。

電源バックアップ、輸送機器、アライアンス向けは、海外市場を視野に入れてさらなる拡販活動を進めてまいります。特に輸送機器向けでは、ニッケル水素電池は発火リスクが極めて低く航空機の安全運航に最適な高信頼電源としてご提案しております。

家電（市販／家電）向けでは、環境負荷低減に貢献するPFASフリー電池を市場投入し、サステナブルな製品として拡販活動を進めています。

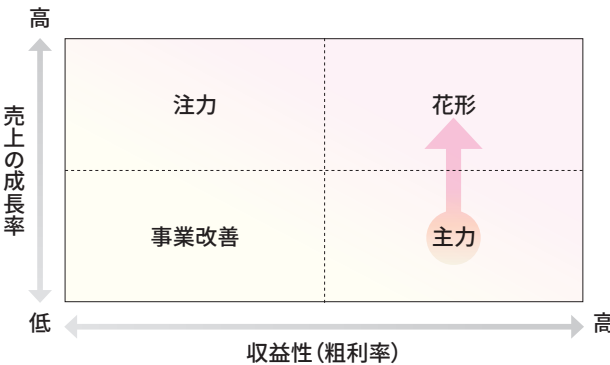
残された課題

電源バックアップ、輸送機器、アライアンス向けの拡販

2026年度に取り組むテーマ

新たな五本柱市場への拡販を推進する

事業ポートフォリオにおける位置づけ



関連するマテリアリティ

- 安心安全な電気エネルギーの提供
- 地球環境との共生

マテリアリティ達成に向けた取り組み

- 2025年度に新たに設定した五本柱カテゴリーへの拡販により、サステナブルな社会への貢献を推進



HOME



INDEX

イントロダクション

FDK グループの価値創造ストーリー

価値創造モデル

6つの資本

FDKグループ戦略Framework「10年の計」

中期事業計画 「R2」の振り返り

新中期事業計画 「R3」

現行ビジネスの多角的拡大

財務戦略

サステナビリティ

財務情報

概要、グループ会社

アルカリ電池事業

2025年度の事業概況

2025年度のアルカリ電池事業は、減収減益となりました。主な要因として、食品等の値上げに伴う消費者マインドの変化により、まとめ買いから必要量のみの購入へと購買行動が変化し、販売数量が減少したことが挙げられます。さらに、原材料価格は前年に引き続き高止まりし、円安の継続も影響して、亜鉛をはじめとする主要材料の調達コストが増加し、収益を圧迫しました。一方で、全社一丸となった原価低減活動を推進し、ムダの徹底排除や労務費・経費の削減を実行した結果、3年連続の営業利益の黒字を確保しました。

注力市場



スーパーマーケット市場



家電量販

取得済み特許件数

138 件

2025年度に取り組んだテーマ

収益力の強化に向けて

1収益構造改革の推進

原価低減活動の徹底（ムダ排除・コスト削減）
労務費・経費の最適化
他事業部と連携したグローバル調達の強化によるコスト抑制

2生産性・品質向上の取り組み

単1～単4電池のラベル貼り機導入
生産効率および品質向上の推進
全員参加型の改善活動の展開

3販路拡大と営業強化

GMS（総合スーパー）の新規開拓
家電量販店など既存ルートの深耕

4商品・技術開発

市場ニーズに対応した性能改良品の研究・量産試作
環境負荷低減型パッケージの開発継続

5構造改革の徹底

聖域なきコスト見直し
全方向でのムダ排除の徹底

残された課題

構造改革により収益体質の改善を実現したものの、今後の成長に向けた課題として以下が顕在化している。
ブランド転換期における市場競争力の強化
原価上昇環境下における価格戦略の最適化
生産基盤強化に向けた設備投資の必要性

2026年度に取り組むテーマ

2026年度は、Energizerブランドの本格展開による販売拡大、価格戦略の見直しによる収益性改善、および設備更新による生産基盤強化を柱に、持続的成長に向けた事業体質の転換を図る

事業ポートフォリオにおける位置づけ



関連するマテリアリティ

- 安心安全な電気エネルギーの提供
- 地球環境との共生

マテリアリティ達成に向けた取り組み

- 品質強化・供給安定化
- 資源効率向上（材料最適化・調達改革）
- 環境負荷低減（省資源・廃棄削減）
- アフォーダブル品質（低コスト×高品質）



INDEX

イントロダクション

FDK グループの価値創造ストーリー

価値創造モデル

6つの資本

FDKグループ戦略Framework「10年の計」

中期事業計画 「R2」の振り返り

新中期事業計画 「R3」

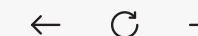
現行ビジネスの多角的拡大

財務戦略

サステナビリティ

財務情報

概要、グループ会社



INDEX

イントロダクション

FDK グループの価値創造ストーリー

価値創造モデル

6つの資本

FDKグループ戦略Framework「10年の計」

中期事業計画 「R2」の振り返り

新中期事業計画 「R3」

現行ビジネスの多角的拡大

財務戦略

サステナビリティ

財務情報

概要、グループ会社

リチウム電池事業

2025年度の事業概況

2025年度のリチウム電池事業は、国内市場は、セキュリティ・スマートメーター・住宅用警報器関連用途を中心に需要は堅調に推移しました。海外市場は、中東地域における地政学的リスクの高まりを背景に、リードタイムの長期化が顕在化しサプライチェーンに影響が生じました。また、米国の相互関税措置の影響もありました。

このように国内外で異なる事業環境のもと、需要対応と安定供給の維持に努め、事業運営を推進してまいりました。

注力市場



スマートメーター関連市場



産業・医療市場

取得済み特許件数

110 件

2025年度に取り組んだテーマ

新商品の量産体制および既存商品の増産体制の確立

リチウム電池事業では、高容量モデルCR17500EXの量産体制と既存商品の増産体制の確立に注力しました。CR17500EXについては、量産体制を構築するとともに出荷を開始し、今後の主力商品として市場展開を着実に進めております。お客様から信頼され継続的に選ばれる商品となるべく、さらなるビジネス獲得に向けた活動を推進してまいります。また、増加する受注に対応するため、一部の商品において生産能力の増強を進め、増産体制を確立することで売上拡大に寄与いたしました。

一方で、為替変動、原材料価格の変動、物価・人件費の上昇などの影響に対応するため、原価低減活動の推進や事業ポートフォリオの見直しを進め、環境変化に柔軟に対応可能な強固な事業基盤の構築を着実に図ってまいりました。

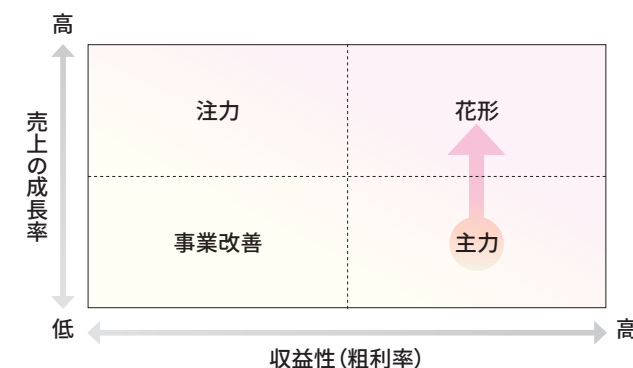
残された課題

- 新商品の販売拡大
- 継続した原価低減活動の推進

2026年度に取り組むテーマ

- 次世代モデルの商品開発
- 選択と集中による事業価値の向上

事業ポートフォリオにおける位置づけ



関連するマテリアリティ

- 安心安全な電気エネルギーの提供
- 地球環境との共生

マテリアリティ達成に向けた取り組み

- 高容量モデルの量産化
- 次世代モデルの開発
- 環境負荷低減に関する技術開発

設備関連ビジネス

2025年度の事業概況

2025年度の設備関連ビジネスにおいては、上期には自動車業界を中心に製造業の設備投資が堅調に推移しました。一方、下期においては、多くの顧客で投資計画の見直しや延期が見られたことから、結果として減収減益となりました。

特に、2024年度より継続していた自動車関連の大型設備のリピート案件および改造案件の受注は減少しましたが、収益性の維持に努め、一定の利益を確保しました。

注力市場



車載向け設備市場

取得済み特許件数

17 件

2025年度に取り組んだテーマ

将来を見据えた新規拡販強化

当社グループの設備関連ビジネスを担うFDKエンジニアリングでは、2025年度に複数のパートナー企業と協業体制を構築し、マーケティングの強化および拡販活動を通じて新たな分野での受注を獲得しました。

加えて、新規顧客の獲得および既存顧客の取りこぼし防止に努め、個々の引き合いに丁寧に対応することで、ビジネスの安定化と持続的な収益成長を図ってまいりました。

残された課題

- 積極的な営業活動で新規受注案件および顧客獲得
- 人員（設計・制御技術者）確保と人材育成
- 生産効率の向上および原価低減への取り組み

2026年度に取り組むテーマ

新規市場への拡販強化および新技術の獲得

- 半導体・AI関連設備など成長市場への拡販を推進
- 一次産業向け標準設備開発
- 協業会社との戦略的な受託・委託ビジネスの強化
- 画像検査装置ビジネスの推進

10年先を見据えた人材育成と人材確保

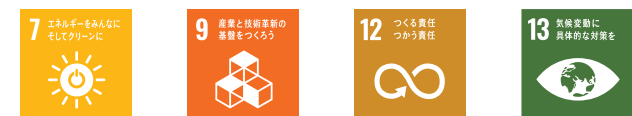
- 中堅・若手人材へのプロジェクトリーダー登用の推進
- 独自性のある企業アピール活動の展開

事業ポートフォリオにおける位置づけ



SDGs への取り組み

- メカ駆動技術を駆使した圧縮エア消費の削減によるエネルギー削減
- RoHS 指令に準拠した有害物質を使わない設備やフルオートメーション設備などの提供による、脱炭素や労働力不足などの課題解決への寄与



INDEX

イントロダクション

FDK グループの価値創造ストーリー

価値創造モデル

6つの資本

FDKグループ戦略Framework「10年の計」

中期事業計画 「R2」の振り返り

新中期事業計画 「R3」

現行ビジネスの多角的拡大

財務戦略

サステナビリティ

財務情報

概要、グループ会社

電子事業

2025年度の事業概況

2025年度の電子事業は、モビリティおよびタブレット向けを中心とした各種モジュール製品の需要減少に加え、液晶ディスプレイ用途の選択と集中に伴う一部製品の生産終了、ならびに半導体製造装置向けスイッチング電源における市場調整の影響を受けるなど、厳しい事業環境が継続し、減収減益となりました。一方で、トナー関連製品は堅調に推移するとともに、Bluetooth® Low Energyモジュールの量産受注を獲得、新モデルの開発に着手するなど、新規分野への展開を推進しております。今後も厳しい事業環境が見込まれる中、電子事業では新規ビジネスの獲得および既存顧客の深耕を継続しつつ、コスト構造改革を進め、収益性の改善と持続的な成長基盤の確立に取り組んでまいります。

注力市場



半導体・液晶市場



モビリティ市場

取得済み特許件数

161 件

2025年度に取り組んだテーマ

特定顧客への高い依存からの脱却とコストダウン推進

電子事業では、特定顧客・特定用途への依存度の高さや、コスト構造の硬直性が課題として顕在化しました。これらへの対応として、2025年度は特定顧客依存からの脱却を重要テーマと位置づけ、既存製品の差別化および用途拡張による拡販を推進するとともに、Bluetooth® Low Energyモジュールを軸とした新規顧客の獲得に取り組み、顧客基盤の多様化を進めました。

また、コスト競争力の強化に向けては、外部パートナーとの協業・連携を推進し、生産効率の向上およびサプライチェーンの最適化によるコストダウンを実施しました。これにより、固定費の削減および変動費化の促進を図り、収益改善に取り組みました。

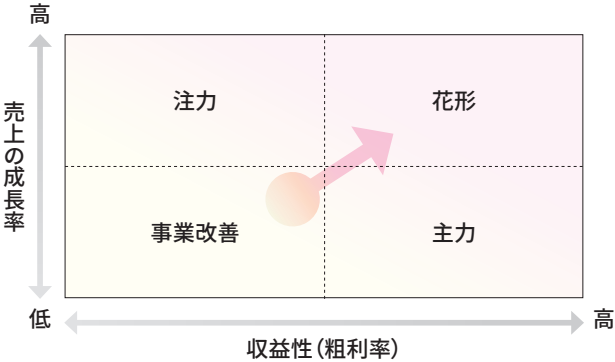
残された課題

- コスト構造改革
- 新規顧客獲得

2026年度に取り組むテーマ

- 差別化製品の開発、新規受注に向けた拡販
- コスト競争力の一層の強化

事業ポートフォリオにおける位置づけ



関連するマテリアリティ

- 安心安全な電気エネルギーの提供
- 地球環境との共生

マテリアリティ達成に向けた取り組み

- 既存顧客の深耕と新規顧客の開拓
- Bluetooth® Low Energyモジュールの拡販
新モデル Ver6の開発
- 全固体電池・パワーソリューションとの連携
- 他社との協業によるコストダウン



HOME



INDEX

イントロダクション

FDK グループの価値創造ストーリー

価値創造モデル

6つの資本

FDKグループ戦略Framework「10年の計」

中期事業計画 「R2」の振り返り

新中期事業計画 「R3」

現行ビジネスの多角的拡大

財務戦略

サステナビリティ

財務情報

概要、グループ会社

財務戦略

FDKグループは、持続的な成長と企業価値向上の実現に向け、収益性と資本効率を重視した財務戦略を推進しています。中期事業計画「R3」では、営業キャッシュ・フローの創出力向上を基盤として、成長投資、既存事業の強化および財務基盤の充実をバランス良く進めます。また、資本効率の指標としてROICを重視し、事業収益力の向上と投下資本の最適化を通じて、持続的な企業価値向上につなげていきます。

キャッシュ・フロー

財務健全性と成長投資のバランス

当社グループは、事業環境の変化に柔軟に対応できる財務基盤を維持しながら、将来の成長に向けた投資を着実に実行することを基本方針としています。自己資本比率については、財務の健全性と資本効率の両立を重視しており、事業環境の変化に耐え得る財務基盤を維持しながら適切な水準で管理しています。また、営業キャッシュ・フローの拡大を通じて投資原資を創出し、成長投資と財務基盤強化のバランスを図ることで、中長期的な企業価値向上につなげていきます。

キャピタル・アロケーション

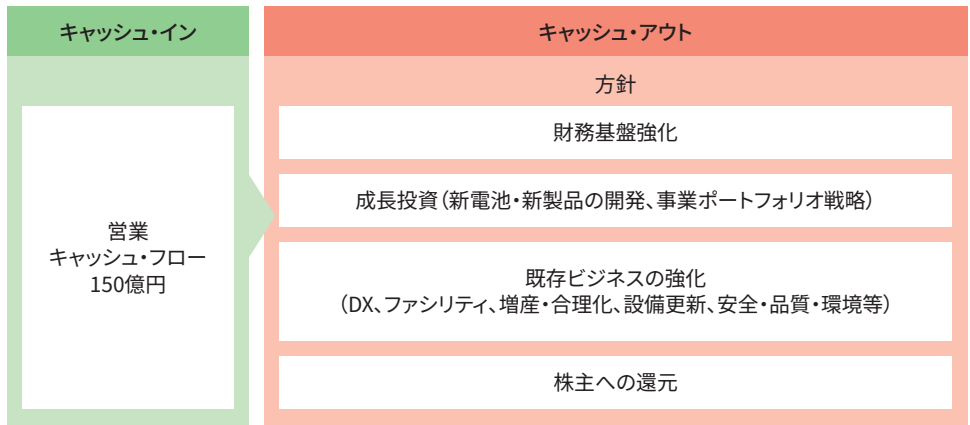
「R2」におけるキャピタル・アロケーションの振り返り

中期事業計画「R2」では、営業キャッシュ・フローを原資として、既存ビジネスの強化、新電池やDXを中心とした成長投資、ならびに財務基盤の強化に取り組みました。設備更新や生産性向上施策を通じて既存事業の競争力強化を進めるとともに、次世代電池など将来の成長につながるテーマへの投資を継続しました。一方で、事業環境の変化や開発テーマごとの進捗状況を踏まえ、投資の優先順位を柔軟に見直したことから、開発テーマごとの進捗や投資実行時期の見直しにより、一部の投資項目について当初計画との差異が生じました。今後も資本効率を意識しながら、成長につながる投資を厳選して実施していきます。

「R3」におけるキャピタル・アロケーション方針

中期事業計画「R3」では、事業環境の変化や成長機会に機動的に対応するため、用途別の固定的な投資枠は設けず、戦略との整合性や投資効果を重視して資源配分を行ないます。創出した営業キャッシュ・フローは、成長投資、既存ビジネスの強化および財務基盤強化に優先的に活用します。また、収益力や財務基盤強化の進捗を踏まえながら、株主への還元についても検討していきます。持続的成長による企業価値向上を最優先とし、資本効率を意識したキャピタル・アロケーションを推進します。

「R3」期間のキャピタル・アロケーション イメージ



INDEX

イントロダクション

FDK グループの価値創造ストーリー

価値創造モデル

6つの資本

FDKグループ戦略Framework「10年の計」

中期事業計画 「R2」の振り返り

新中期事業計画 「R3」

現行ビジネスの多角的拡大

財務戦略

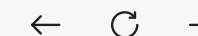
サステナビリティ

財務情報

概要、グループ会社



HOME



INDEX

イントロダクション

FDK グループの価値創造ストーリー

価値創造モデル

6つの資本

FDKグループ戦略Framework「10年の計」

中期事業計画 「R2」の振り返り

新中期事業計画 「R3」

現行ビジネスの多角的拡大

財務戦略

サステナビリティ

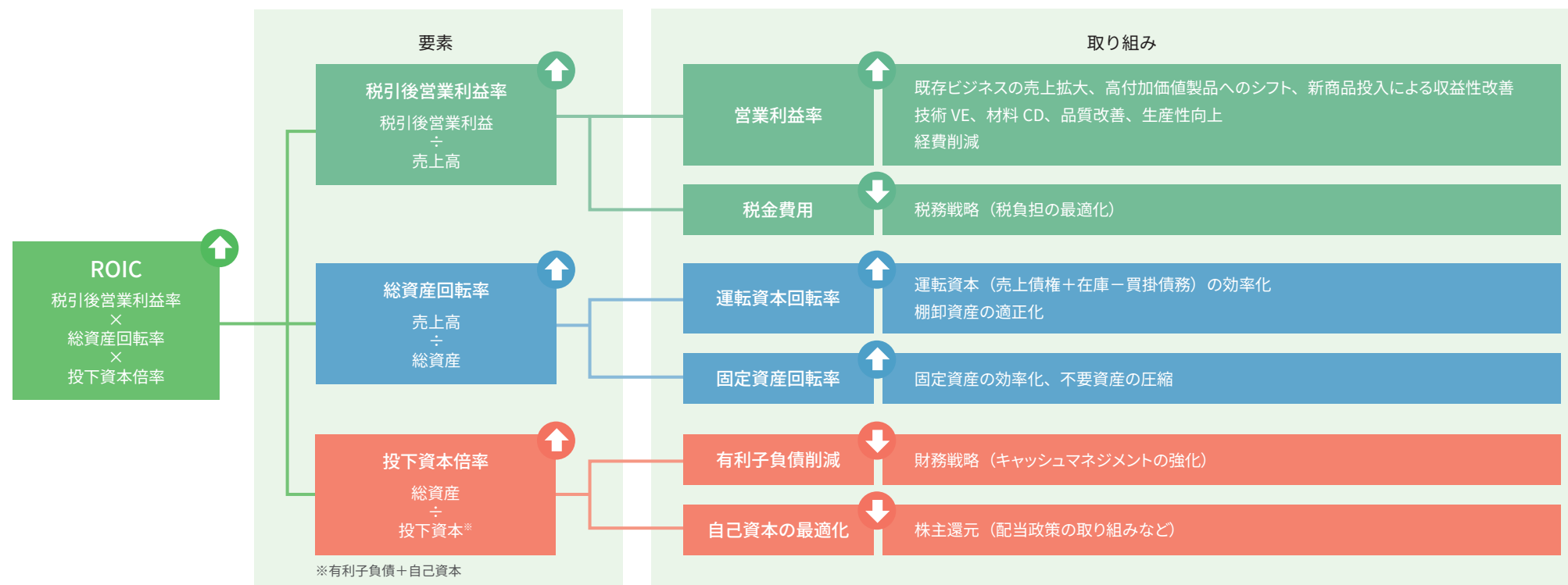
財務情報

概要、グループ会社

資本効率の改善: ROIC 向上に向けた取り組み

当社グループは、ROICを経営上の重要指標として位置づけ、収益性と資本効率の両面から企業価値向上を図っています。「R3」の三本柱である「現行ビジネスの多角的拡大」「事業ポートフォリオの多様化」「失敗に学び、成長を実感できる文化の醸成」を推進することで、売上成長と収益力向上を実現するとともに、投下資本の効率的な活用を進めます。また、運転資本の適正化や固定資産の有効活用、財務戦略の強化を通じて資本効率の改善を図り、持続的な企業価値向上につなげていきます。

ROIC分解ツリー



ROICを重視する理由

当社グループは、収益性だけでなく、事業に投下した資本をどれだけ効率的に活用できているかを重視していることから、ROICを重要な経営指標として採用しています。営業利益率は収益力を示す一方、ROICは収益力に加えて資産効率や財務効率も評価できるため、資本コストを意識した事業運営や投資判断に有効な指標です。今後もROICを軸とした経営を推進し、収益性と資本効率の向上を通じて企業価値向上を目指します。

FDK アイデンティティにおける「10年の計」×サステナビリティ経営

FDKのアイデンティティは、土台となる「Value(価値観)」と経営環境等の変化に応じて変えていく「戦略」、どのような経営環境下でも変化しない概念である「経営理念」から成り立っています。「Value(価値観)」の一つである、マテリアリティをもとにサステナビリティ経営を進め、企業価値向上に努めています。

掲げる理想

経営理念

進化に挑戦 輝く未来と笑顔のために

FDKグループ戦略 Framework「10年の計」

Vision

FDKグループは、Smart Energy Partnerとして、先進技術を結集し、お客様に電気エネルギーを安心して効率的に活用いただき、持続可能な社会の実現と発展に貢献します。

あるべき姿(Visionが実現されたと言える状態の定義)

誰に：人々の暮らしと社会を支える企業と個々のユーザーに
いつ：2029年
何を：クリーン且つ、安全な電気エネルギーを安定的に活用できるオフリングをお届けする（電池／ものづくり、次世代電池、パワーマネジメントソリューション）
目標：売上800億円（うち新事業30%）
営業利益率7.5%

中期事業計画「R3」(2026年度～2028年度)の三本柱

1 現行ビジネスの多角的拡大

- 伸びる市場の追求と深掘り：顧客ポートフォリオ・製品アプリケーションの拡大
- 付加価値の増大：製造体制の最適化・サービス／サポートの拡充

2 事業ポートフォリオの多様化

- 新テクノロジー製品の開発加速：次世代電池・パワーソリューション・次々世代電池
- 新ビジネスの開拓：既存テクノロジーの活用・新たなビジネスモデルの模索

3 失敗に学び、成長を実感できる文化の醸成

- 「果敢に挑戦し、失敗を投資として、将来の価値を生み出す」風土づくり
- 従業員の多様性を活用して、付加価値を生み出す仕組みづくり

FDKのサステナビリティ経営：中長期目標

- 様々なパートナーとともに未来のスマートシティの実現をはじめ、様々なシーンで貢献できる製品・ソリューションを開発し提供
- カーボンニュートラルへの貢献／ステークホルダーとの協働／資源の有効活用
- 人材投資(教育)の充実／DE&I(ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン)の推進／キャリア形成・能力開発支援／安全で健康的な職場の提供／健康経営の実現
- 指名・報酬委員会の計画的な運営および改善／ステークホルダーへのアカウンタビリティの充実／リスクマネジメントの経営プロセスへのさらなる深化／内部統制の推進による業務上のリスクコントロールの強化／法令・社会規範の監視体制の維持・継続的な教育
- ツナガル情報の発信／未来にツナゲル機会の提供／笑顔をツナグ貢献活動の推進

マテリアリティ

1. 安心安全な電気エネルギーの提供
2. 地球環境との共生
3. 多様な人材の活躍推進
4. コーポレート・ガバナンスの持続的強化／リスクコンプライアンスの高度化
5. 地域・社会・コミュニティの持続可能性への貢献

And Game 計画実行にあたり大切にすべき、FDKの新しい文化

お客様の満足

従業員に対する責任

and

(すべてに答える)

株主への約束

社会への貢献

FDK 企業行動指針

戦略

環境の変化とともに常に検証・更新

Value

FDKを常に支える土台



HOME



INDEX

イントロダクション

FDKグループの価値創造ストーリー

サステナビリティ

FDKアイデンティティにおける「10年の計」×サステナビリティ経営

サステナビリティマネジメント

マテリアリティ

安心安全な電気エネルギーの提供

地球環境との共生

多様な人材の活躍推進

コーポレート・ガバナンスの持続的強化／リスクコンプライアンスの高度化

地域・社会・コミュニティの持続可能性への貢献

財務情報

概要、グループ会社



INDEX

イントロダクション

FDK グループの価値創造ストーリー

サステナビリティ

FDK アイデンティティにおける「10年の計」×サステナビリティ経営

サステナビリティマネジメント

マテリアリティ

安心安全な電気エネルギーの提供

地球環境との共生

多様な人材の活躍推進

コーポレート・ガバナンスの持続的強化／
リスクコンプライアンスの高度化

地域・社会・コミュニティの持続可能性
への貢献

財務情報

概要、グループ会社

サステナビリティマネジメント

サステナビリティ基本方針

FDKグループは、経営理念である「進化に挑戦 輝く未来と笑顔のために」のもと、ステークホルダーと協働し、すべての事業活動を通じて様々な社会問題を解決することで、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

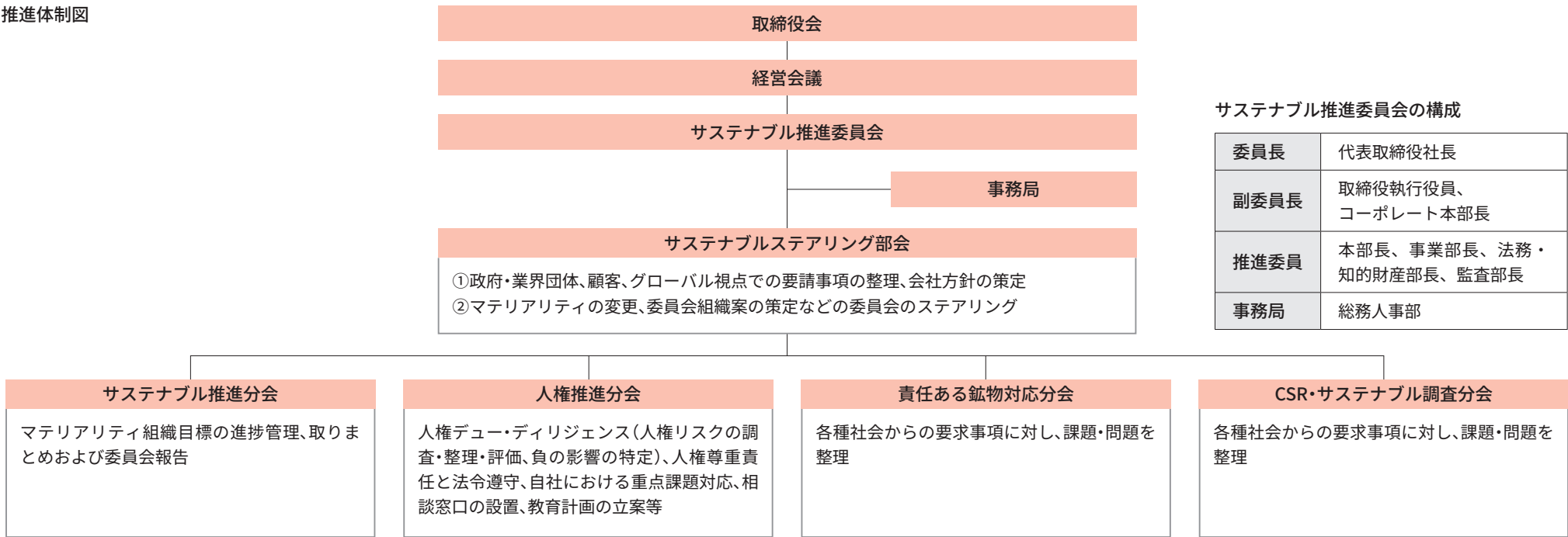
＊ FDKグループのステークホルダー: FDKグループは、「お客様」「お取引先様」「株主・投資家」「社員」「国際社会・地域社会」をステークホルダーとしています。また、「政府」「NPO」「NGO」「学会」「業界団体」「国際機関」なども「国際社会・地域社会」の中の重要なステークホルダーと考えています。

サステナビリティ推進体制

FDKグループは、サステナビリティ活動の推進にあたり、グループの横断的なSDGs実現や環境・社会・ガバナンス分野における中長期的な課題を議論・決定・評価するため、サステナブル推進

委員会を設置しています。サステナブル推進委員会は、代表取締役社長を委員長とし、情報発信、新たな社会貢献事例や持続可能な社会とビジネスの在り方などについて定期的なレビューを行っています。

推進体制図



マテリアリティ

FDKグループは、経営理念である「進化に挑戦 輝く未来と笑顔のために」およびVisionである「FDKグループは、Smart Energy Partnerとして、先進技術を結集し、お客様に電気エネルギーを安心して効率的に活用いただき、持続可能な社会の実現と発展に貢献します」を実現していくために、5つのマテリアリティを特定しています。

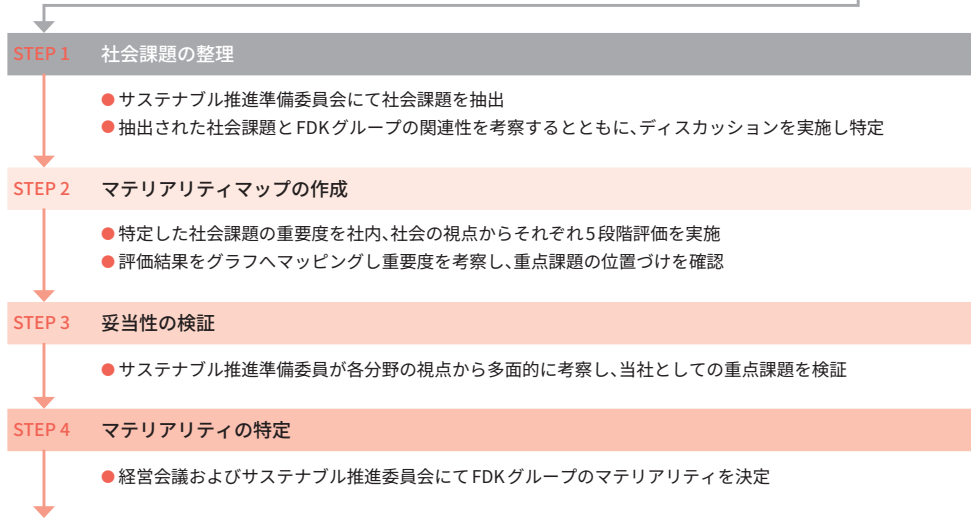
FDKグループは、事業活動を通じて特定した5つのマテリアリティに取り組むことで、社会課題の解決と企業価値の持続的向上の両立を目指しています。

マテリアリティの特定プロセス

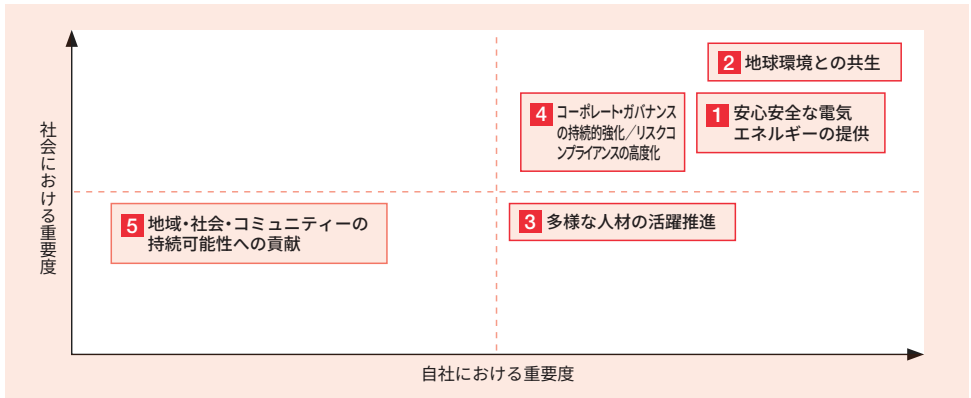
FDKグループは、マテリアリティの特定にあたり「サステナブル推進準備委員会」を設置しました。同委員会では社会課題を抽出し、FDKグループおよびステークホルダーへの重要度の観点からマテリアリティ候補を評価しました。

その結果、経営会議等での議論を経て、5つのマテリアリティを特定しました。2022年度には各マテリアリティのKPIを設定し、現在も各事業部門等において取り組みを推進しています。

サステナブルに関する キーワード抽出	社会課題のリスト化	社会課題抽出	影響確認
サステナブル推進準備委員会 キーワード数:1,496個	抽出したキーワードから 関連する社会課題を リスト化	当社との関連性を考察し 社会課題候補を19個抽出	社内・社会



FDKグループの5つのマテリアリティ(重点課題)



マテリアリティ	施策	ESG区分	関連するSDGs
1 安心安全な電気エネルギーの提供	●サステナブルな社会を支える製品およびソリューションを提供する	E・S	7 持続可能なエネルギー, 9 産業・革新, 11 持続可能な都市とコミュニティ
2 地球環境との共生	●気候変動への対応 ●持続的社会的実現・発展への貢献 ●循環型社会の推進	E	7 持続可能なエネルギー, 12 持続可能な消費と生産, 13 気候変動
3 多様な人材の活躍推進	●全従業員の能力を最大限に発揮できる環境づくり ●健康で働き続けられる環境づくり	S	3 健全な生活, 4 質の高い教育, 5 ジェンダー平等, 8 働きがいと経済成長, 10 人や国の不平等の解消
4 コーポレート・ガバナンスの持続的強化／リスクコンプライアンスの高度化	●ステークホルダーの立場を踏まえ、経営の透明性と客観性を確保した迅速な意思決定を実現するための体制と監督機能の強化 ●リスクコンプライアンス体制の基盤強化 ●全社内統制の強化 ●法令および社会規範の遵守と高い倫理観を持った行動の徹底	G	16 平和と公正
5 地域・社会・コミュニティの持続可能性への貢献	●地域社会とつながり、笑顔溢れる世の中の実現	S	3 健全な生活, 14 海の豊かさ



INDEX

イントロダクション

FDKグループの価値創造ストーリー

サステナビリティ

FDKアイデンティティにおける「10年の計」×サステナビリティ経営

サステナビリティマネジメント

マテリアリティ

安心安全な電気エネルギーの提供

地球環境との共生

多様な人材の活躍推進

コーポレート・ガバナンスの持続的強化／リスクコンプライアンスの高度化

地域・社会・コミュニティの持続可能性への貢献

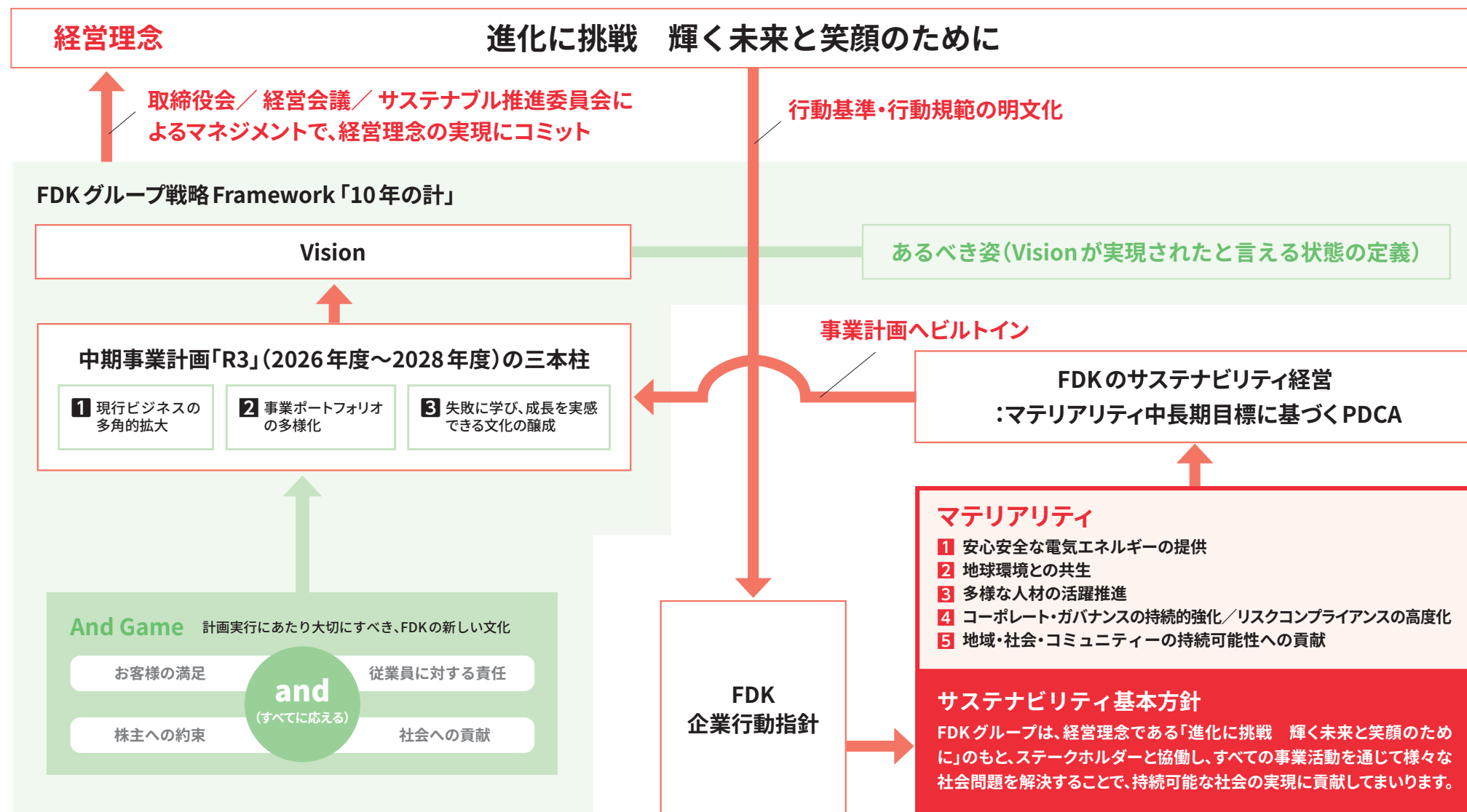
財務情報

概要、グループ会社

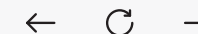
FDKグループのサステナビリティ基本方針に基づくマテリアリティの位置づけ

FDKグループのマテリアリティは、FDKグループおよびステークホルダーへの重要度の観点から優先度を検討して設定しており、マテリアリティに関連するSDGsの解決に向けてサステ

ナビリティ経営を推進しています。5つのマテリアリティの重点施策の実践を通じて、すべてのステークホルダーに価値を提供するとともに経営理念の実現に取り組んでいます。



HOME



INDEX

イントロダクション

FDKグループの価値創造ストーリー

サステナビリティ

FDKアイデンティティにおける「10年の計」×サステナビリティ経営

サステナビリティマネジメント

マテリアリティ

安心安全な電気エネルギーの提供

地球環境との共生

多様な人材の活躍推進

コーポレート・ガバナンスの持続的強化／
リスクコンプライアンスの高度化

地域・社会・コミュニティの持続可能性
への貢献

財務情報

概要、グループ会社

5つのマテリアリティ

マテリアリティ	重点テーマ	中長期目標	目標	2025年度実績
1 安心安全な電気エネルギーの提供	サステナブルな社会を支える製品およびソリューションを提供する	■様々なパートナーとともに未来のスマートシティの実現をはじめ、様々なシーンで貢献できる製品・ソリューションを開発し提供する【具体的なシーン】 1. Smart Infrastructure 2. Smart Home & Office 3. Smart Retail Store 4. Smart Factory & Mobility	1. Smart Infrastructure 社会インフラ用途の製品開発、性能向上を目指した新製品開発、資源効率向上に寄与する製品開発 2. Smart Home & Office 家電用途向け製品の開発、性能向上を目指した新製品開発、環境負荷低減に関する技術開発 3. Smart Retail Store 電源バックアップ用途向け製品の量産開始、性能向上を目指した新製品開発 4. Smart Factory & Mobility 車載アクセサリやモビリティ用途向け製品の量産および拡販	P.38
2 地球環境との共生	気候変動への対応	■カーボンニュートラルへの貢献 1. 再生可能エネルギー導入：2030年までに100% 2. Scope 1～Scope 3排出量の統合管理達成 3. 省エネ活動1%削減/年＝2029年度で7%削減(2022年度比)	1. 2025年度再生可能エネルギー導入率37%相当、太陽光発電の運用開始(XIAMEN FDK CORPORATION) 2. Scope3の16項目からの対象分野の選定、排出量管理のための体制構築 3. 省エネルギー化への施策を抽出し、目標達成に向けて実行、老朽化した設備の計画的な更新	P.41
	持続的社会の実現・発展への貢献	■ステークホルダーとの協働 1. サプライチェーンとの協働推進 2. 社内体制の再構築 3. 国内外の外部機関との連携推進 4. 国際標準規格の提案 5. 含有化学物質調査の100%維持継続 6. 責任ある鉱物調達調査の100%維持継続	1. サプライヤー(取引先を含む)に対するサステナビリティ調査とフィードバックの実施のうえ、取り組み内容を統合報告書にて公開 2. 欧州電池規則バッテリーデュー・デシリジェンスの社内運用体制構築、第三者検証制度の情報収集 3. 業界団体と連携した、欧州電池規則バッテリーデュー・デシリジェンスの情報収集および対応 4. 電池工業会を通じた国際標準規格策定への貢献 5. 含有化学物質調査の100%維持継続 6. 責任ある鉱物調達調査の100%維持継続	
	循環型社会の推進	■資源の有効活用～様々な観点での資源有効活用～ 効率・長寿命・低減・削減・リサイクル 1. 省資源化に寄与する製品の設計・開発 2. 資源効率向上に寄与する製品の設計・開発	1. 省資源化製品の設計・開発、調達材料と廃棄物の削減、コバルトなどのレアメタル使用量の削減、PFASフリー化の導入、製品の長寿命化、製品の高容量化 2. 材料使用量の削減、減ブラの検討、材料利用率の改善	
3 多様な人材の活躍推進	全従業員の能力を最大限に発揮できる環境づくり	■人材投資(教育)の充実	1. 能力開発 若手社員向けのワークショップの実施 2. タレントマネジメント(人材育成) 次世代リーダーの育成強化 グローバル人材育成に向けた語学教育(留学)の継続 3. 学習機会の提供 eラーニングおよび通信教育、道場の活用促進 英会話教育受講の強化	P.46
		■DE&I(ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン)の推進 1. 障がい者雇用の継続・支援 2. 環境・ファンリティ整備(ユニバーサルデザイン化の拡張) 3. ワークライフバランスの充実	1. 障がい者雇用活動の継続と支援、受け入れ部門の知識と理解度の向上 2. DE&I(ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン)に関する講習会の開催 3. 男性の育児休暇取得率の向上 各種休暇制度の充実および取得促進	
		■キャリア形成・能力開発支援 1. 女性管理職比率の向上：2025年度末150%(2021年度比) 2. セカンドキャリア支援	1. 次世代リーダー研修への女性従業員の参加数増加、国際女性デーセミナーの実施 2. シニア社員向けの研修の開催 階層に合わせた自己学習プログラムの策定 資格手当制度の見直し	



INDEX

イントロダクション

FDK グループの価値創造ストーリー

サステナビリティ

FDK アイデンティティにおける「10年の計」×サステナビリティ経営

サステナビリティマネジメント

マテリアリティ

安心安全な電気エネルギーの提供

地球環境との共生

多様な人材の活躍推進

コーポレート・ガバナンスの持続的強化／リスクコンプライアンスの高度化

地域・社会・コミュニティの持続可能性への貢献

財務情報

概要、グループ会社

5つのマテリアリティ

マテリアリティ	重点テーマ	中長期目標	目標	2025年度実績
3 多様な人材の活躍推進	健康で働き続けられる職場づくり	■安全で健康的な職場の提供～快適な職場づくりの推進～ 1. 労働安全衛生リスク低減の徹底 2. 労働安全衛生教育の充実	1. 労働安全衛生リスク低減活動 2. 階層別、項目別の安全衛生教育の実施	P.54
		■健康経営の実現 1. 健康経営優良法人の認証取得 2. ワークライフバランスの充実 長時間労働対策 有給休暇取得率の向上 育児・介護との両立支援 3. 従業員の健康増進 定期健康診断高リスク者の低減／従業員のコミュニケーション向上	1. 健康経営優良法人の認証取得 2. 有給休暇取得率80%の達成および時間外労働の抑制 3. ヘルスリテラシー啓発活動の実施	
4 コーポレート・ガバナンスの持続的強化／ リスクコンプライアンスの高度化	ステークホルダーの立場を踏まえ、経営の透明性と客観性を確保した迅速な意思決定を実現するための体制と監督機能の強化	■指名・報酬委員会の計画的な運営および改善	1. 指名・報酬委員会の運営と取締役会への確実な答申	P.58
		■ステークホルダーへのアカウンタビリティの充実	1. ステークホルダーとの対話機会の充実と要請事項への的確な対応 2. 株主、投資家：ステークホルダーとの対話実行にかかるWEB上の情報開示充実	
		■リスクマネジメントの経営プロセスへのさらなる深化	1. コンプライアンス意識の醸成および全社的定着 2. コンプライアンス教育の充実	
		■内部統制の推進による業務上のリスクコントロールの強化	1. FDKグループに対する内部監査体制強化 2. 不正防止および不正の早期発見、早期是正による再発防止	
		■法令・社会規範の監視体制の維持・継続的な教育	1. 内部通報窓口の活用促進および通報案件に対する迅速な対応 2. コンプライアンス教育の継続的な実施	
5 地域・社会・コミュニティの持続可能性への貢献	地域社会とつながり笑顔溢れる世の中の実現	■ツナガル情報の発信 1. 社会とのコミュニケーション 2. 安心・安全な暮らしのサポート	1. 防災に関する情報発信	P.69
		■未来にツナゲル機会の提供 1. 学ぶ機会の提供 2. 新しい価値を創造する機会の提供	1. 「太陽とツナガル電池の音コンサート」への協賛	
		■笑顔をツナグ貢献活動の推進 地域や社会への貢献活動	1. 地域社会とツナガル推進活動 2. 地域美化にツナガル推進活動 3. エコにツナゲル推進活動 4. 命をツナグ推進活動	



HOME



INDEX

イントロダクション

FDKグループの価値創造ストーリー

サステナビリティ

FDKアイデンティティにおける「10年の計」×サステナビリティ経営

サステナビリティマネジメント

マテリアリティ

安心安全な電気エネルギーの提供

地球環境との共生

多様な人材の活躍推進

コーポレート・ガバナンスの持続的強化／
リスクコンプライアンスの高度化

地域・社会・コミュニティの持続可能性
への貢献

財務情報

概要、グループ会社

1 安心安全な電気エネルギーの提供

FDKグループは、FDKグループ戦略Framework「10年の計」のVisionに「Smart Energy Partnerとして、先進技術を結集し、お客様に電気エネルギーを安心して効率的に活用いただき、持続可能な社会の実現と発展に貢献します。」を掲げ、電池・電子製品のメーカーとしてサステナブルな社会を支える製品およびソリューションを提供しています。

高性能・高品質な当社の電池・電子製品だからこそお役に立てる様々な場面で一層の高容量化、高効率化、環境負荷低減に向けた技術開発、省資源化などを進めるとともに、次世代電池の開発を進め、未来のスマートシティ、持続可能な社会の実現に貢献しています。

また、品質に関してはFDKグループ品質方針を定め、高品質で安全な環境にやさしい、お客様にご満足いただける製品を開発・供給して、社会に貢献しています。

リスクと機会

リスク

- お客様や業界の品質基準が変化し、当社既存製品が要件を満たさなくなる
- 製造過程での品質管理の問題で製品不具合が増加し信頼損失につながる
- お取引先様とのサプライチェーンの脆弱性により、部材の品質不良や供給遅延が製品品質に影響し、お客様満足度が低下する

リスクへの対応

- 品質管理基準を見直し、より厳格な品質保証体制を確立する
- 製品の生産過程に対する定期的な品質監査を実施し、品質保証体制を維持する
- お取引先様との品質基準の最適化および連携強化により部材品質を維持向上する

機会

- 市場で求められる高品質の製品を提供し、ブランド価値向上と新規お客様の獲得を図る
- 業界内での品質リーダーとしての地位を確立し、他社製品と差別化する
- 環境に配慮した製品開発と持続可能なサプライチェーンを通じ企業の社会的責任を遂行する

指標および目標

重点テーマ サステナブルな社会を支える製品およびソリューションを提供する

中長期目標		2025年度の主な実績
様々なパートナーとともに未来のスマートシティの実現をはじめ、様々なシーンで貢献できる製品・ソリューションを開発し提供	Smart Infrastructure	・水素貯蔵タンク用高容量AB2型水素吸蔵合金を開発 ・アルカリ乾電池における次期性能改良品の開発推進 ・次世代電池における新製品開発推進 ・次世代電池における実証実験継続
	Smart Home & Office	・ニッケル水素電池におけるPFASフリー電池の量産出荷開始 ・アルカリ乾電池における減ブラフィルムの検討 ・次世代電池における新製品開発推進
	Smart Retail Store	・ニッケル水素電池における顧客への拡販訴求 ・リチウム電池における高容量モデルの量産出荷 ・次世代電池における新製品開発推進
	Smart Factory & Mobility	・電子製品における新製品開発 ・全固体電池における定電圧充電対応モデルのサンプル出荷開始 ・次世代電池における新製品開発推進



HOME



INDEX

イントロダクション

FDKグループの価値創造ストーリー

サステナビリティ

FDKアイデンティティにおける「10年の計」×サステナビリティ経営

サステナビリティマネジメント

マテリアリティ

安心安全な電気エネルギーの提供

地球環境との共生

多様な人材の活躍推進

コーポレート・ガバナンスの持続的強化／リスクコンプライアンスの高度化

地域・社会・コミュニティの持続可能性への貢献

財務情報

概要、グループ会社

1 安心安全な電気エネルギーの提供

様々なパートナーとともに未来のスマートシティの実現をはじめ、様々なシーンで貢献できる製品・ソリューションを開発し提供

人々の暮らしと社会を支える企業と個々のユーザーに、クリーンかつ安全な電気エネルギーを安定的に活用できるオフリングをお届けする

基本的な考え方

FDKグループは、高品質で安全であり、地球環境にやさしくお客様にご満足いただける電池・電子製品を継続して開発・供給するという考えのもと、社会課題の解決に貢献する製品開発、供給、品質保証体制の構築、グリーン調達の一環に努めています。

FDKグループの取り組み

環境に関する法令や規範を遵守し、地球にやさしい素材を活かした電池・電子製品を提供することで企業価値の向上に努めています。これまで電池事業・電子事業で蓄積してきた技術を活用し、次世代電池をはじめとする新製品の開発を推進しています。

新製品発表事例等のご紹介

水素貯蔵タンク用 高容量AB2型水素吸蔵合金を開発

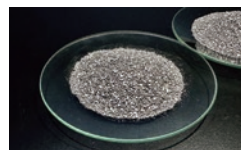
当社は、水素エネルギー社会の実現に向けた水素貯蔵タンク用の新材料として、高容量AB2型水素吸蔵合金を開発しました。

水素吸蔵合金は、一定量の水素を貯蔵する体積が液体水素に比べ約1/2、高圧水素ガスに比べ約1/7となる高い体積効率を有し、常温常圧に近い状態で安定して水素を貯蔵できる特長があります。

電池用途で主流のAB5型水素吸蔵合金は、活性化の容易性や反応速度、リサイクル性に優れる一方で、重量当たりの水素貯蔵量が

少ないという課題がありました。また、高容量合金では活性化プロセスの煩雑さや水素放出圧力の低下といった課題がありました。

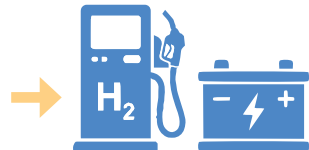
本製品はこれらの課題に対応し、重量当たりの水素貯蔵量をAB5型比で約20%向上させるとともに、安定した水素放出特性と扱いやすい活性化プロセスを実現しています。



水素吸蔵合金



水素輸送



水素ステーション 燃料電池 など

本製品は2025年7月より一部需要家向けにサンプル提供を開始しました。
これにより、水素エネルギーの高効率な貯蔵・利用を通じて、脱炭素社会の実現および持続可能なエネルギーインフラの構築に貢献します。

SMD小型酸化物系全固体電池「SoLiCell® SCD4532K」を開発

当社は、小型・高電圧・高エネルギー密度・高い安全性や環境適合性を特長とするSMD小型酸化物系全固体電池「SoLiCell®」の新モデルとして、定電圧充電に対応した「SCD4532K」を開発し、2025年12月よりサンプル出荷を開始しました。

本モデルは、充電温度および充電電圧範囲の拡大により簡易回路による定電圧充電に対応し、従来機種の高温安定性を維持しながら利便性の向上を実現しています。

高精度な電圧制御が不要となるため、部品点数やコストの抑制が可能となり、機器の小型化にも寄与します。RTCバックアップやエネルギーハーベスト用途など、幅広い用途での活用が可能です。

これにより、省電力化や機器の小型化を通じてエネルギー効率の向上に寄与し、持続可能な社会の実現に貢献します。



PFASフリーニッケル水素電池の量産出荷を開始

当社は、ニッケル水素電池「HR-3UTG／HR-4UTG」をPFAS(ペルフルオロアルキルおよびポリフルオロアルキル化合物)フリー製品としてリニューアルし、2026年4月より量産出荷を開始しました。

PFASは環境および健康への影響が懸念されており、使用規制の強化が進んでいます。本製品では新規材料および新製法の採用によりPFASの意図的使用を排除しつつ、従来製品と同等の性能および寿命を維持しています。

これにより、有害物質の低減と製造から廃棄(リサイクル)までの環境負荷軽減を通じて、持続可能な資源循環の実現に貢献します。



HOME



INDEX

イントロダクション

FDKグループの価値創造ストーリー

サステナビリティ

FDKアイデンティティにおける「10年の計」×サステナビリティ経営

サステナビリティマネジメント

マテリアリティ

安心安全な電気エネルギーの提供

地球環境との共生

多様な人材の活躍推進

コーポレート・ガバナンスの持続的強化／リスクコンプライアンスの高度化

地域・社会・コミュニティの持続可能性への貢献

財務情報

概要、グループ会社

1 安心安全な電気エネルギーの提供

マテリアリティに関連するその他の取り組み：品質保証

品質保証活動

品質および安全・環境に配慮した製品の開発と品質保証

FDKグループ品質方針 「お客様の信頼に応える品質の提供」

〈理念〉

品質第一を基本的な考え方として、高品質で安全な環境にやさしい、お客様にご満足いただける製品を開発・供給して、社会に向け貢献することを使命とします。また、企業責任を問われる重大な品質事故や世界各国の法規制違反など絶対に起こしてはならないと認識しています。そのため、営業から研究・企画・開発・設計・生産さらに顧客サービスなどのすべてのステップにおいて、全部門がお客様起点で行動して、より確かな品質経営を実行します。

〈品質行動指針〉

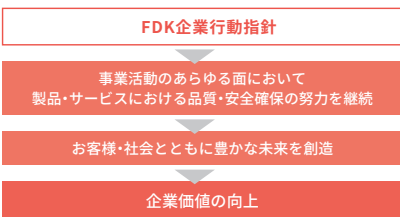
1. お客様の品質要求事項は、最優先事項として迅速かつ適切に行動し顧客満足度を向上する。
2. 開発段階での源流活動を強化し、品質・価格・納期・環境を造りこみ、量産段階における、品質トラブルの未然防止、採算性の向上、納期の遵守、環境保全の向上につなげる。
3. 製品安全、製品含有化学物質など各種コンプライアンスに関わるリスク管理を継続強化する。
4. モノづくりの改善活動により、工程仕損、クレームによる損失などの品質ロスを徹底して削減する。
5. 品質マネジメントシステムを継続的に改善して、より効果的な品質経営を行なう。

品質保証体制

FDKグループは、品質方針・品質行動指針を実現するために品質マネジメントシステムを構築し、品質保証活動に継続して取り組んでいます。2026年3月時点では、海外拠点を含めた9拠点でISO9001認証を取得しており、うち4拠点でIATF16949認証を取得しています。

品質保証の取り組み

お客様が要求する機能・性能・その他の内容を満足する製品・サービスの品質を提供するためには経営層をはじめとする様々な部門が連携し、企業活動のすべてのプロセスにわたっての全員参加が必要であると考えています。FDKグループは、多岐にわたる製品群、海外を含めた各事業拠点の品質保証活動における連携にも取り組んでいます。



品質保証統括部では、その活動を活性化するため全事業部との情報共有、品質方針の策定、コンプライアンスに関わる問題や品質トラブル発生時のエスカレーション、人材育成のための教育、不具合事例やノウハウなどについての水平展開にも積極的に取り組んでいます。また、経営トップ主催による「全社品質管理委員会」の設置や経営トップによる改善活動の現場確認など経営面からのアプローチも行なっています。

品質保証強化への取り組みの改善プロセス

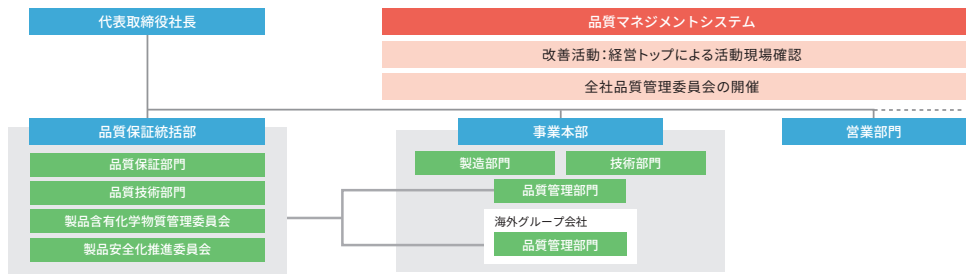
1.FDKグループの品質方針実現に向けた取り組み

製品企画から量産に至る各検証プロセスにおいて、品質関連規定等に基づき、自部門だけでなく関係部門も交えた広い知見でレビューし、より客観的な検証を行なっています。

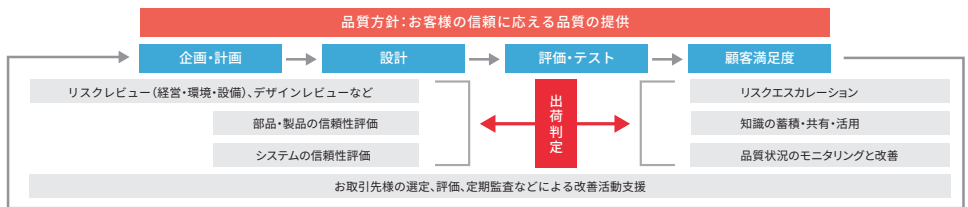
2.グリーン調達活動の取り組み

FDKグループは、環境負荷を考慮した事業活動と環境に配慮した製品の供給により、持続可能な社会の実現に貢献しています。「FDKグループグリーン調達基準」に基づいて調達した環境に配慮した物資を使用することにより、お客様へ環境配慮製品を提供しています。

品質保証体制図



品質保証の各検証プロセス図



INDEX

イントロダクション

FDKグループの価値創造ストーリー

サステナビリティ

FDKアイデンティティにおける「10年の計」×サステナビリティ経営

サステナビリティマネジメント

マテリアリティ

安心安全な電気エネルギーの提供

地球環境との共生

多様な人材の活躍推進

コーポレート・ガバナンスの持続的強化／
リスクコンプライアンスの高度化

地域・社会・コミュニティの持続可能性
への貢献

財務情報

概要、グループ会社

2 地球環境との共生

FDKグループは、気候変動リスクを重要課題として位置づけ、再生可能エネルギーの導入拡大および新素材の活用による資源の有効活用を推進し、事業活動全体における環境負荷の低減に取り組んでいます。また、当社グループは国際規格ISO14001を取得しており、環境マネジメントシステムに沿ったPDCAサイクルを回すことにより、環境パフォーマンスの向上と継続的改善に努めています。

さらに、サステナブルな製品開発による新たな市場創出や、地域社会との協働、人権尊重の方針のもとでステークホルダーとの信頼関係を構築し、持続可能な未来の創造に向けた挑戦を続けています。

リスクと機会

リスク

- 気候変動による気温の上昇、海面上昇、大雨などによる対応コスト増加
- 気候変動の影響に伴うサプライチェーンを含む操業停止
- カーボンニュートラル推進に伴うエネルギーコストの上昇
- 天然資源枯渇に伴う原材料価格上昇

リスクへの対応

- 環境管理体制構築とISO14001認証維持継続
- BCP対応推進とBCM体制構築
- 環境目標を設定し再生可能エネルギー比率増加と温室効果ガスの削減を実施
- 新素材の製品開発による天然資源の有効活用

機会

- サステナブルな社会を支える製品開発による新規市場開拓
- サーキュラーエコノミーを推進した循環型社会への貢献
- 地域・社会・コミュニティの持続可能性への貢献

指標および目標

重点テーマ 気候変動への対応

中長期目標	2025年度実績
カーボンニュートラルへの貢献	・ 2025年度再生可能エネルギー導入率37.5% ・ 省エネルギー効果については2024年度比5.7%改善 ・ XIAMEN FDK CORPORATIONにて太陽光発電設備導入 ・ 湖西工場にて空調管理システム導入 ・ 空調機更新、照明LED化の継続実施

重点テーマ 持続的社会的実現・発展への貢献

中長期目標	2025年度実績
ステークホルダーとの協働	・ 統合報告書にて人権デュー・ディリジェンスの取り組み公開 ・ サプライヤーに対するサステナビリティ調査実施 ・ 欧州電池規則やバッテリーデュー・ディリジェンスに関する情報収集 ・ FDKグループバッテリーデュー・ディリジェンス方針の発行 ・ 含有化学物質、責任ある鉱物調達の実証活動継続

重点テーマ 循環型社会の推進

中長期目標	2025年度実績
資源の有効活用 ～様々な観点での資源有効活用～	・ ニッケル水素電池におけるPFASフリー電池の量産出荷開始 ・ 高容量タイプの高出力円筒形二酸化マンガニリチウム一次電池の量産を開始 ・ アルカリ電池における減ブラフィルムの検討



INDEX

イントロダクション

FDKグループの価値創造ストーリー

サステナビリティ

FDKアイデンティティにおける「10年の計」×サステナビリティ経営

サステナビリティマネジメント

マテリアリティ

安心安全な電気エネルギーの提供

地球環境との共生

多様な人材の活躍推進

コーポレート・ガバナンスの持続的強化／
リスクコンプライアンスの高度化

地域・社会・コミュニティの持続可能性
への貢献

財務情報

概要、グループ会社

全社的に、より確かな環境経営を推進するため、「FDKグループ労働安全衛生・環境方針」を制定しています。

FDKグループ労働安全衛生・環境方針

〈理念〉

私たちは、人間を尊重し一人一人の「生命」と「心」を大切にします。また、Smart Energy Partnerとして先進技術を結集し、お客様に電気エネルギーを安心して効率的に活用いただき、持続可能な社会の実現と発展に貢献します。

当社で働くすべての人の安全と健康を守り、豊かな自然・美しい地球環境を次世代に伝えていきます。電池、エレクトロニクス関連の素材・部品とそれらの応用製品および各種製造設備の開発・設計・製造・販売において安全第一に徹し、快適な職場づくりと心と身体の健康づくり、環境保護に全員参加と協議により取り組みます。

〈方針(重点テーマのみ抜粋)〉

以下の重点テーマに基づく行動計画を設定して取り組みます。また、行動計画を定期的に見直し、労働安全衛生と環境のパフォーマンスを継続的に改善します。

1. 危険ゼロ職場の確立
2. 清潔で快適な職場環境づくり推進
3. 健康経営の推進
4. 循環型社会を目指す事業活動の推進
5. 環境に配慮した研究開発と製品設計の推進

ISO14001 認証取得状況

2004年に全拠点で認証取得後、環境マネジメントの一層強化を図るため、2025年度に国内FDKグループ単独の認証を取得いたしました。

国内FDKグループ

- 本社・湖西工場・鷺津工場・高崎工場・鳥取工場
- 株式会社FDKエンジニアリング
- FDKパートナーズ株式会社

海外グループ会社

- FUCHI ELECTRONICS CO., LTD. (台湾・富積)
- XIAMEN FDK CORPORATION (中国・廈門)
- BAOTOU FDK CO., LTD. (中国・包頭)

カーボンニュートラルの実現に向けて

FDKグループはカーボンニュートラルの実現に向けて、中長期目標を掲げ取り組んでまいります。2025年度はXIAMEN FDK CORPORATIONにおいて、太陽光発電設備を導入しました。また非化石証書の活用によりFDKグループ全体の37.5%が再生可能エネルギー由来の電力使用になりました。

FDKグループ温室効果ガス削減目標

Scope1,2

2030年度までに自社排出のGHG排出量を87%削減(2017年度比)
自社消費電力の再生可能エネルギー比率100%を達成
2040年度までに自社排出のGHG排出量を実質ゼロ

Scope1,2,3

2050年度までにサプライチェーン全体を含めたカーボンニュートラルの実現



XIAMEN FDK CORPORATIONの太陽光発電設備導入による効果

(2026年2月末時点)

- ・発電量 1,780MWh/年
- ・CO₂削減量 1,482t/年
- ・再エネ電力比率 全体の72%

グリーン調達について

FDKグループは、地球環境問題の改善を考え、環境負荷を考慮した事業活動と環境配慮製品の提供により社会の持続的発展に貢献するように取り組んでいます。その取り組みにおいて、お取引先様からの納入品につきましても、環境配慮製品であることが必要不可欠であり、その考え方を「FDKグループグリーン調達基準」にまとめました。

FDKグループは、「地球環境との共生」を目指して、環境と調和した製品づくりのために、品質(Quality)、価格(Cost)、納期(Delivery)、サービス(Service)に加え、環境(Environment)の側面を評価した調達、すなわち「グリーン調達」を推進しています。

*FDKグループグリーン調達基準第11.0版 (https://www.fdk.co.jp/kankyuu/green_proc.html)



HOME



INDEX

イントロダクション

FDKグループの価値創造ストーリー

サステナビリティ

FDKアイデンティティにおける
「10年の計」×サステナビリティ経営

サステナビリティマネジメント

マテリアリティ

安心安全な電気エネルギーの提供

地球環境との共生

多様な人材の活躍推進

コーポレート・ガバナンスの持続的強化／
リスクコンプライアンスの高度化地域・社会・コミュニティの持続可能性
への貢献

財務情報

概要、グループ会社

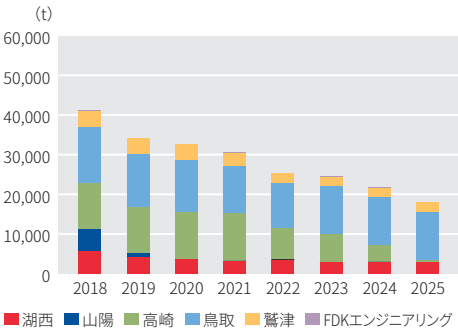
FDK グループ環境行動計画 2025 年度実績

項 目	2025 年度 行動計画	全体評価 *
環境配慮設計	省資源化に寄与する製品を開発する(各拠点1件以上)	○
	資源効率向上に寄与する製品を開発する(各拠点1件以上)	○
温室効果ガス削減	国内 FDK グループ全体でエネルギー消費 CO ₂ 排出量を 28,722t 以下に抑える	○ (27,179t)
エネルギー効率	使用しているエネルギーについて、エネルギー消費原単位を指標として、各拠点で前年度比1%改善する	○ (5.7%改善)
再生可能エネルギー導入	再生可能エネルギーを FDK グループ全体で2030 年度に100% 導入する (2025 年度目標 37%相当)	○ (37.5%)
化学物質削減	使用する PRTR 法対象物質について、排出量原単位を指標として、各拠点で2025 年度末までに前年度比1%改善する	○ (1%改善)
廃棄物削減	発生する廃棄物について、発生量原単位を指標として2025 年度末までに前年度比1%改善する	○ (7.1%改善)
水資源保全	水使用量の把握と適正化	○ (使用量 216,596㎡)
地域環境・社会貢献	地域の環境貢献・社会貢献活動の取り組みを、国内 FDK グループ全体で年23 件以上実施する	○ (27 件実施)

* 達成：○、未達成：×

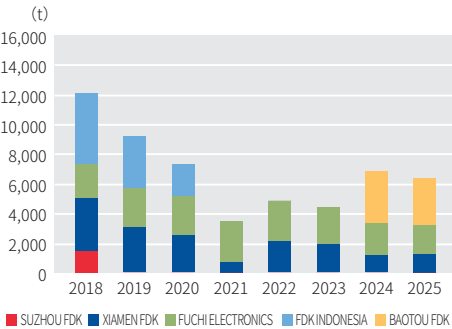
CO₂ 排出量の推移

(国内工場および生産関連会社) 2018 年度～2025 年度



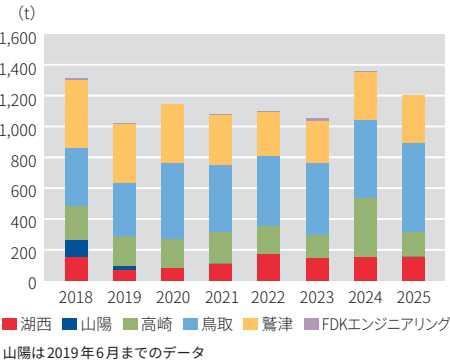
CO₂ 排出量の推移

(海外生産関連会社) 2018 年度～2025 年度



廃棄物発生量の推移

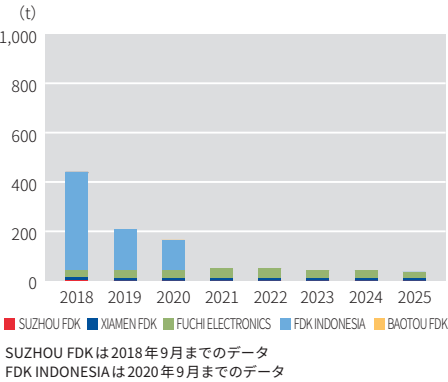
(国内工場および生産関連会社) 2018 年度～2025 年度



山陽は 2019 年 6 月までのデータ

廃棄物発生量の推移

(海外生産関連会社) 2018 年度～2025 年度



SUZHOU FDK は 2018 年 9 月までのデータ

FDK INDONESIA は 2020 年 9 月までのデータ

事業所(工場および生産関連会社)別環境パフォーマンスデータ

項目	単位	年度	湖西工場	高崎工場	鳥取工場	鷺津工場	FDK エンジニアリング	XIAMEN FDK CORPORATION	FUCHI ELECTRONICS CO., LTD.	BAOTOU FDK CO., LTD.
CO ₂ 排出量 (t-CO ₂)		2025 前年度	2,893 2,950	353 4,058	12,320 12,183	2,286 2,425	108 116	1,248 1,146	1,931 2,156	3,165 3,540
水使用量 (m3)		2025 前年度	53,442 56,572	20,886 22,103	84,541 82,133	16,564 21,994	392 505	13,087 10,791	8,307 9,047	19,377 21,065
PRTR 対象物質排出量 (kg)		2025 前年度	0 0	16.0 3.4	0 0	0 0	— —	— —	— —	— —
SOx 排出量 (kg)		2025 前年度	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —
NOx 排出量 (kg)		2025 前年度	0 0	— —	520 —	— —	— —	— —	— —	— —
ばいじん (測定濃度) (g/Nm3)		2025 前年度	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —
排水量 (m3)		2025 前年度	53,532 56,572	21,966 21,153	40,745 43,424	16,564 21,994	392 505	10,468 8,632	8,307 9,047	3,600 3,600
廃棄物 (t)		2025 前年度	155 154	163 380	581 511	309 315	5 9	9 10	28 31	7.7 0.4

* 「—」は、集計対象外、該当なし、または隔年で測定義務があるもので、当該年度の測定を行っていないものです。

* CO₂ 排出量は、GHG プロトコルに基づき Scope1 と Scope2 の合計として算出しています。購入電力からの換算係数は、国内・海外ともにマーケット基準で算出しております。購入した下記の非化石証書(太陽光)分を CO₂ 排出量から減算しています。

XIAMEN FDK CORPORATION: 2021 年度 2,650MWh、高崎工場: 2022 年度 5,000MWh、2023 年度 7,515MWh、2024 年度 15,500MWh、2025 年度 23,100MWh

* 操業を停止、事業を譲渡した拠点は、上記より除外しております。



HOME



INDEX

イントロダクション

FDK グループの価値創造ストーリー

サステナビリティ

FDK アイデンティティにおける「10 年の計」×サステナビリティ経営

サステナビリティマネジメント

マテリアリティ

安心安全な電気エネルギーの提供

地球環境との共生

多様な人材の活躍推進

コーポレート・ガバナンスの持続的強化／リスクコンプライアンスの高度化

地域・社会・コミュニティの持続可能性への貢献

財務情報

概要、グループ会社

FDKグループは、FDK企業行動指針の行動規範の第一項に「人権を尊重します」を掲げ、また調達指針にも「人権尊重・労働・安全衛生」を掲げるなど、人権尊重を最重要な価値観としてまいりました。2023年10月には「FDKグループ人権方針」を策定いたしました。

FDKグループ人権方針

人権宣言

FDKグループは、持続可能な社会の実現と発展に貢献するために全ての人の権利を尊重し、「FDK企業行動指針」にもとづいて行動することを宣言します。

人権方針に対する基本的な考え方

FDKグループは経営理念に「進化に挑戦 輝く未来と笑顔のために」を掲げており、この経営理念を実践するために、企業行動指針の中で「人権尊重」「法令および社会規範の遵守」を行動規範として定めています。

企業活動の中心である全ての従業員の権利を尊重することで、イキイキと働くことのできる職場づくりにつながると考えています。

さらに、FDKグループの従業員だけでなく、活動に関わる全ての人々の権利を尊重することで、笑顔の絶えない輝く未来に繋がることを願います。

規範や法令の尊重・遵守

FDKグループは「国際人権章典(世界人権宣言と国際人権規約)」、「労働における基本的原則及び権利に関するILO宣言」、「国連グローバル・コンパクトの10原則」等の人権に関する国際規範を支持、尊重します。

そして、国連の「ビジネスと人権に関する指導原則」にもとづき、本方針を定めて人権尊重の取り組みを推進していきます。

また、企業活動を行なう各国、各地域で適用される法令を遵守することを約束します。

なお、国際的に認められた人権と各国や地域の法令の間に矛盾がある場合には、現地での法令と国際的な人権の原則を尊重するための方法を追求します。

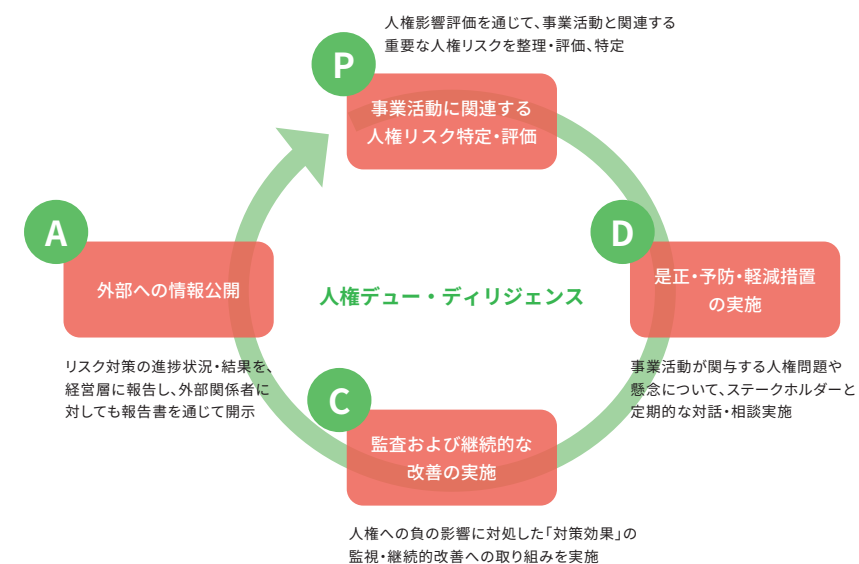
取引先様との対話

お取引先様にも人権尊重を期待し、本方針のご理解とご協力を求めます。

人権デュー・ディリジェンス

FDKグループは国連の「ビジネスと人権に関する指導原則」にもとづきお取引先様とともに人権への負の影響を最小化する「人権デュー・ディリジェンス」の仕組みを構築し、取り組みます。

「人権デュー・ディリジェンス」の仕組み（PDCA プロセス）



是正・救済・相談・通報窓口の設置

FDKグループは世界中の様々な国や地域において事業活動を行なっています。

様々な立場からの意見に耳を傾け、理解するべく、社内外から人権に関わる相談や意見を収集するための窓口をHPに設置し、以下をお約束しております。

「FDKグループが人権に対する負の影響を引き起こした、または助長したことが明らかになった場合は適切な手段を通じて、その是正・救済に取り組みます。

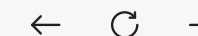
FDKグループのお取引先様において人権への負の影響が引き起こされている場合には、人権を尊重し、侵害しないよう、ステークホルダーと協力しながら改善に努めていきます。

また、通報者や被害者に関する秘密を保持し、不利益な扱いの禁止を徹底します。」

*窓口 <https://www.fdk.co.jp/csr/humanrights.html>



HOME



INDEX

イントロダクション

FDKグループの価値創造ストーリー

サステナビリティ

FDKアイデンティティにおける「10年の計」×サステナビリティ経営

サステナビリティマネジメント

マテリアリティ

安心安全な電気エネルギーの提供

地球環境との共生

多様な人材の活躍推進

コーポレート・ガバナンスの持続的強化／リスクコンプライアンスの高度化

地域・社会・コミュニティの持続可能性への貢献

財務情報

概要、グループ会社

人権尊重に関する2025年度の具体的な取り組み

人権尊重に係る教育

当社では、従業員一人ひとりが人権尊重の重要性を理解し、事業活動における人権への負の影響を特定・評価し、適切に対応する能力を高めるため、人権教育を継続的に実施しています。

2025年度は、「ビジネスと人権」をテーマとした全社教育を実施したほか、新入社員向け教育も実施しました。

2025年度の人権教育実績

- 2025年4月 新入社員研修(静岡県人権啓発センター様による講義)
テーマ:「人権について考えよう」
受講者数:新入社員18名
- 2026年3月 eラーニング
テーマ:「ビジネスと人権」
受講者数／対象者数:1,720名／1,720名で受講率100%

お客様からの調査およびお取引先様への調査対応

当社は、サプライチェーン全体での人権・環境配慮の向上に向けて、調査対応および情報開示を積極的に推進しています。

2025年度は、お客様から以下の調査要請を受け、適切に対応しました。

責任ある鉱物調査:	154件
その他CSR関連調査:	58件

また、当社としてもサステナブル調達推進の観点から、お取引先様を対象にCSR調査を実施し、サプライチェーンにおける人権・環境リスクを把握するとともに、予防・低減に向けた取り組み状況の確認を行っています。

2025年度は、255社のお取引先様にご協力いただき、回答結果についてフィードバックを行ないました。



2025CSR 調査サンプル

「FDKグループサプライチェーンサステナビリティ推進ガイドライン」の改訂

サプライチェーンにおける人権および環境への配慮をさらに高度化することを目的として、2025年5月に「サプライチェーンサステナビリティ推進ガイドライン」を改訂しました。

本改訂では、「先住民のものを含む地域社会の生活」に関する項目を新たに明確化し、地域社会

の生活環境や存在する土地に影響を与える開発に対して、自由意思による、事前の、十分な情報に基づく同意(FPIC:Free, Prior and Informed Consent)を尊重することを求めています。

また、地域社会の構成員の中でも特に脆弱な立場に置かれた人々への影響に配慮することを明確にし、ステークホルダーとの対話を通じて地域社会との共生を図ることを重視しています。

規範や法令の尊重・遵守

(事例:欧州電池規則 バッテリーデュー・ディリジェンス義務への対応)

欧州電池規則では、電池の主要原材料(コバルト、天然黒鉛、リチウム、ニッケル等)に関連して、環境・気候・人の健康、人権・労働権、地域社会(先住民族を含む)の生活に対する影響といった社会および環境リスクへの対応の重要性が示されており、2027年8月よりデュー・ディリジェンス義務の適用が予定されています。

当社は本規則の趣旨に賛同し、サプライチェーンにおける責任ある調達の実現に向けて、2025年度は、以下の取り組みを実施しました。

- 関連規制および要求事項に関する情報収集
- 社内勉強会の実施による理解の深化
- 内部管理体制・システムの整備
- お取引先様との情報交換および対応方針の共有

今後も、サプライヤーとの協働を通じて、持続可能で責任あるサプライチェーンの構築を推進します。

資源の有効活用

高容量タイプの高出力円筒形二酸化マンガンリチウム一次電池「CR17500EX」の量産開始

当社は電池の長寿命化・高容量化を通じ、資源の有効活用に取り組んでいます。本製品は電池構造および使用部材を見直すことで、同形状の当社従来モデルであるCR17500EPと比較して17%の容量向上を実現しました。2026年2月より量産出荷を開始しています。これにより機器の長時間使用が可能となるほか、組電池仕様における使用本数削減にも寄与します。結果として資源使用量の低減に貢献します。

また、本製品はRoHS指令および電池規則(EU 2023/1542)に準拠し、UL規格(File No. MH13421)の認定を取得しています。



HOME



INDEX

イントロダクション

FDKグループの価値創造ストーリー

サステナビリティ

FDKアイデンティティにおける
「10年の計」×サステナビリティ経営

サステナビリティマネジメント

マテリアリティ

安心安全な電気エネルギーの提供

地球環境との共生

多様な人材の活躍推進

コーポレート・ガバナンスの持続的強化／
リスクコンプライアンスの高度化

地域・社会・コミュニティの持続可能性
への貢献

財務情報

概要、グループ会社



INDEX

イントロダクション

FDK グループの価値創造ストーリー

サステナビリティ

FDK アイデンティティにおける「10年の計」×サステナビリティ経営

サステナビリティマネジメント

マテリアリティ

安心安全な電気エネルギーの提供

地球環境との共生

多様な人材の活躍推進

コーポレート・ガバナンスの持続的強化／
リスクコンプライアンスの高度化

地域・社会・コミュニティの持続可能性
への貢献

財務情報

概要、グループ会社

3 多様な人材の活躍推進

FDKグループは、経営理念に「進化に挑戦 輝く未来と笑顔のために」を掲げており、この経営理念を実践するために、様々な取り組みを進めております。「人材」を企業の持続可能性を支える重要な経営資本の一つであると認識し、価値観が多様化する現代において、マイノリティやマジョリティに分け隔てなく、多様な個性とすべての人の権利を尊重し全従業員の能力を最大限に発揮できる環境づくりに取り組んでいます。そして働きがい、やりがいを感じられる人事制度の設計と運用、キャリア形成支援を充実させ、安心安全で、長期的に健康で働き続けられる職場づくりを進め、多様な人材が活躍できる誇れる会社、大切な人に勧めたい職場を実現してまいります。

リスクと機会

リスク

- 環境の変化により、働き方の多様性の高まりや入手することが可能な情報の増加により、個人が企業に求める内容が多様化・複雑化する
- 働きがいの低下・やりがいの低下により人材が流出する恐れがある
- 多忙感、人手不足、教育の機会の不足により業務効率・コンプライアンス遵守の意識低下につながり、企業価値が低下する恐れがある

リスクへの対応

- 活躍する機会の提供と創造(教育、DE&I(ダイバーシティ・エクイティ & インクルージョン))
- ニーズに合わせた自律的なキャリア形成・支援対応
- 安全で快適な職場環境づくり(コミュニケーション)
- 健康で働き続けられる職場づくりの実践(福利厚生)

機会

- 個人で入手可能な情報が増加することにより、価値観の多様化、異文化への理解、新しいアイデアの創造が期待される
- 変化やビジネスチャンスへの対応力強化につながる
- 転職市場が活発化することで即戦力の人材が確保できる

指標および目標

重点テーマ 全従業員の能力を最大限に発揮できる環境づくり

中長期目標	2025 年度実績
人材投資(教育)の充実	・次世代リーダーの育成強化 ・グローバル人材育成に向けた語学留学の継続およびオンライン英会話、AI 英会話の導入 語学留学1名、オンライン英会話53名受講、AI 英会話68名受講
DE&I(ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン)の推進	・女性管理職比率の向上(2.9%(新規1名登用)) ・男性：育児休職取得者10名、育児目的に関する休暇取得者22名 ・国際女性デー講演会の開催(聴講者114名) ・介護休職制度の周知、利用促進(制度利用方法のピラを発行、配布)
キャリア形成・能力開発支援	・資格手当および特殊作業手当制度の充実、資格取得の促進を図る ・シニア社員向けの研修開催、ネクストキャリア制度の見直し ・能力開発に向けたeラーニング、通信教育カリキュラムの充実 eラーニング:723コース、通信教育:224コース、合計171名受講

重点テーマ 健康で働き続けられる職場づくり

中長期目標	2025 年度実績
安全で健康的な職場の提供 ～快適な職場づくりの推進～	・労働災害ゼロに向けたリスク低減活動のさらなる進化 ・コンプライアンス便りの定期発行開始 ・安全衛生教育「交通安全について」のeラーニングの実施
健康経営の実現	・時間外労働平均時間11.56h ・有給休暇取得率83.4% ・定期健康診断受診率100%、二次検診受診率95.5% ・健康管理情報の整理、ヘルスリテラシー向上のための情報提供を実施し、「健康経営優良法人2026(ホワイト500)」を取得



INDEX

イントロダクション

FDKグループの価値創造ストーリー

サステナビリティ

FDKアイデンティティにおける
「10年の計」×サステナビリティ経営

サステナビリティマネジメント

マテリアリティ

安心安全な電気エネルギーの提供

地球環境との共生

多様な人材の活躍推進

コーポレート・ガバナンスの持続的強化／
リスクコンプライアンスの高度化地域・社会・コミュニティの持続可能性
への貢献

財務情報

概要、グループ会社

マテリアリティ

3 多様な人材の活躍推進

人的資本経営

人的資本経営の考え方

人的資本(教育)の充実

FDKグループは、従業員と会社が一体となって成長し合う組織づくりを行なっています。
経営戦略として「人材価値強化」を掲げ、従業員一人ひとりの能力を最大限発揮させるための教育・支援体制の整備を行なっています。

また、FDKグループの経営理念やVisionなどの長期的な視点に加えて、経営戦略の実現に向けた人材育成(教育テーマの選定)を目的に具体的な人材像の整理も行ないました。

- 顧客のニーズを正確に汲み取り、質の高いサービスを提供できるだけでなく、
新たな事業機会を創造できる人材
- 既存事業の強化と新規事業の開拓をバランス良く行ない、
成長を加速させることができる人材
- 先進技術を駆使して電気エネルギーの効率的な利用を推進し、
持続可能なソリューションを提供できる人材
- デジタル技術を活用して業務プロセスを再設計し、
企業全体の効率化と価値向上に貢献できる人材
- 多様な人材を活用し、文化の醸成と
DE&I(ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン)を推進できる人材

経営戦略の実現に向けた必要な人材に必要な能力要素を抽出

人材育成を目的に具体的な人材像を整理したうえで必要なカリキュラムを整理しています。

1. 顧客のニーズを正確に汲み取り、質の高いサービスを提供できるだけでなく、新たな事業機会を創造できる人材

●顧客理解と共感・市場洞察と分析力 ●設備とチームワーク ●創造性と革新性 ●持続可能なビジネス開発 ●プロアクティブな提案力
●デジタルリテラシーとデータ活用

2. 既存事業の強化と新規事業の開拓をバランス良く行ない、成長を加速させることができる人材

●戦略的思考と計画立案 ●プロセス最適化と運用効率化 ●リーダーシップとチームビルディング ●市場洞察力和機会発見 ●顧客関係管理とサービス向上
●財務分析とリスク管理 ●イノベーションと技術導入

3. 先進技術を駆使して電気エネルギーの効率的な利用を推進し、持続可能なソリューションを提供できる人材

●技術的専門知識 ●プロジェクト管理能力 ●顧客志向 ●持続可能性の理解 ●イノベーション志向 ●データ分析力 ●コミュニケーション能力

4. デジタル技術を活用して業務プロセスを再設計し、企業全体の効率化と価値向上に貢献できる人材

●デジタルリテラシーと技術活用 ●変革リーダーシップ ●ステークホルダー管理とコミュニケーション ●プロセス分析と再設計
●プロジェクトマネジメントと実行力 ●データドリブンな意思決定力 ●サイバーセキュリティとリスク管理

5. 多様な人材を活用し、文化の醸成とDE&I(ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン)を推進できる人材

●DE&I(ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン) ●リーダーシップとエンゲージメント ●政策とコンプライアンス ●文化の醸成と変革
●コミュニケーションと協力 ●人材育成能力とキャリアオーナーシップ ●変革管理と柔軟性

自律的な学習環境の構築

FDKグループでは、従業員一人ひとりが自ら考えたキャリア目標やそのスキル習得に向け、必要な教育や研修を自ら選択できるよう“自己選択型教育受講”(＝自律的学習)を推奨しています。

2025年4月より従業員が自律的に計画し実行できる力を養うため、教育体系の見直しを行ないました。階層別研修では、階層ごとに必要なスキルの習得をさせる、自己学習型研修(eラーニングの動画視聴)と経営幹部の講話・社内制度教育を集合型で実施するなど、ハイブリッド型で学習する体系に変更しています。

従来の教育形式

講師型による
短期集中の研修形式

今後の教育形式

講師型から動画聴講(理解度テスト付き)の**自己学習型研修**
へシフトし、自らスケジュールし必修テーマ、自ら選択した
テーマを学習する形式へ変更
※会社が必修テーマ・選択テーマを提供

現状の階層別研修の大枠

マインド
セット ①社長講話
②取締役講話知識・体系
の習得 各階層に合わせたテーマ
を講師型で研修(2日間)
※短期集中型

今後の階層別研修の大枠

①社長講話
②取締役講話

継続

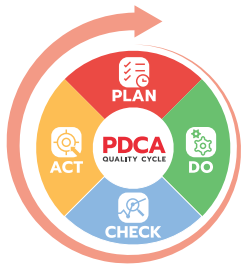
各等級の役割に応じたテーマを必須・選択式に
分類し動画視聴型の自己学習
※長期自己学習型

変更

自律的学習環境の構築は、育成・配置・成長を通じ“人材価値向上”を実現する仕組みであり、組織の競争力と人的資本価値が持続的に向上する戦略的效果が期待できると考えています。

今後は、PDCAを回しながら、自らのキャリア目標につながる学習環境の構築も考案する予定です。

目標のキャリア実現のために、今の自分に何が足りないか？何が必要なのかを考えて自己選択的キャリア形成(＝キャリアオーナーシップの仕組み)を構築いたします。





INDEX

イントロダクション

FDK グループの価値創造ストーリー

サステナビリティ

FDK アイデンティティにおける「10年の計」×サステナビリティ経営

サステナビリティマネジメント

マテリアリティ

安心安全な電気エネルギーの提供

地球環境との共生

多様な人材の活躍推進

コーポレート・ガバナンスの持続的強化／リスクコンプライアンスの高度化

地域・社会・コミュニティの持続可能性への貢献

財務情報

概要、グループ会社

マテリアリティ

3 多様な人材の活躍推進

目指すべき人物像

FDKグループでは、①経営理念・行動基準、②文化、③役員・幹部の共通コンピテンシーを“求める人物像”の策定に向けた「概念・考え方」として整理し、そこから導き出される重要なキーワードを抽出して「FDKグループの求める人物像」として掲げています。

① 理念・行動基準

経営理念

進化に挑戦 輝く未来と笑顔のために

行動基準

進化

固定された概念や自分の殻を打ち破ります
日々変化する多様な世の中に対応します

挑戦

チャレンジすることを恐れず、一歩踏み出す勇気を持ちます
失敗から学び、互いに助け合い、成長を繰り返す組織風土をつくります

未来

世界の人々に安全で高品質な製品・サービスを届け、快適な日常と利便性を提供します
地球と生命にやさしい環境保全に取り組みます

笑顔

私たち自身が生き生きと働きを放つ働き方を実践します
お客様、従業員、株主、家族、大切な人たちの笑顔が絶えない世の中の実現を目指します

② 文化（10年の計戦略方向性）

自律的に団結 / 協調してお客様に満足していただく文化醸成

1. Operating Modelの明確化（各部門の役割と責任）と全社目標を意識した各部門目標の明確化
業績連動型報酬の導入（特に営業）、自主研活動/STEP-UP制度の浸透・強化

2. 中長期視野にたったTalent Managementの強化
後継者パイプライン棚卸と育成プログラム展開、部門間 Rotation/ 中途採用による人材活性化

3. 従業員の声を聞き上げ、経営に反映させる仕組み確立
従業員調査（毎年）と Follow-Up Action, 360 度評価、
従業員や経営陣の Communication 強化（All Hands, Town Hall, 目安箱等）

③ 役員・幹部コンピ

役員共通
コンピテンシー

人格（道徳・倫理・高潔）
他者への尊重・向上心

幹部社員共通
コンピテンシー

品格（コンプラ意識・模範となる）
コミュニケーション（傾聴・信頼）

①誠実(Honesty)

高い道徳観・倫理観を持ち誠実に行動する

②尊重(Respect)

相手を認め尊重し行動する

③挑戦(Challenge)

失敗を恐れず前向きに挑戦する

④自律(Initiative)

自らが考え主体的に行動し責任をもってやり遂げる

⑤変革(Innovation)

固定概念に捉われず、変革を常態化する

FDKグループが求める人物像

1. 高い道徳観および倫理観を持ち、互いを尊重し常に誠実に行動する。

2. 固定概念にとらわれず常に変革を意識し、失敗を恐れず挑戦する。

3. 自らが考え、主体的に行動し、粘り強く最後までやり遂げる。

多様な人材獲得

採用活動の状況

FDKグループは、多様な人材に活躍していただくため、新卒採用・キャリア採用をはじめ、従業員から友人・知人を紹介いただくリファラル採用の導入や、リクルーター制度、インターンシップ、外国人の採用などを継続的行なっています。

新卒採用（高卒のみ）

【過去10年間の採用推移】

2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025
18	18	19	11	5	16	15	11	7	8

新卒採用（大卒※高専・大学院を含む）

【過去10年間の採用推移】

2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025
12	16	19	10	16	15	17	11	8	10

新卒採用（高卒・大卒）

【過去10年間の採用推移】

2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025
30	34	38	21	21	31	32	22	15	18

外国人採用

2026年3月末時点在籍人員：19名（2026年4月：新卒2名採用予定）

【過去10年間の採用推移】

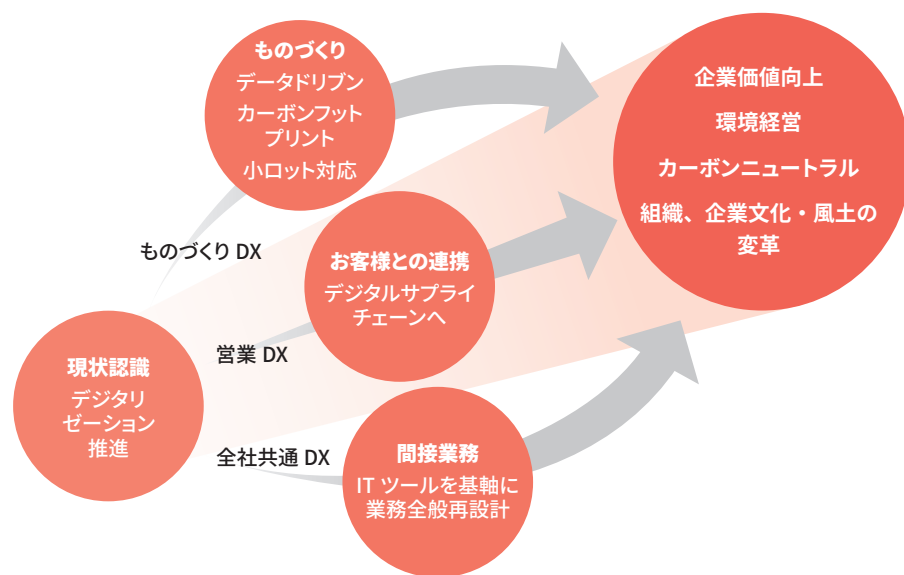
2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025
1	－	2	－	2	1	－	1	2	2

3 多様な人材の活躍推進

DXへの取り組み～DX戦略～

FDKグループのDXは、現状業務の見直しを起点としてデジタル技術とデータを活用し、「ものづくり」「営業」「全社共通」の各領域における業務プロセスの再設計と高度化を推進する取り組みであり、全社横断のDXプロジェクトとして全従業員一丸となって推進しています。

これにより、お客様・株主様・従業員・社会の期待に応える新たな価値を提供するとともに、企業価値の向上を図ります。また、環境負荷低減に配慮した事業活動を推進し、環境経営への貢献を進めるとともに、業務プロセスや意思決定の変革を通じて、組織および企業文化・風土の変革を実現していきます。



ものづくり DX

ものづくり DXでは、製造現場におけるデータの収集・蓄積・活用を基盤として、生産プロセスの可視化および最適化を推進しています。製造設備や工程から取得したデータを活用することで、生産状況の把握やボトルネックの特定を可能とし、生産性向上と品質向上の両立を図っています。

また、多様な生産要求に柔軟に対応するため、デジタル技術を活用して製造プロセスの最適化を進め、スマートファクトリーへの変革を目指しています。これにより、安定した品質確保と効率的な生産体制の構築に加え、環境負荷低減にも取り組み、持続可能な社会の実現に貢献していきます。

さらに、在庫の適正化や工程管理の高度化を進めるとともに、AIの活用による品質判定など、これまで人の経験や勘に依存していた業務の高度化にも取り組んでいます。

営業 DX

営業 DXでは、顧客接点で得られるデータの蓄積・活用を基盤として、顧客理解の深化と提案力の高度化を推進しています。SFA(営業支援システム)およびCRM(顧客関係管理)の導入により、顧客情報や商談状況の一元管理と営業活動の可視化を実現し、属人的な営業から組織的な営業への転換を図っています。

また、顧客プロセスを踏まえた営業活動の見直しにより、提案型営業への転換を進めるとともに、今後はお客様との協創による価値創出にも取り組んでいきます。これにより、成約確度の向上と顧客満足度の向上に加え、中長期的な関係構築と収益機会の拡大を図ります。

さらに、顧客データや市場データの収集・蓄積基盤の整備を進めており、今後はこれらのデータ分析を通じて営業活動の高度化を図り、データに基づく意思決定と営業活動全体の最適化を推進していきます。

全社共通 DX

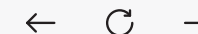
全社共通 DXでは、各部門の業務プロセスをデジタル技術の観点から見直し、業務の標準化・効率化・高度化を推進しています。RPAや生成AI、ローコードツールなどの活用により、定型業務の自動化や業務精度の向上を図るとともに、従業員がより付加価値の高い業務へシフトできる環境を整備しています。

また、部門ごとに分散していたデータの集約・可視化を進めることで、部門横断での情報共有を実現し、データに基づく迅速かつ高度な意思決定を可能としています。これにより、全社的な業務最適化と生産性向上を実現しています。

さらに、現場主導による業務改善の取り組みを促進し、継続的に改善が生まれる仕組みを構築することで、DXの定着と企業文化・風土の変革につなげています。



HOME



INDEX

イントロダクション

FDKグループの価値創造ストーリー

サステナビリティ

FDKアイデンティティにおける
「10年の計」×サステナビリティ経営

サステナビリティマネジメント

マテリアリティ

安心安全な電気エネルギーの提供

地球環境との共生

多様な人材の活躍推進

コーポレート・ガバナンスの持続的強化／
リスクコンプライアンスの高度化地域・社会・コミュニティの持続可能性
への貢献

財務情報

概要、グループ会社

3 多様な人材の活躍推進

社内業務の再設計(生成AIによる特許調査プロセスの革新)

法務・知的財産部では、生成AIの導入を契機として、特許調査業務の抜本的な再設計に取り組んでいます。

出願しようとする発明について先願調査を行なう場合、従来は、膨大な数の特許文献の査読やスクリーニングを人手に依存していたため、調査の長期化やリソースの偏在が生じ、知財戦略の迅速な展開が阻害されるという課題が顕在化していました。

特許調査における課題は「スピード感」

膨大な数の文献チェックとスクリーニングによる“調査の長期化”



この課題を解決するために、生成AIを中核とした調査プロセスへと再構築しました。まず調査対象とする特許を抽出した後、生成AIがプロンプト(生成AIへの指示文)に基づいて一次査読を行ない、出願予定の発明との類似に関する該否判定とその根拠を体系的に整理します。次に、その結果を踏まえて、人手による二次査読を行ない、出願の可否を最終判断するというハイブリッド型の運用へと転換しました。

生成AIが膨大な特許の読み込みや分析を肩代わりします

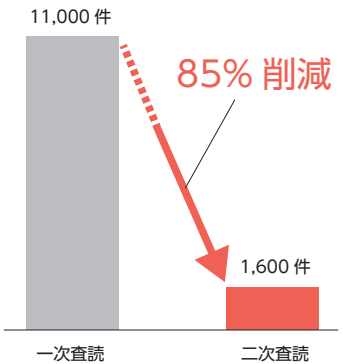


本取り組みにより、従来は人手に依存していた特許調査業務の大部分を生成AIが代替し、効率性と品質を両立したプロセスを確立しました。

実際の事例では、約11,000件の調査対象特許に対して、生成AIが8つの条件に基づいて一次査読を行ない、関連性の高い特許文献を約1,600件まで絞り込みました。その結果、調査工数を約85%削減し、リードタイムを従来比で約1/8に短縮しました。

さらに、プロンプトの最適化によるスクリーニング精度の向上と、人手による最終判断を組み合わせることで、効率化と品質担保の両立を図っています。

今後は、生成AIを活用することによって創出された人的リソースを知財戦略への注力および技術者への発明支援に再配分することで、より市場競争力の高い製品の開発につなげていきます。



INDEX

イントロダクション

FDKグループの価値創造ストーリー

サステナビリティ

FDKアイデンティティにおける「10年の計」×サステナビリティ経営
サステナビリティマネジメント

マテリアリティ

- 安心安全な電気エネルギーの提供
- 地球環境との共生
- 多様な人材の活躍推進
- コーポレート・ガバナンスの持続的強化／リスクコンプライアンスの高度化
- 地域・社会・コミュニティの持続可能性への貢献

財務情報

概要、グループ会社

基本的な考え方

FDKグループでは、企業と個人がともに成長できるよう、国籍、性別、性的指向、年齢、障がいの有無、宗教、価値観にかかわらず、多様な人材を受け入れ活かすことを方針としています。

あるべき姿

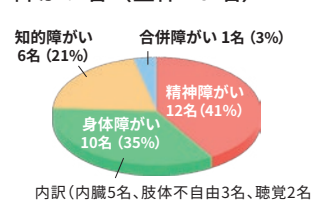
FDKグループで働くすべての人が、あらゆる差別を排除し、多様な人材を受け入れ、それらの行動を実践している状態のあるべき姿としています。

施策と取り組み事例

1. 障がい者雇用状況

2018年から精神障がい者が雇用義務対象に加えられ、2025年には障がい者雇用率は2.5%となりました。さらに、2026年7月には、2.7%へ引き上げとなる予定です。雇用後、数年で退職されるケースが散見される中、状態が不安定な方への対応や新規受け入れが容易ではないことから、より安定した職場定着や新規採用につなげていく取り組みをおこなっています。

障がい者（全体 29 名）



障がい者雇用取り組み内容

1 職業訓練の活用

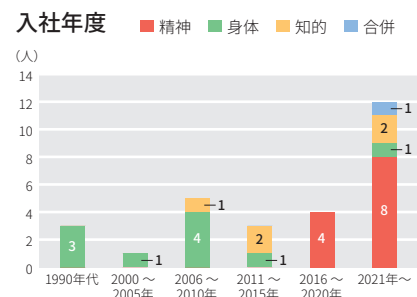
- 職業訓練校や地域のサポートセンターと連携し、工場内で3カ月間の訓練を実施

2 受け入れ時の工夫（職場に対し情報提供）

- 一般的な障がい特性の情報提供
- 各人の障がい特性の情報共有

3 定着化へ向けて

- スキル把握シートの活用、業務スケジュールの事前連絡
- 定期的な面談実施
- 外部支援機関との連携
- サポーター養成講座の受講勧奨



2. 特別支援学校の生徒による職場実習

FDKグループでは、各工場において職業訓練校からの生徒について「職場実習」の受け入れを行っています。支援学校高等部の1,2年生の生徒が、約2週間の職場実習を通して学校とは違う環境で、実際の仕事を体験することで、将来、社会に出て働く意欲、人との関わり合い方など、実践を通じて学び、養われる力は個々の能力アップにつながると考えています。

また、将来、採用された場合は、適材適所で活躍してもらうことができ、業務効率や生産性の向上も期待できます。社内で多様な価値観を持つ人材が揃うことで、組織全体の活性化にも寄与すると考えています。

主な職場実習内容

- 部品の前加工
- ピッキングシステムを使用した数量チェック
- 外観検査装置を使用した外観検査
- 部品の仕分け作業
- クッション材のカット作業 など



3. 研修、講演会による啓発活動の充実

マネジメント研修において、誰もが働きやすい環境を整備するための講義を実施しました。

- 仕事と介護の両立をするために必要なこと
- 無意識な偏見および無意識に行なわれるパワハラに注意
- 良好な職場環境をつくる（心理的安全性を保つ工夫、改善点のグループ討議も実施）

国際女性デーに合わせ、“個を活かすリーダーシップのヒント”をテーマに、自分と他者との違いを認識し相手の価値観を尊重した風通しの良いチームをつくる講演会を開催しました。

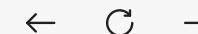
4. 地域と社会への貢献活動

FDKグループでは、地域貢献活動として、障がい者就労施設で就労する障がい者や在宅で就業する障がい者の経済面の自立を支援するために、障がい者就労施設等からの物品購入を優先的かつ積極的に進めています。

湖西工場にて浜松市浜名区三ヶ日にある「NPO 法人すだち：3st factory(サンスト ファクトリー)」様が製造されたケーキ・クッキー等の販売を行ないました。



HOME



INDEX

イントロダクション

FDK グループの価値創造ストーリー

サステナビリティ

FDK アイデンティティにおける
「10年の計」×サステナビリティ経営

サステナビリティマネジメント

マテリアリティ

安心安全な電気エネルギーの提供

地球環境との共生

多様な人材の活躍推進

コーポレート・ガバナンスの持続的強化／
リスクコンプライアンスの高度化

地域・社会・コミュニティの持続可能性
への貢献

財務情報

概要、グループ会社

3 多様な人材の活躍推進

5. 次世代育成支援に関する取り組み

FDKグループは、「次世代育成支援対策推進法」に基づく行動計画に沿い、従業員一人ひとりが元気にやりがいを持って働くことができる環境の実現に向け、「ワーク・ライフ・バランス」の推進などに積極的に取り組んでいます。2016年には「プラチナくるみん」認定を受けました。



6. 女性活躍推進に関する取り組み

2016年4月に施行された「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律」に基づき、行動計画を策定し、男女ともに活躍できる企業を目指し取り組んでいます。

「第2期行動計画」の取り組み結果

目標1: 管理・監督的地位に占める女性比率の推移(2021年～2025年)

	2021年度 年初	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
女性管理職人数(人)	3 / 239	3 / 242	4 / 252	5 / 243	6 / 235	6 / 206
女性監督職人数(人)	19 / 228	20 / 239	23 / 267	25 / 260	26 / 248	25 / 230
女性幹部社員比率(%)	1.3	1.2	1.6	2.1	2.6	2.9
女性管理・監督職 2021年度からの増加率(%)	—	104.5	122.7	136.4	145.5	140.9

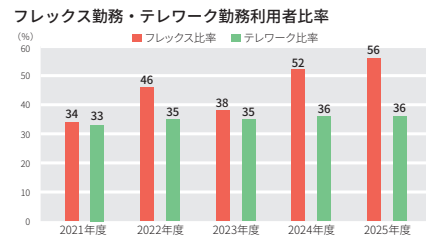
次世代管理職候補者養成研修受講者に占める女性比率の推移(2021年～2025年)

	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
女性受講者比率(%)	3	3.8	5.3	7.1	9.1	13.6

将来の幹部社員候補に向けた研修の受講生の比率は毎年上がっていますが、女性管理監督職の比率は目標未達となりました。

目標2: 柔軟な働き方に資するフレックスタイム制・テレワーク等の利用率を2021年度から25%アップする

フレックス 人数	フレックス 比率	テレワーク 人数	テレワーク 比率
2021年度 575人	34%	574人	33%
2022年度 810人	46%	610人	35%
2023年度 653人	38%	608人	35%
2024年度 875人	52%	611人	36%
2025年度 900人	56%	573人	36%



フレックス・テレワーク利用率とも25%以上の目標を達成しました。

なお、「第3期行動計画」については当社WEBサイトをご参照ください。

https://www.fdk.co.jp/sustainability/supporting-female-employees-plan_03.pdf

第2期行動計画(2021年4月1日～2026年3月31日)

女性の活躍を一層推進し、男女ともに長く勤められる職場環境を作るため、次の通り行動計画を策定する。

1. 計画期間

2021年4月1日～2026年3月31日の5年間

2. 当社の課題

課題1: 職場マネジメントが一部不十分であり、制度利用が理解されていない。

課題2: 出産・子育て・介護等をしながら働き続ける人を支援する職場風土が必要。

課題3: 柔軟な働き方に対する職場の理解が不十分で、急な休みをとりにくい。

3. 目標と取り組み内容・実施時期

目標1: 管理・監督的地位に占める女性の割合を、2021年度から150%以上*とする。

＜取り組み内容＞

2021年4月～ 女性活躍を支援する、ダイバーシティ推進室の定例会を開催し、活動状況の確認、各種施策・効果の情報共有を図った。

2021年4月～ 自己啓発カリキュラムを提供し、個人のキャリアアップを支援した。

2021年6月～ 次世代リーダー養成のための研修へ、女性の参加者を増加させた。

2021年9月～ 管理・監督職を対象としたマネジメント研修を開催した。

2022年10月～ 女性管理職・監督職との意見交換会を開催した。

目標2: 柔軟な働き方に資するフレックスタイム制、テレワーク等の利用率を2021年度から25%アップする。

＜取り組み内容＞

2021年4月～ 制度のブラッシュアップを行ない、定期的な周知を行なった。

2021年6月～ テレワーク用の環境を整備した。

2021年9月～ ワーク・ライフ・バランスの重要性をマネジメント研修会で周知した。

2021年9月～ テレワーク上のマネジメントのポイント・課題の教育を実施した。

* 2021年4月1日時点の「管理・監督的地位の女性人数」を100%とした比率



HOME



INDEX

イントロダクション

FDKグループの価値創造ストーリー

サステナビリティ

FDKアイデンティティにおける
「10年の計」×サステナビリティ経営

サステナビリティマネジメント

マテリアリティ

安心安全な電気エネルギーの提供

地球環境との共生

多様な人材の活躍推進

コーポレート・ガバナンスの持続的強化／
リスクコンプライアンスの高度化

地域・社会・コミュニティの持続可能性
への貢献

財務情報

概要、グループ会社

人材育成

FDKグループの人材育成については、大きく4つのテーマに分けて考えており、それぞれのテーマに沿った教育に取り組んでいます。

1. 階層別研修

新入社員から幹部社員まで、各職責に求められる教育の充実を図ります。

2. 育成研修

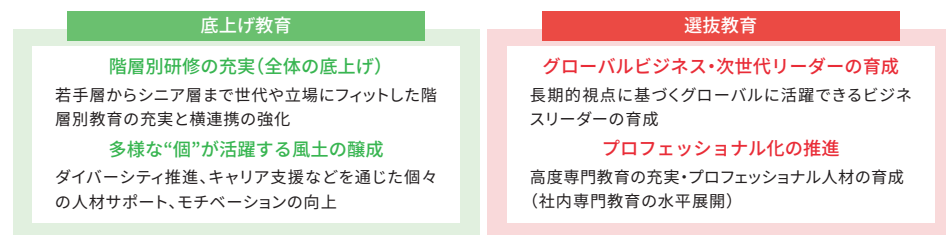
各専門分野でのプロフェッショナルの育成を目的に、技術検定をはじめとした各種検定の受験、専門セミナーの受講、先端技術の習得と高度なスキルの向上を図ります。

3. ビジネスリーダー育成

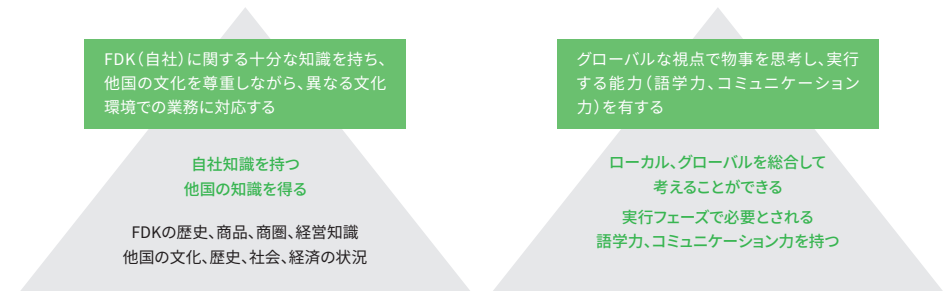
次世代リーダー研修、育成リーダー養成研修、グローバル人材の育成(語学留学)など、組織活性化につながるマネジメント力の強化および人材育成への理解・働きかけを行ないます。

4. 多様な個の成長支援

キャリアデザイン研修・キャリア支援等を通じて個々の人材サポート・モチベーションの向上を図ります。



グローバル人材イメージ図



各種教育研修の見直し

従業員が自立的に計画し、実行できる力を養うための学習環境を整えました。

1. 階層別教育の見直し

カリキュラム内容を階層ごとに必要な役割・期待に特化した内容にブラッシュアップしました。階層ごとのスキル習得をさせる自己学習型研修(eラーニングの動画視聴)も取り入れました。

2. 自己啓発に向けた個人学習ができる機会を提供

eラーニングの動画視聴や通信教育を取り入れ、スキルアップを目指して手軽に学べる学習の機会を提供しています。

3. 語学力向上への取り組み

語学力強化のためオンライン英会話、AI英会話を導入し、個々の能力に合わせた学習環境を整えました。

スマートフォンを使って、自宅・通勤中、仕事の休憩時間、休日など場所を選ばず、好きな時間に好きなだけ、自分のペースに合わせた学習ができ、語学力を向上させることができます。

4. 資格手当制度の見直し

個人の能力向上、モチベーションアップを目指し、資格手当制度の見直しを行ないました。事業運営上の必要なスキルの習得または、リスクリングを促進することで、従業員の人材価値向上にもつながると考えています。(専門人材の育成・確保)

【見直し内容】

- ① 資格手当一覧の項目を拡充および手当金額を改定
- ② 支給基準の明確化、従業員への周知、利用促進
- ③ 合格報奨金に関する全社統一ルール策定(難易度・推奨度を勘案した金額の決定)
- ④ 受験料サポートに関する全社統一ルール策定(講習受講料、受験料など必要な費用を補助)
- ⑤ 適用者の拡大:業務に必要で職制長が認めた全従業員が対象



HOME



INDEX

イントロダクション

FDKグループの価値創造ストーリー

サステナビリティ

FDKアイデンティティにおける「10年の計」×サステナビリティ経営

サステナビリティマネジメント

マテリアリティ

安心安全な電気エネルギーの提供

地球環境との共生

多様な人材の活躍推進

コーポレート・ガバナンスの持続的強化／リスクコンプライアンスの高度化

地域・社会・コミュニティの持続可能性への貢献

財務情報

概要、グループ会社

安全衛生活動の考え方

働くすべての人の輝く未来と笑顔のため安全第一に徹し、安全で健康的な職場づくり、心と身体健康づくりで「労働災害ゼロ」・「疾病ゼロ」を目指し、挑戦し続けます。全社でこれらの取り組みを推進するため、「FDK グループ労働安全衛生・環境方針」を制定しています。(P42)

労働安全衛生推進体制

FDKグループでは、全社の安全衛生活動を統括する「中央安全衛生委員会」を四半期ごとに開催し、労働安全衛生に関する方針・活動計画を策定しています。また、各事業所では労使合同の「事業所安全衛生委員会」を毎月開催し、計画に基づく安全衛生活動を推進しています。さらに、多くの事業所で労働安全衛生マネジメントシステム(ISO45001)の認証を取得しており、その運用を通じて労働災害の防止と安全衛生水準の向上に取り組んでいます。

従業員の安全衛生意識向上への取り組み

各階層へマネジメントシステムに従った安全教育と全従業員を対象にしたeラーニングを実施しています。製造現場で働く新卒者・中途入社者へは雇入れ教育を実施し、各現場のリスクについて理解を深めてから業務へ入れるようにしています。その他、定期的な緊急時対応訓練等を実施しています。

相互安全パトロールによる潜在リスクの抽出と労働災害の防止

潜在リスクの抽出と労働災害の防止を目的に、子会社を含む他拠点の従業員が各職場を巡回する「相互安全パトロール」を年1回実施しています。

第三者視点により抽出された気づき事項や良い事例を活用し、継続的な改善を通じて、安全で健康的な職場づくりを推進しています。



ISO45001 認証取得状況

2025年度は、これまで生産拠点ごとに個別で取得していた ISO 45001 認証を統合し、国内生産拠点として統合認証を取得しました。また新たにBAOTOU FDK CO., LTD.が認証を取得しました。

FDK 株式会社

● 湖西工場・鷺津工場・高崎工場・鳥取工場

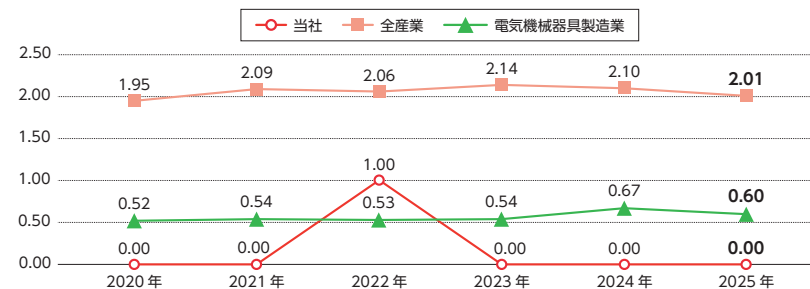
海外グループ会社

● FUCHI ELECTRONICS CO., LTD.(台湾・富積)

● XIAMEN FDK CORPORATION(中国・廈門)

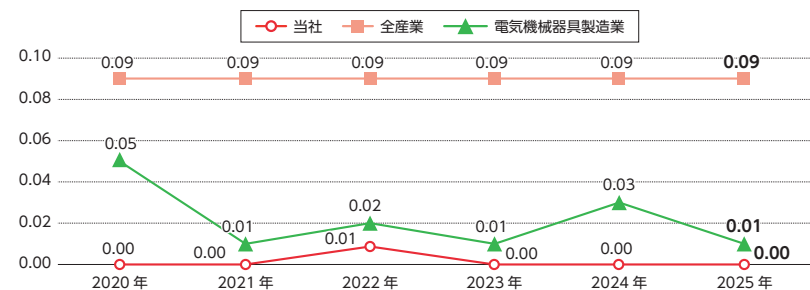
● BAOTOU FDK CO., LTD.(中国・包頭)

度数率推移



度数率…100万延べ実働時間あたりの労働災害による死傷者数

強度率推移



強度率…1,000延べ実労働時間あたりの労働損失日数



HOME



INDEX

イントロダクション

FDK グループの価値創造ストーリー

サステナビリティ

FDK アイデンティティにおける
「10年の計」×サステナビリティ経営

サステナビリティマネジメント

マテリアリティ

安心安全な電気エネルギーの提供

地球環境との共生

多様な人材の活躍推進

コーポレート・ガバナンスの持続的強化/
リスクコンプライアンスの高度化

地域・社会・コミュニティの持続可能性
への貢献

財務情報

概要、グループ会社



INDEX

イントロダクション

FDK グループの価値創造ストーリー

サステナビリティ

FDK アイデンティティにおける「10年の計」×サステナビリティ経営

サステナビリティマネジメント

マテリアリティ

安心安全な電気エネルギーの提供

地球環境との共生

多様な人材の活躍推進

コーポレート・ガバナンスの持続的強化／
リスクコンプライアンスの高度化

地域・社会・コミュニティの持続可能性
への貢献

財務情報

概要、グループ会社

健康経営に取り組む目的・方針

健康経営宣言

当社グループは、経営理念として「進化に挑戦 輝く未来と笑顔のために」を掲げており、企業活動の中心である従業員が心身ともに健康であり、公私ともに充実した生活を送ることができるとともに、活力に満ちた職場環境の実現に向けて従業員の健康維持・増進に取り組むことを宣言します。

重点施策

当社グループは主要拠点に健康管理スタッフを配置し、健康保険組合と連携して、ありたい姿と重点施策を定め、従業員とその家族の健康保持・増進およびヘルスリテラシー（健康に関わる素養）を高める健康支援活動に取り組んでいます。

- 1. 経営的視点の体制整備
- 2. 生活習慣病予防対策
- 3. ワークライフバランスの向上

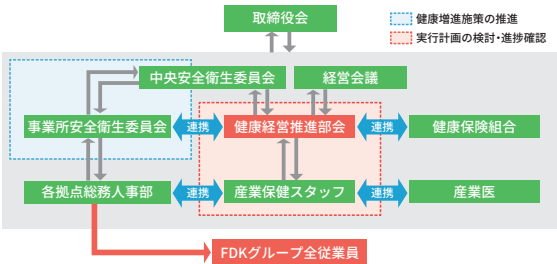
ありたい姿

- 心身とも健康で安全に働ける職場環境の構築
- 健康意識を高く持つ企業文化を定着し、生産性向上を図る
- 全従業員が能力と個性を最大限に発揮し、お客様への期待に応える

推進体制

健康経営推進部会が健康に係る計画・実施・検証ならびに社内展開などの取り組みを推進しています。

その結果を中央安全衛生委員会、経営会議に報告・附議し取締役会による監督を受ける体制となっています。



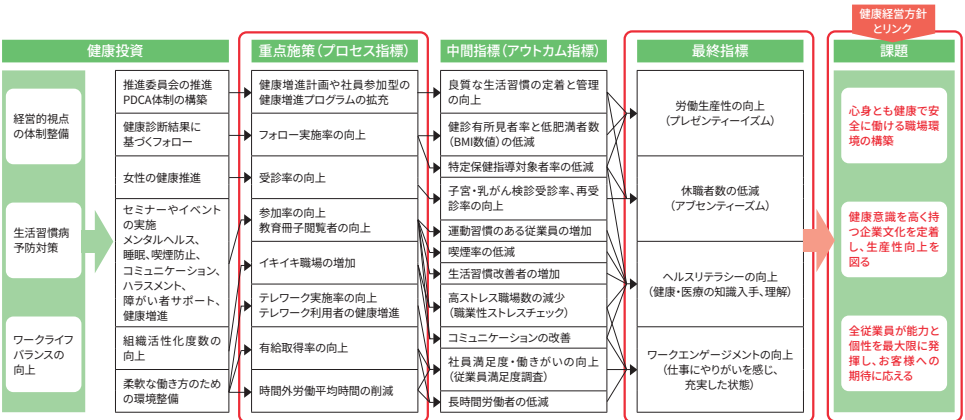
健康経営方針

1. 当社グループは生活習慣病予防や適切な健康診断による病気の早期発見に取り組むとともに、健康診断結果に基づくフォローアップの徹底により従業員とその家族の疾病予防に取り組みます。
2. 当社グループは、すべての従業員の健康を守るために従業員のヘルスリテラシー（健康意識・知識）の向上を目的に健康増進に向けた情報発信に取り組みます。
3. 当社グループは、従業員一人ひとりが能力と個性を最大限に発揮でき、イキイキと働くことができる安心・安全な職場環境の実現に向けてコミュニケーションの活性化に取り組みます。

目標と実績

最終的な目標指標

- 労働生産性の向上：プレゼンティーイズムの改善
- 休職者数の低減：アブセンティーイズムの改善
- ヘルスリテラシーの向上：健康・医療の知識入手、理解
- ワークエンゲージメントの向上：仕事にやりがいを感じ充実した状態



健康経営優良法人 2026 ホワイト 500 の認定取得

	Year 0 -2022-	Year 1 -2023-	Year 2 -2024-	Year 3 -2025-
認定結果	簡易版のため認定なし	2024 健康経営優良法人 Health and productivity 500	2025 健康経営優良法人 Health and productivity 500	2026 健康経営優良法人 Health and productivity 500
総合順位	2551~2600位 / 3167社	751~800位 / 3520社	501~550位 / 3869社	451~500位 / 4175社
総合評価	41.6	58.4	60.9	62.2

健康経営活動は、2022年より方針、重点施策を整理し、取り組んだ結果、2023年度から健康経営優良法人として認定を受けることができました。

さらに、3年間で評価スコアが、約20ポイントアップし、自社初となる「健康経営優良法人 2026 ホワイト 500(大規模法人部門)」の認定を取得しました。引き続き維持・向上に向けた活動を行なってまいります。

2025年度の具体的な取り組みの目標値と実績値

プロセス指標

重点施策	指標	2025年度			2024年度 実績	2026年度 目標
		目標	実績	対前年		
生活習慣病予防対策	一次検診受診率	100%	100%	→	100%	100%
	二次検診受診率	95.2%	95.5%	↗	91.3%	95.2%
	特定保健指導実施率		64.8%	—		
	セミナーやイベントの参加率	20.0%	20.2%	↗	19.4%	20.0%
	eラーニング受講率	96.0%	97.8%	↗	95.7%	97.0%
ワークライフバランスの向上	有給休暇取得の平均取得率	80.0%	83.4%	↗	79.9%	80.0%
	時間外労働平均時間	10h	11.56h	↗	11.59h	10h

アウトカム指標

重点施策	指標	2025年度			2024年度 実績	2026年度 目標
		目標	実績	対前年		
検診診断結果	メタボ該当率	11.1%	13.8%	↘	12.4%	11.1%
	婦人科検診受診率 子宮頸がん検診、乳がん検診を いずれか一方でも受診した割合	88.0%	71.9%	↘	80.1%	88.0%
疾病による休業の状況	メンタルヘルス不調による欠勤・ 休職者率	0.35%	0.90%	↘	0.66%	0.35%
	その他の疾患による欠勤・休 職者率	0.35%	0.50%	↗	0.53%	0.20%
	妊娠起因・外傷などを除く					
生活習慣・健康行動の状況	喫煙率	28.0%	27.6%	↗	29.7%	28.0%
	運動習慣のある従業員の増加	70.0%	56.1%	↘	66.7%	70.0%
労働生産性の向上(新規)		85%	81.8%	↘	83%	85%
従業員満足度調査結果 「仕事をしていると活力がみなぎるように感じる」 「自分の仕事に誇りを感じる」2問の平均点 ※各設問 1～4点で評価		2.8	2.6	↘	2.8	2.8
ストレスチェック受検率		100%	99.9%	↘	100%	100%
高ストレス者率		8.0%	10.4%	↗	11.3%	8.0%

主な取り組み施策

当社は、生活習慣病改善のため、春・秋の年2回「ウォーキング運動」の開催、年4回の保健師による「健康たより」発行、健康の知識向上のeラーニング実施、健康川柳募集等を行なっています。

- ウォーキング運動参加者：全拠点788名の従業員が参加しました。
- 健康たよりのテーマ 6月：熱中症予防 9月：虫歯予防デー 10月：女性の健康情報 12月：腰痛予防（ストレッチ方法）
- eラーニングのテーマ：介護に関する知識・備えについて ストレス(セルフケア)について
- 健康川柳の募集：全国生活習慣病予防月間に合わせて、従業員一人ひとりが健康意識を高めるために、意識改革イベント「健康川柳」を募集しました。

■テーマ：高血圧(全般)

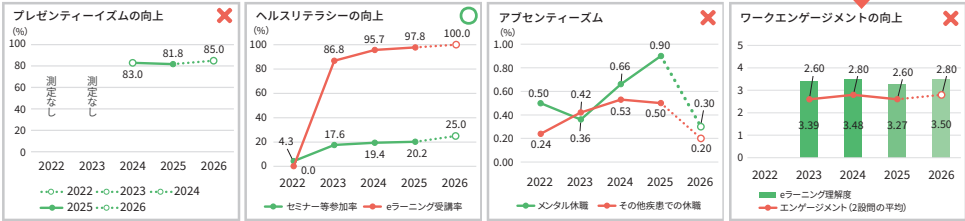
予防・改善・気づき・あるあるネタなど個人の視点で自由に表現可能

■応募結果：応募者数79名 応募作品243件

2025年度 健康川柳最優秀作品：「妻にバレ 塩分控えめ 塩対応」

健康経営の効果

最終指標



- 2025年度の結果は、4指標中、3指標で目標未達になりました。
- ワークエンゲージメント向上における「自分の仕事に誇りを感じる」の設問が悪化しており個人が自分自身の働き方に価値を見出すことが難しくなっている傾向が見受けられます。今後、キャリア支援により自身の価値を再確認する機会を設ける予定です。



INDEX

イントロダクション

FDK グループの価値創造ストーリー

サステナビリティ

FDK アイデンティティにおける
「10年の計」×サステナビリティ経営

サステナビリティマネジメント

マテリアリティ

安心安全な電気エネルギーの提供

地球環境との共生

多様な人材の活躍推進

コーポレート・ガバナンスの持続的強化／
リスクコンプライアンスの高度化

地域・社会・コミュニティの持続可能性
への貢献

財務情報

概要、グループ会社

サンクスポイント制度の導入

サンクスポイント制度の概要

当社では、2022年より新人事システムとして「カオナビ」を導入しております。

カオナビ上では、社員情報、人事評価をはじめ、社員同士のコミュニケーションツールとしてサンクスポイントを贈り合える項目を適用しました。サンクスポイント制度の導入は、「認め合い・高め合う文化の醸成」につながる環境整備です。

サンクスポイントとは、年間を通し、業務内、業務外で、いつでも感謝をしたい人へサンクスポイントを付与し、「ありがとう」という感謝の気持ちを伝え、褒め合うことで、一人ひとりのモチベーションアップ、エンゲージメントの向上、最終的には企業価値向上を目指します。

運用方法

- 対象者：全社員参加可能
- 付与方法：カオナビシステムにログインし、対象者へポイントを付与
- ポイント付与数：年間300ポイント/人を保有し、1～10ポイントの感謝ポイントを随時付与できます。一度に贈れるポイントの上限は50ポイントまで
- 適用期間：1月～12月の1年間（毎年更新）

特別ポイントの設定：社長ポイント、工場長等ポイント

社員同士のポイント付与に加えて、会社が認めた貢献度の高いイベントに参加した方に、社長または工場長等から特別なポイントが付与されます。

社長ポイント・工場長等ポイントの基準(10ポイント/回)

- 社会への知名度、貢献度の向上につながる活動（FDK社員として誇りある活動）
 - ▶ ボランティア、地域貢献
- 公共面、社会面でみて貢献度の高い、意義のある活動 ▶ 献血、ボランティア、清掃
- 会社の代表として評価に値する実績 ▶ 外部表彰
- 会社の経営の一端として、貢献度のある活動 ▶ 健康経営

年間表彰

サンクス(感謝・褒め合う)の活動を社内に浸透させるため、サンクスポイント進呈と受領ランキング上位者の社員を社内で公開しています。

ポイントの集計期間は、適用期間の1年間(1月～12月)で、受領したポイント数、件数を集計します。

■2025年の実績

社長・工場長等ポイント付与の実績

社長ポイント	： 218件(2,180P)	（参考）2024年実績	306件(918P)
本社・営業代表者	： 37件(370P)	2024年実績	11件(110P)
高崎工場長	： 145件(1,101P)	2024年実績	131件(1,155P)
湖西工場長	： 52件(520P)	2024年実績	120件(600P)
鳥取工場長	： 946件(9,460P)	2024年実績	672件(2,016P)
鷺津工場長	： 172件(1,720P)	2024年実績	95件(950P)

■2025年の社内表彰

※受領(もらった)ポイントの全社ランキング10位まで社内公表しています。

順位	ポイント数	もらった件数	順位	ポイント数	もらった件数
1位	1,167P	133件	6位	626P	45件
2位	756P	99件	7位	603P	67件
3位	717P	90件	8位	596P	71件
4位	693P	99件	9位	590P	86件
5位	634P	31件	10位	547P	62件

（参考）2025年にポイントをあげた方は、257名です。

ポイント交換

もらったポイントは、無期限で累積し、各自が好きな商品と交換ができます。

■換算レート：1P＝10円相当(2025年交換件数:402件)

50P(500円相当)	▶ 会社が指定した7種の商品より選択	197件
100P(1,000円相当)	▶ 会社が指定した8種の商品より選択	192件
300P(3,000円相当)	▶ カタログギフト(好きな商品を選択)	8件
500P(5,000円相当)	▶ カタログギフト(好きな商品を選択)	2件
1,000P(10,000円相当)	▶ カタログギフト(好きな商品を選択)	3件



HOME



INDEX

イントロダクション

FDKグループの価値創造ストーリー

サステナビリティ

FDKアイデンティティにおける
「10年の計」×サステナビリティ経営

サステナビリティマネジメント

マテリアリティ

安心安全な電気エネルギーの提供

地球環境との共生

多様な人材の活躍推進

コーポレート・ガバナンスの持続的強化／
リスクコンプライアンスの高度化地域・社会・コミュニティの持続可能性
への貢献

財務情報

概要、グループ会社

4 コーポレート・ガバナンスの持続的強化／リスクコンプライアンスの高度化

FDKグループでは、多岐にわたるステークホルダーとの良好な関係が当社の企業価値の重要な一部を形成するものと認識しています。そのような関係を築くためにはステークホルダーの立場を踏まえ、経営の透明性と客観性を確保した迅速な意思決定を実現するための体制と監督機能の強化が必要不可欠であると考えています。コーポレート・ガバナンスにおいて、経営の監督と執行の分離の徹底、事業の迅速な執行体制の確立、社外取締役による適切な監督・監査、リスクマネジメント、内部統制システムの適切な運用を推し進め、透明性の高い経営の実現に取り組んでいます。また、ステークホルダーへの情報開示を積極的に行ない信頼関係の構築に努めています。

リスクと機会

リスク

- データの改ざん、横領、談合などの法令違反や不祥事による損失の発生および当社に対する信用の低下、社会的信用の失墜、企業価値の毀損
- 会計プロセス不備、内部統制違反による損失の発生および当社に対する信用の低下、社会的信用の失墜、企業価値の毀損
- 他社の知的財産権を侵害した場合の訴訟提起、損害賠償請求

リスクへの対応

- コーポレート・ガバナンスの透明性向上（中期事業計画、ガバナンス報告書）
- 当社グループ全体のコンプライアンス教育によるコンプライアンス意識の向上
- コンプライアンス違反リスクの洗い出しとリスク評価の実施対応
- 内部通報制度の適切な運用
- 自社知的財産権の適正な権利化および侵害予防調査の徹底
- 規制や法令の遵守、制度変更への対応

機会

- 意思決定の透明性の向上や変化への適切な対応による安定的な経営基盤の確立
- 適切な情報開示によるステークホルダーの信頼の獲得
- リスクマネジメント体制の強化
- コンプライアンス体制の確立による企業価値の向上
- 知的財産業務のDX化推進

指標および目標

重点テーマ

ステークホルダーの立場を踏まえ、経営の透明性と客観性を確保した迅速な意思決定を実現するための体制と監督機能の強化

中長期目標	2025年度実績
指名・報酬委員会の計画的な運営および改善	・指名・報酬委員会の運営と取締役会への確実な答申
ステークホルダーへのアカウンタビリティの充実	・外部からの調査および問い合わせへの対応 取引先調査： 49件 メディア・投資家・株主： 50件 メディア等調査・アンケート： 20件 ・株主、投資家に向けた適切な情報開示
リスクマネジメントの経営プロセスへのさらなる深化	・リスク・コンプライアンス委員会「部門事務局」体制を構築し、潜在リスクの早期把握・迅速対応を推進 ・顕在化リスクに関する報告基準・エスカレーションフローの整備による対応力の強化
内部統制の推進による業務上のリスクコントロールの強化	・BAOTOU FDKに対する内部統制整備支援 ・海外拠点の安全保障輸出管理に関する監査および提言 ・不正防止および不正の早期発見、早期是正による再発防止
法令・社会規範の監視体制の維持・継続的な教育	・内部通報および相談受付実績：10件 ・eラーニングの実施（受講率100%）



HOME



INDEX

イントロダクション

FDKグループの価値創造ストーリー

サステナビリティ

FDKアイデンティティにおける
「10年の計」×サステナビリティ経営

サステナビリティマネジメント

マテリアリティ

安心安全な電気エネルギーの提供

地球環境との共生

多様な人材の活躍推進

コーポレート・ガバナンスの持続的強化／
リスクコンプライアンスの高度化地域・社会・コミュニティの持続可能性
への貢献

財務情報

概要、グループ会社

4 コーポレート・ガバナンスの持続的強化／リスクコンプライアンスの高度化

コーポレート・ガバナンスの強化

基本的な考え方

FDKグループは、コーポレート・ガバナンスを充実させることが、企業の健全性、透明性の向上と株主価値の向上につながるものと考えており、金融商品取引所が定めるコーポレートガバナンス・コードの原則を踏まえた各施策、必要に応じて経営体制の見直し、組織の整備を実施しています。また、経営内容の迅速な情報開示に努めるとともにインターネットを通じて財務情報の提供を行なうなど幅広い情報開示を図り公正性と透明性を高めることにも努めています。

当社は経営の意思決定・監督機能と業務執行機能を分離し、取締役会のチェック機能を強化するため、執行役員制度を導入しています。当社の取締役会は、取締役（監査等委員を除く）4名と監査等委員である取締役3名で構成されています。

取締役会は原則毎月1回開催し、経営に関する重要事項を決定するとともに、業績の進捗状況についても議論し、対策等を検討しています。

監査等委員会は、社外取締役3名の監査等委員で構成され、原則毎月1回と必要に応じて随時開催し、経営の適法性および妥当性の監督、監査を行なっています。また各監査等委員は取締役会に出席し、経営全般または個別案件に関する客観的かつ公正な意見陳述を行なうとともに、監査等委員会で立案した監査方針に従い、取締役の業務執行の適法性、妥当性を監査しています。

コーポレート・ガバナンス充実のための施策として、当社グループ全体のコンプライアンスの推進に積極的に取り組むため「FDK企業行動指針」において法の遵守の基本原則を設けております。

また、当社は2022年3月に取締役の指名・報酬等に関する手続きの公正性・透明性および客観性を強化し、コーポレート・ガバナンス体制のより一層の充実を図ることを目的に、取締役会の諮問機関として任意の「指名・報酬委員会」を設置しております。

任意の指名・報酬委員会は社内取締役1名と独立社外取締役2名の3名で構成されており、取締役会から諮問を受けた次に掲げる事項等の審議、取締役会への答申を行ない、取締役、監査等委員である取締役の指名・報酬について公正性と透明性を高めるための検討・議論を行なっています。

なお、2025年度は6回の委員会を開催し、委員全員がすべての委員会に出席をしています。

＜指名・報酬委員会への主な諮問事項＞

- 取締役および監査等委員である取締役の選任および解任に関する事項
- 代表取締役の選定および解職に関する事項
- 独立社外取締役の選任に関する事項
- 指名・報酬委員会の委員の選定および解職に関する事項
- 取締役および監査等委員である取締役の報酬に関する事項

- 後継者計画の策定・運用に関する事項
- その他、取締役会が必要と判断した事項

役員トレーニング

当社では、専門知識の更新および専門外知識の習得を目的として、外部講師による取締役および執行役員を対象としたトレーニングを毎年実施し、取締役および執行役員の知識、知見の向上に継続して取り組んでいます。

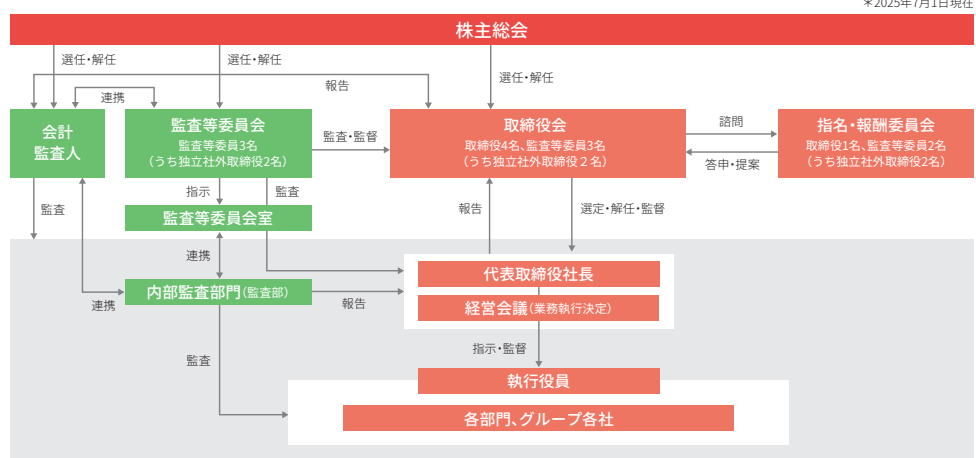
2025年度は「インナーブランディングの重要性」をテーマに講師を招き、トレーニングを実施しました。

取締役会実効性評価

当社では、取締役会の課題を抽出し、取締役会構成メンバーが当該課題を共有することで、取締役会の実効性を高めるための改善につなげることを目的に、取締役会の実効性評価を毎年実施しています。

アンケートによる自己評価および第三者機関によるアンケートの分析結果に基づいたディスカッションを実施し、取締役会における課題の討議を行ない、取締役会の監督機能強化に継続して取り組んでいます。

体制図



4 コーポレート・ガバナンスの持続的強化／リスクコンプライアンスの高度化

当社グループの取締役



前列左から 取締役 平野 芳晴 代表取締役社長 下園 浩史
後列左から 社外取締役 酒向 潤一郎 社外取締役 徐 幼珍 社外取締役 陳 怡光 社外取締役 山崎 頼良 社外取締役 森安 正博

スキルマトリックス

当社における地位	氏名	企業経営／経営戦略	リスク・コンプライアンス／法務	財務会計	事業部／開発技術	ESG／サステナビリティ	グローバル
代表取締役社長	下園 浩史	●		●	●	●	●
取締役	平野 芳晴	●	●		●	●	
社外取締役	酒向 潤一郎	●		●			●
社外取締役	徐 幼珍	●	●		●		●
社外取締役(監査等委員)	陳 怡光	●	●	●	●		●
社外取締役(監査等委員)	山崎 頼良		●	●			●
社外取締役(監査等委員)	森安 正博	●	●				●



代表取締役社長

下園 浩史

期待される役割

中期事業計画「R3」で三本柱に掲げた「現行ビジネスの多角的拡大」「事業ポートフォリオの多様化」「失敗に学び、成長を実感できる文化の醸成」を推進し、当社の経営および財務基盤を安定させるとともに成長路線へ導くことで当社の企業価値を向上させることであります。

1986年4月	三洋電機株式会社 入社
2002年10月	同社ソフトエナジーカンパニー CRM 事業部PC部長
2006年4月	同社モバイルエナジーカンパニー 市販営業統括ビジネスユニット 市販ユニット リーダー
2007年4月	同社モバイルエナジーカンパニー グローバルCRM 事業部 市販統括部長
2010年1月	当社電池事業本部海外営業統括部長
2012年4月	当社執行役員 兼 当社グローバル営業本部長
2014年4月	当社グループ海外執行役員 兼 FDK AMERICA,INC. 代表取締役社長
2018年3月	当社執行役員 兼 プロダクト事業本部アルカリ電池事業部長 現在に至る
2021年4月	当社プロダクト事業本部長 現在に至る
2026年6月	当社代表取締役社長 現在に至る



INDEX

イントロダクション

FDK グループの価値創造ストーリー

サステナビリティ

FDK アイデンティティにおける
「10年の計」×サステナビリティ経営

サステナビリティマネジメント

マテリアリティ

安心安全な電気エネルギーの提供

地球環境との共生

多様な人材の活躍推進

コーポレート・ガバナンスの持続的強化／
リスクコンプライアンスの高度化

地域・社会・コミュニティの持続可能性
への貢献

財務情報

概要、グループ会社

4 コーポレート・ガバナンスの持続的強化／リスクコンプライアンスの高度化



取締役

平野 芳晴

期待される役割

中期事業計画「R3」の達成に向けた各施策の実行および事業価値向上のための成長路線の確立、当社のコーポレート・ガバナンスを一層強化することで当社の企業価値を向上させることであります。

1990年4月 当社入社
2012年11月 当社総務部長 兼 広報・IR室長
2016年4月 当社総務人事統括部長 兼 総務人事部長
兼 リスク・マネジメント部長
兼 広報・IR室長
2017年4月 当社執行役員 現在に至る
2018年3月 当社CSR・コンプライアンス統括部長
兼 総務人事部長
兼 リスク・コンプライアンス部長
2018年4月 FDKパートナーズ株式会社代表取締役社長
現在に至る
2020年6月 当社取締役 現在に至る
当社コーポレート本部長 現在に至る
2021年4月 FUCHI ELECTRONICS CO., LTD. 董事長
現在に至る
2023年4月 当社コンシューマ営業統括部長 現在に至る
2024年1月 XIAMEN FDK CORPORATION 董事長
現在に至る



社外取締役

酒向 潤一郎

期待される役割

当社の中期事業計画「R3」の達成に向けた各施策の実行状況の監督および事業構造改革の方向性などについて、事業戦略部門での経験を通じて培われた広い見識により社外取締役として意見を述べていただくことであります。

2001年12月 株式会社富士通中部システムズ入社
2004年6月 富士通株式会社入社
2009年4月 同社財務経理本部マネージャー
2012年6月 株式会社アニモ監査役 現在に至る
2020年4月 富士通株式会社関連事業本部
シニアマネージャー
2020年6月 FLCS 株式会社監査役 現在に至る
2021年4月 富士通株式会社関連事業本部
事業開発統括部長
2022年4月 同社関連事業本部長
グローバル・イノベーション・パートナーズ株式会社代表取締役
2023年4月 株式会社デンソーテン取締役
富士通セミコンダクター・ファンド株式会社代表取締役
2024年6月 当社取締役
2024年9月 FCL コンポーネント株式会社社外取締役 現在に至る
2025年4月 富士通株式会社ビジネスマネジメント本部
エグゼクティブディレクター 現在に至る
2025年6月 当社社外取締役 現在に至る



社外取締役

徐 幼珍

期待される役割

当社の中期事業計画「R3」の達成に向けた各施策の実行状況の監督および当社の財務基盤の安定化ならびに持続的な成長に向けた経営施策全般について会社代表者の経験を通じて培われた広い見識により社外取締役として意見を述べていただくことであります。

2010年3月 INFO-TEK CORPORATION 入社
2014年6月 INFO-TEK CORPORATION Assistant Vice President (Sales & Marketing/Production & Material Planning/Procurement)
2017年3月 ZF TRW, Body Control System Div. Germany, Purchasing,
Global Commodity AHIS
2018年9月 BCS Automotive Interface Solutions GmbH, Germany,
CEO Office, Product Innovation
2020年11月 INFO-TEK CORPORATION President 現在に至る
2020年12月 SILITECH (BVI) HOLDING LTD. Board Director
現在に至る
SILITECH (BERMUDA) HOLDING LTD. Board Director
現在に至る
SILITECH TECHNOLOGY CORPORATION SDN. BHD. Board
Director 現在に至る
2021年1月 SILITECH TECHNOLOGY CORPORATION President
現在に至る
2025年6月 当社社外取締役 現在に至る



HOME



INDEX

イントロダクション

FDK グループの価値創造ストーリー

サステナビリティ

FDK アイデンティティにおける
「10年の計」×サステナビリティ経営

サステナビリティマネジメント

マテリアリティ

安心安全な電気エネルギーの提供

地球環境との共生

多様な人材の活躍推進

コーポレート・ガバナンスの持続的強化／
リスクコンプライアンスの高度化

地域・社会・コミュニティの持続可能性
への貢献

財務情報

概要、グループ会社

4 コーポレート・ガバナンスの持続的強化／リスクコンプライアンスの高度化



社外取締役（監査等委員）

陳 怡光

期待される役割

当社の中期事業計画「R3」の達成に向けた各施策の実行状況や当社の財務基盤の安定化および持続的な成長に向けた経営施策全般について、会社代表者の経験により培われた広い見識により監査等委員である社外取締役として監督・監査いただくことであります。

2002年12月	DUPONT TAIWAN LIMITED 入社
2011年9月	同社AP 地域マーケティングエクセレンス部長
2016年2月	Walsin Technology Corporation 海外事業営業本部長
2019年10月	釜屋電機株式会社取締役
2020年5月	同社代表取締役社長 日通エレクトロニクス株式会社代表取締役会長
2021年6月	双信電機株式会社取締役
2023年6月	Walsin Technology Corporation チップ抵抗器事業部長
2024年6月	松尾電機株式会社代表取締役社長 現在に至る
2025年3月	双信電機株式会社代表取締役社長 現在に至る 釜屋電機株式会社取締役 現在に至る
2025年6月	当社取締役（監査等委員） 現在に至る



社外取締役（監査等委員）

山崎 頼良

期待される役割

当社の中期事業計画「R3」の達成に向けた各施策の実行状況や当社の財務基盤の安定化および持続的な成長に向けた経営施策全般について、公認会計士としての経験により培われた広い見識により監査等委員である社外取締役として監督・監査いただくことであります。

2010年2月	あずさ監査法人（現有限責任あずさ監査法人）入所
2014年4月	国際連合世界食糧計画 イタリアローマ本部財務担当官
2018年8月	同機関 日本事務所政府連携担当官
2023年3月	山崎公認会計士事務所代表 現在に至る 双信電機株式会社社外取締役監査等委員
2024年6月	松尾電機株式会社社外監査役 株式会社 Fidelity Bridge 共同代表 現在に至る
2025年6月	当社取締役（監査等委員） 現在に至る



社外取締役（監査等委員）

森安 正博

期待される役割

当社の中期事業計画「R3」の達成に向けた各施策の実行状況および当社の持続的な成長に向けた経営施策全般について、これまでの豊富な海外ビジネス経験ならびに企業経営の経験を通じて培われた幅広い見識により監査等委員である社外取締役として監督・監査していただくことであります。

1987年4月	三井物産株式会社 入社
2002年3月	同社半導体事業部 装置営業室長
2004年10月	台湾三井物産株式会社 電子産業部長
2010年3月	三井物産株式会社 内部監査部企画業務室次長
2012年4月	米国三井物産株式会社 米州情報産業 Division SVP & Divisional Operating Officer
2014年10月	三井物産株式会社 企業投資部長
2017年4月	ベトナム三井物産有限公司 代表取締役社長
2019年4月	三井物産株式会社 執行役員 ICT 事業本部長
2021年4月	同社常務執行役員東アジア総代表
2024年2月	株式会社インサイトテクノロジー 社外取締役 現在に至る
2026年6月	当社取締役会（監査等委員） 現在に至る



HOME



INDEX

イントロダクション

FDK グループの価値創造ストーリー

サステナビリティ

FDK アイデンティティにおける
「10年の計」×サステナビリティ経営

サステナビリティマネジメント

マテリアリティ

安心安全な電気エネルギーの提供

地球環境との共生

多様な人材の活躍推進

コーポレート・ガバナンスの持続的強化／
リスクコンプライアンスの高度化

地域・社会・コミュニティの持続可能性
への貢献

財務情報

概要、グループ会社

2025年度取締役会の実効性評価

当社では、取締役会の課題を抽出し、取締役会構成メンバーが当該課題を共有することで、取締役会の実効性を高めるための改善につなげることを目的に、取締役会の実効性評価を毎年実施しています。アンケートによる自己評価および第三者機関によるアンケートの分析結果に基づいたディスカッションを実施し、取締役会における課題の討議を行ない、取締役会の監督機能強化に継続して取り組んでいます。

この方針に基づき実施した2025年度の評価結果の概要は、以下のとおりです。

2025年度の評価プロセス

取締役全員（7名）を対象に取締役会の構成、運営、議題等にかかる各取締役の課題認識の有無を把握するアンケートによる自己評価を実施しました。

アンケートは、定点観測的に確認する設問に加え、サステナビリティへの対応・情報開示の体制、各取締役の認識を客観的に確認できるようアンケートの設計および集計にあたり外部機関を活用しました。加えて、2026年3月開催の取締役会において、上記アンケートの分析・評価結果をもとに、取締役会構成メンバー全員によるディスカッションを行ないました。

2025年度の評価結果

設問項目（右図参照）のうち、昨年度との比較が可能な項目の多くは改善傾向にあり、大部分の項目については取締役会として適切であると認識されていることから取締役会の実効性は概ね確保されていると評価しました。

当社の生産拠点等での取締役会の開催や従業員との意見交換の機会を設けたことが、非業務執行取締役への経営環境にかかる情報提供の充実に効果的であった点や、また取締役会において中期事業計画の進捗の確認、達成までの検証が適切に行なわれていることが評価されました。

一方で、サステナビリティ推進体制の監督状況、取締役会への情報提供についてさらなる取り組みの必要性が確認されました。

評価結果を受けて2026年度に推進する取り組み

当社としましては、上記の評価結果をもとに、評価の高かった事項の確認を行なうとともに、抽出した課題を共有したことから、引き続き取締役会の機能向上に向けた検討を進めてまいります。

実効性評価のプロセス概要 ：第三者機関を活用した部分

①取締役全員へのアンケートを実施

アンケートの設問

- 取締役会の構成と運営
- 取締役会の役割と責務
- 組織・事業再編関連
- 企業倫理とリスク管理
- 業績モニタリング
- 株主等との対話
- グループガバナンス

②アンケート結果を集計・分析・評価

③分析・評価結果について、2026年3月開催の取締役会で審議し、課題点を特定

④特定された課題に対して改善を推進

2026年3月開催の取締役会の評価において課題とされた事項

課題事項	改善に向けた方針
取締役会における経営戦略等に関する議論の充実	経営戦略等に一層フォーカスした議論ができるように会議運営の在り方等を改善する



HOME



INDEX

イントロダクション

FDKグループの価値創造ストーリー

サステナビリティ

FDKアイデンティティにおける
「10年の計」×サステナビリティ経営

サステナビリティマネジメント

マテリアリティ

安心安全な電気エネルギーの提供

地球環境との共生

多様な人材の活躍推進

コーポレート・ガバナンスの持続的強化／
リスクコンプライアンスの高度化地域・社会・コミュニティーの持続可能性
への貢献

財務情報

概要、グループ会社



INDEX

イントロダクション

FDK グループの価値創造ストーリー

サステナビリティ

FDK アイデンティティにおける
「10年の計」×サステナビリティ経営

サステナビリティマネジメント

マテリアリティ

安心安全な電気エネルギーの提供

地球環境との共生

多様な人材の活躍推進

コーポレート・ガバナンスの持続的強化／
リスクコンプライアンスの高度化

地域・社会・コミュニティの持続可能性
への貢献

財務情報

概要、グループ会社

マテリアリティ

4 コーポレート・ガバナンスの持続的強化／リスクコンプライアンスの高度化

役員報酬

役員報酬(2025 年度)

取締役の個人別の報酬等の内容に係る決定方針に関する事項

当社の取締役の個人別の報酬等の内容に係る決定方針(以下、「決定方針」という。)は、当社取締役会決議により決定しております。当社の役員報酬は、執行役員報酬を基本とし、役位別取締役加算報酬、役位別年俸報酬からなる固定報酬ならびに短期業績連動報酬、長期業績連動報酬により構成されております。報酬構成比率は、役位の責務の大きさに応じて役位別取締役加算報酬、役位別年俸報酬および業績連動報酬の報酬全体に占める比率が高くなる方針としております。また、短期業績連動報酬の算出の基礎としている業績指標は、本業における収益性の向上が最も重要な課題であることから、前年の営業利益実績値を当該指標としており、長期業績連動報酬の算出の基礎としている業績指標は中期事業計画の累計営業利益実績値としております。当該事業年度における短期業績連動報酬に係る指標の目標は10億円であり、実績は13億94百万円(2025年3月期)であります。また、当該事業年度における長期業績連動報酬の算出に係る指標の目標は中期事業計画「R1」で掲げられた3ヶ年の営業利益の計画累計額56億円であり、実績累計額は46億円であります。

取締役および取締役(監査等委員)の報酬等についての株主総会の決議に関する事項

取締役の金銭報酬の額は、2016年6月28日開催の第87回定時株主総会において年額240,000千円以内(うち、社外取締役分40,000千円以内)と決議されております(使用人兼務取締役の使用人分の給与等は含まない)。当該定時株主総会終結時点の取締役の員数は5名(うち、社外取締役は0名)であります。取締役(監査等委員)の金銭報酬の額は、2016年6月28日開催の第87回定時株主総会において年額120,000千円以内と決議されております。当該定時株主総会終結時点の取締役(監査等委員)の員数は3名(うち、社外取締役は2名)であります。

取締役の個人別の報酬等の決定に係る委任に関する事項

当社においては、取締役会の委任決議により代表取締役社長が取締役の個人別の報酬額等の具体的内容を決定しております。また、これらの権限を代表取締役社長に委任した理由は、代表取締役社長の立場は各取締役の役割および当社の業績を俯瞰する立場にあることから適していると判断したためであります。当社の取締役の個人別の報酬額等の具体的内容については、代表取締役社長に、取締役会で決議された当該決定方針に基づき、取締役の個人別の報酬額等の具体的内

容の決定を委任決議していることから、取締役会はその内容が決定方針に沿うものと判断しております。

役員報酬の構成要素

大分類	小分類	算出の方針や基礎
固定報酬	役位別取締役加算報酬	役位の責務に応じて算出
	役位別年俸報酬	
短期業績連動報酬		前年の営業利益実績値を指標として算出
長期業績連動報酬		中期事業計画の累計営業利益実績値を指標として算出

2025年度の役員報酬実績

役員区分	報酬等の総額 (百万円)	報酬等の種類別の総額(百万円)			対象となる役員の 員数(名)
		固定報酬	短期業績 連動報酬	長期業績 連動報酬	
取締役 (社外取締役を除く)	43	35	5	3	2
取締役(監査等委員) (社外取締役を除く)	5	5	—	—	1
社外役員	23	23	—	—	7

＊ 上記報酬等の額には、2025年6月26日開催の第96回定時株主総会終結の時をもって退任した取締役(監査等委員を除く取締役)2名および監査等委員である取締役1名分を含んでおります。

＊ 取締役の役員報酬限度額は年額240,000千円以内(うち社外取締役分40,000千円以内)であります。(2016年6月28日開催の第87回定時株主総会にて決議)

＊ 取締役(監査等委員)の役員報酬限度額は年額120,000千円以内であります。(2016年6月28日開催の第87回定時株主総会にて決議)

ステークホルダーとのコミュニケーション

FDKグループは、良き企業市民としてステークホルダーの多様な期待と要請を理解して企業活動を行なっています。公開すべき情報を的確に開示し、ステークホルダーとの対話を行ない、事業活動への反映を通じて社会に貢献する企業活動を継続的に行なうことによって、企業価値の向上に努めています。

	お客様	お取引先様	株主・投資家	従業員	国際社会・地域社会
ステークホルダーとFDKが共有する関心領域	●高品質な製品の提供 ●安全供給、サプライチェーンマネジメントの徹底、法令遵守 ●環境負荷低減推進 ●安全操業 ●BCP対応 ●適正価格 ●設備投資	●公平・公正・透明性のある取引 ●サプライチェーンマネジメントの徹底、法令遵守 ●安全操業 ●事業継続性 ●環境負荷低減推進	●企業価値向上 ●適正株価 ●財務基盤の安定 ●ROE、ROICの引き上げ ●収益向上 ●安全操業 ●ESG、SDGsの推進 ●タイムリーな情報提供	●働き方改革の推進 ●イキイキと働ける職場環境の構築 ●幅広い人材の活用 ●教育、福利厚生などの充実	●地域との共生 ●地域発展への貢献 ●安全操業 ●環境負荷低減推進 ●防災対応
コミュニケーション機会	●営業部門・品質保証活動 ●安全かつ効率的に活用いただける製品の提供 ●展示会への出展 ●WEBサイトによる情報提供 ●WEBサイトのお問い合わせ窓口	●製品材料、資材の調達 ●品質監査、工程監査などの実施 ●環境負荷低減、CO₂削減への取り組み	●定時株主総会の開催 ●統合報告書の発行 ●会社紹介パンフレットの発行 ●WEBサイト等による情報配信 ●ニュースリリースでの情報配信	●ビデオ配信を含む社長メッセージの配信 ●従業員満足度調査の実施 ●各種研修やeラーニングの実施 ●ストレスチェックや健康診断などの健康管理 ●労働組合との協議	●「太陽とツナガル電池の音コンサート」の開催 ●地域の清掃や交通安全活動などのボランティア活動 ●環境負荷低減、CO₂削減への貢献
コミュニケーションを通じた価値創造	●既存製品における性能向上を目指した新製品の開発 ●次世代電池の研究開発の推進	●公正な取引機会の確保 ●より良いパートナーシップの構築 ●SDGsを共通目標とした価値共有、社会的責任の遂行	●適時・適正な情報開示 ●資本市場からの適切な評価獲得、資本市場の要望のフィードバックによる企業価値向上 ●社会課題やサステナビリティに関する取り組みと開示	●健康で働き続けられる労働環境の提供 ●自身の健康に関する自認や管理の促進	●国際社会・地域社会からのニーズや期待に応える積極的なコミュニケーション、社会貢献への参加 ●各種宣言、活動への参画を通した責任ある企業活動の実践



HOME



INDEX

イントロダクション

FDKグループの価値創造ストーリー

サステナビリティ

FDKアイデンティティにおける「10年の計」×サステナビリティ経営

サステナビリティマネジメント

マテリアリティ

安心安全な電気エネルギーの提供

地球環境との共生

多様な人材の活躍推進

コーポレート・ガバナンスの持続的強化／リスクコンプライアンスの高度化

地域・社会・コミュニティの持続可能性への貢献

財務情報

概要、グループ会社

4 コーポレート・ガバナンスの持続的強化／リスクコンプライアンスの高度化

内部統制の推進による業務上のリスクコントロールの強化

内部統制システムの継続的な運用

基本的な考え方

FDKグループは、企業の社会的責任を果たすためには、コーポレート・ガバナンスの充実が不可欠であるとの認識のもと、お客様、お取引先様、株主、従業員、地域社会などのステークホルダーとの健全で良好な関係を維持しつつ、業務の適正性、財務報告の信頼性を確保するとともに、関連法規、定款を遵守する経営を実現してまいります。

また、当社グループの企業価値の持続的向上を図るためには、経営の効率性を追求するとともに、事業活動より生じる様々なリスクをコントロールすることが必要であり、諸施策の継続的な実施を推進してまいります。

業務の適正を確保するための体制

1. 取締役および従業員の職務の執行が法令および定款に適合することを確保するための体制
2. 取締役の職務の執行に係る情報の保存および管理に関する体制
3. 損失の危険の管理に関する体制
4. 当社および子会社の取締役の職務の執行が効率的に行なわれることを確保するための体制
5. 当社および子会社からなる企業集団における業務の適正を確保するための体制
6. 監査等委員会の監査の適正性を確保するための体制

コンプライアンスの徹底

基本的な考え方

FDKグループは、従業員一人ひとりの行動の基準となる「FDK企業行動指針」を定めています。この行動指針の構成要素である「行動規範」において「人権を尊重する」「公正で自由な取引を行なう」「法令および社会規範を遵守する」「知的財産を守り尊重する」「情報セキュリティを徹底し、秘密を保持する」「業務上の立場を私的に利用しない」ということを明確にしています。この行動規範に基づいて事業を遂行することにより、株主やお取引先様、消費者の信頼を得られるように努めています。

コンプライアンス教育

FDKグループでは、新入社員教育、中堅社員教育、新任課長研修などの階層別研修において、社内規程や外為法、製造物責任法、独占禁止法、個人情報保護法などの業務に関係の深い法令について説明を行ない、理解促進を図っています。上記の他にも全従業員を対象とした様々なコンプラ

イアンス教育(eラーニングを含む)を継続して実施しています。また、イントラネットを利用して、関連法令の改正情報や違反事例の紹介・周知などコンプライアンスに関する様々な情報を従業員に提供し、法令遵守に関する意識の向上に努めています。

事業運営に関わる法令の遵守

FDKグループでは、「中央安全衛生委員会」「全社環境管理委員会」「製品含有化学物質管理委員会」「輸出管理委員会」「製品安全化推進委員会」などの専門組織を設置し、法令を遵守した事業運営に取り組んでいます。事業を行なう地域の文化や習慣を理解し社会動向などにも的確に対応することにより、倫理的な面からもコンプライアンスの徹底を図っています。

内部通報制度

FDKグループでは、コンプライアンス違反行為に関する通報および相談の適切な処理の仕組みを定めることにより、不正行為等の早期発見と是正を図り、法令を誠実に遵守する公正な経営の強化に資することを目的として、「内部通報窓口」および「お取引先コンプライアンス受付窓口」を設置しています。「内部通報窓口」および「お取引先コンプライアンス受付窓口」への通報については、「内部通報規程」によって通報者の秘密が確保されるとともに、通報を行なったことによるいかなる不利益も受けないことが保証されています。通報に基づく調査の結果、問題が認められた場合は、すみやかに改善措置を講じています。

2025年度は10件の通報・相談があり、いずれも適切な対応を行ないました。



HOME



INDEX

イントロダクション

FDKグループの価値創造ストーリー

サステナビリティ

FDKアイデンティティにおける
「10年の計」×サステナビリティ経営

サステナビリティマネジメント

マテリアリティ

安心安全な電気エネルギーの提供

地球環境との共生

多様な人材の活躍推進

コーポレート・ガバナンスの持続的強化／
リスクコンプライアンスの高度化地域・社会・コミュニティの持続可能性
への貢献

財務情報

概要、グループ会社

4 コーポレート・ガバナンスの持続的強化／リスクコンプライアンスの高度化

リスクマネジメントの取り組み

FDKグループは、グローバルな事業活動を通じて、企業価値を持続的に向上させるとともに、お客様や地域社会をはじめとするすべてのステークホルダーの皆様へ貢献することを目指しています。この目的を達成するため、事業活動により生じるリスクを的確に把握し、対応することを重要な課題と位置づけ、FDKグループ全体のリスクマネジメント体制を構築し、その実践と継続的改善を行なっています。

FDKグループでは、取締役会において「内部統制システム構築の基本方針」を定めており、どのような体制・規律をもって経営の効率性を追求し、事業活動により生じるリスクをコントロールしていくかについて、その基本方針を開示しています。

事業等のリスク

当社グループの事業展開上のリスクについて、投資家の判断に影響を及ぼす可能性のある主な事項については、当社のWEBサイトにおいて開示しております。当社グループは、これらのリスクを適切に把握し、対応することを経営における重要な課題と位置づけ、リスクマネジメントおよびコンプライアンスにかかる最高決定機関として、リスク・コンプライアンス委員会を設置しております。リスク・コンプライアンス委員会を中心として、これらのリスクの発生の可能性を認識・評価したうえで、リスクの回避・軽減等の対応方針を決定し、発生した場合には影響の最小化に努めてまいります。

なお、当社が想定しているリスクの内容については、当社WEBサイト(下記URL)をご参照ください。

<https://www.fdk.co.jp/ir/management/risk/>

〈リスクマネジメントのプロセス〉

1. 各部門において、事業活動に伴う潜在リスクを抽出、評価・検証します。
 2. 各リスクの対応優先度を明確化し、リスクコントロール(リスクの回避・軽減・移転・保有)の方針を決定します。
 3. 決定した方針に従って、各部門にて未然防止策を検討し、実施します。
 4. リスクが顕在化した場合には、各部門はリスク・コンプライアンス委員会へエスカレーションします。また関連部門やリスク・コンプライアンス委員会事務局と連携し、適切な対応を行なうことで、問題の早期解決と影響の最小化を図ります。さらに、原因究明に努めるとともに、再発防止策を立案・実行します。
- これら各プロセスの実行状況を定期的に確認し、随時改善を図ります。

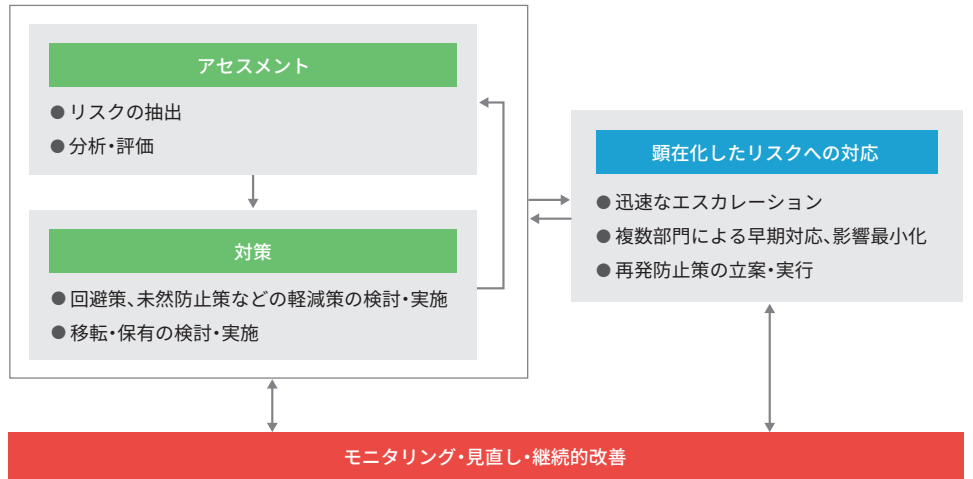
2025年度に顕在化した主なリスクへの対応

2025年度は、国際情勢の変化や資源・原材料市場の動向を背景に、製造業を取り巻く事業環境に大きな変化が見られました。当社グループにおいては、特に重要鉱物を中心とした原材料の調達環境に不透明感が高まりましたが、迅速かつ的確な対応により影響の最小化を図りました。

中国によるレアアース等の輸出管理強化の影響を踏まえ、当社グループではサプライヤーとの連携強化、代替調達先の確保、在庫戦略の最適化を進めるなど、サプライチェーンの強靱化に取り組みました。その結果、製品供給体制への影響を抑制し、安定供給を維持しました。

また、原材料価格や物流費、エネルギーコストが高止まりする中、調達力の強化や生産性向上、原価低減施策を着実に推進しました。これらの取り組みにより、事業環境の変化に柔軟に対応しつつ、収益基盤の維持・強化を図っています。

リスクマネジメントのプロセス図



HOME



INDEX

イントロダクション

FDKグループの価値創造ストーリー

サステナビリティ

FDKアイデンティティにおける
「10年の計」×サステナビリティ経営

サステナビリティマネジメント

マテリアリティ

安心安全な電気エネルギーの提供

地球環境との共生

多様な人材の活躍推進

コーポレート・ガバナンスの持続的強化／
リスクコンプライアンスの高度化

地域・社会・コミュニティの持続可能性
への貢献

財務情報

概要、グループ会社

4 コーポレート・ガバナンスの持続的強化／リスクコンプライアンスの高度化

情報セキュリティ

基本的な考え方

当社グループは、情報が事業活動の基盤であるとの認識のもと、情報セキュリティの確保を重要な経営課題の一つとして位置づけております。

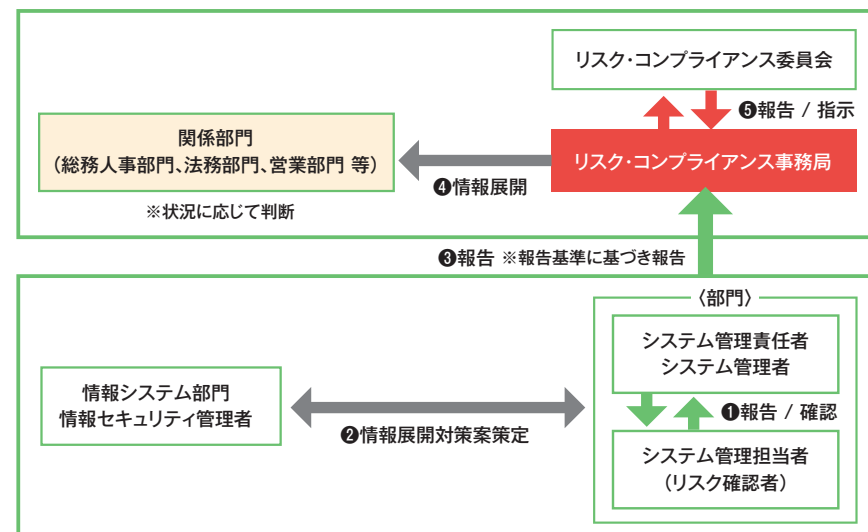
お客様および取引先様からお預かりする情報、ならびに当社の営業秘密や技術情報等の重要な資産については、その価値とリスクを十分に認識し、適切な管理と保護を徹底するとともに、情報漏えいの防止およびサイバーセキュリティ対策の継続的な強化を図ることにより、関係するすべての方々の権利と利益の保護に努めてまいります。

セキュリティ管理体制

情報セキュリティに関するリスクを継続的に把握・分析し、適切な対策を実施するとともに、万一、情報セキュリティ上の問題（インシデント）が発生した場合には、報告基準に従い迅速に対応し、必要に応じて経営レベルでの意思決定および統制を行なう体制を整備しております。

また、情報セキュリティ対策の実効性を確保するため、責任者を明確に定め、適切な権限と責任のもとで施策を推進しております。

情報セキュリティ事故時のエスカレーションルート



従業員へのセキュリティ教育

当社グループは、情報セキュリティの確保において、従業員一人ひとりの意識と行動が極めて重要であると認識しています。

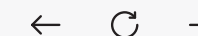
この認識のもと、役員および従業員に対して、情報セキュリティの重要性や関連規程の理解を深めるための教育および啓発活動を継続的に実施しております。

具体的には、情報の適切な取扱い、情報漏えい防止、サイバーセキュリティ対策に関する基本的知識の習得に加え、最新のリスク動向を踏まえた教育を行い、実務において適切な行動が取れるよう努めています。

当社グループは、こうした教育・啓発活動を通じて情報セキュリティ意識の向上を図るとともに、組織全体で情報資産を適切に保護する体制のさらなる強化に努めてまいります。



HOME



INDEX

イントロダクション

FDK グループの価値創造ストーリー

サステナビリティ

FDK アイデンティティにおける
「10年の計」×サステナビリティ経営

サステナビリティマネジメント

マテリアリティ

安心安全な電気エネルギーの提供

地球環境との共生

多様な人材の活躍推進

コーポレート・ガバナンスの持続的強化／
リスクコンプライアンスの高度化地域・社会・コミュニティの持続可能性
への貢献

財務情報

概要、グループ会社

5 地域・社会・コミュニティの持続可能性への貢献

FDKグループは、良き企業市民として地域社会の一員であることを自覚し、笑顔あふれる未来の創造に向けた取り組みを継続的に推進しています。

2025年度には、防災啓発をテーマとしたラジオ番組「ソナエルRadio」による情報発信や、環境啓発として太陽光で充電したニッケル水素電池を電源とする「太陽とツナガル電池の音コンサート」を全国で16回開催し、環境と音楽を融合させた新たな価値を提供しました。

また、拠点周辺の清掃活動や献血、福祉施設への支援、障がい者訓練生の受け入れなど、地域に根ざした貢献活動を展開しています。特に献血活動では、湖西・鳥取・高崎工場にて延べ188名が参加し、命を支える活動として定着しています。FDKグループは、事業活動を通じて地域と笑顔をつなぎ、持続可能な社会の実現に向けて歩みを進めています。

指標および目標

重点テーマ 地域社会と繋がり笑顔溢れる世の中の実現

中長期目標	2025年度の主な実績
地域社会と繋がり笑顔溢れる世の中の実現	防災啓発をテーマとしたラジオ番組「ソナエルRadio」(毎週月曜日放送)での防災に関する情報発信
未来にツナゲル機会の提供	「太陽とツナガル電池の音コンサート」の全国開催16回/年間
笑顔をツナグ貢献活動の推進	拠点周辺の清掃活動、献血活動の実施 古切手、ベルマーク、ペットボトルキャップを回収し福祉協議会や地域の学校等へ寄付 授産施設からの物品購入の促進、フードバンクへ防災備蓄品寄付道の駅構内清掃および花壇の除草、花植え、障がい者訓練生の受け入れ 地域交通安全活動への参加

未来にツナゲル機会の提供

「太陽とツナガル電池の音コンサート」を開催

FDKグループは、社会貢献活動の一環として、希少楽器であるクラビオーラの世界唯一のプロ奏者である折重由美子氏による「太陽とツナガル電池の音コンサート」をサポートしています。このコンサートは、太陽光で充電したニッケル水素電池のみを電源に使用しており、循環型エネルギーを目



指した地球環境にやさしい充電電池と地球環境保護をテーマに音楽活動をされている折重由美子氏とのコラボレーションによるコンサートです。FDKグループは、これからも自社の事業を活かした社会・環境貢献活動に取り組んでまいります。

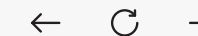
笑顔をツナグ貢献活動の推進

献血活動の実施

FDKグループは、地域社会への貢献活動の一環として、継続的な社内献血を実施しております。少子高齢化に伴う慢性的な血液需要という社会課題に対して、企業としてできる「命を支える行動」と位置づけ、活動を推進してまいりました。就業時間内での参加を可能とすることで従業員が無理なく参加できる環境を整え、現在は湖西工場・鳥取工場・高崎工場にて毎年2～3回程度の献血活動を実施しております。2025年度は、上記の拠点で延べ188名の従業員が参加しました。今後も献血活動を継続し、地域社会と命をつなぐ持続的な取り組みとして発展させてまいります。



HOME



INDEX

イントロダクション

FDKグループの価値創造ストーリー

サステナビリティ

FDKアイデンティティにおける「10年の計」×サステナビリティ経営

サステナビリティマネジメント

マテリアリティ

安心安全な電気エネルギーの提供

地球環境との共生

多様な人材の活躍推進

コーポレート・ガバナンスの持続的強化／リスクコンプライアンスの高度化

地域・社会・コミュニティの持続可能性への貢献

財務情報

概要、グループ会社

財務情報

連結貸借対照表

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当連結会計年度 (2026年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,600	5,239
受取手形及び売掛金	13,534	13,456
契約資産	641	296
電子記録債権	404	424
棚卸資産	10,549	10,661
その他	2,015	1,598
貸倒引当金	△ 12	△ 9
流動資産合計	31,734	31,668
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	5,641	5,975
機械装置及び運搬具	4,802	4,784
工具器具及び備品	858	904
土地	2,186	2,200
リース資産	142	89
建設仮勘定	257	170
有形固定資産合計	13,888	14,125
無形固定資産	329	307
投資その他の資産		
投資有価証券	211	208
退職給付に係る資産	—	755
繰延税金資産	44	70
その他	132	118
投資その他の資産合計	387	1,152
固定資産合計	14,606	15,585
資産合計	46,340	47,254

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当連結会計年度 (2026年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	7,810	6,331
電子記録債務	2,559	663
短期借入金	14,550	15,900
リース債務	45	31
未払金	1,189	1,689
未払法人税等	445	118
その他	2,279	2,489
流動負債合計	28,879	27,225
固定負債		
リース債務	113	66
繰延税金負債	381	363
退職給付に係る負債	48	—
長期未払金	151	128
その他	351	337
固定負債合計	1,046	895
負債合計	29,925	28,120
純資産の部		
株主資本		
資本金	31,709	3,000
資本剰余金	26,225	3,095
利益剰余金	△ 44,456	8,177
自己株式	△ 51	△ 51
株主資本合計	13,425	14,220
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	38	45
為替換算調整勘定	2,488	3,868
退職給付に係る調整累計額	350	872
その他の包括利益累計額合計	2,877	4,786
非支配株主持分	111	126
純資産合計	16,414	19,133
負債純資産合計	46,340	47,254

＊ 記載金額は百万円未満を切り捨てにより表示しています。



INDEX

イントロダクション

FDK グループの価値創造ストーリー

サステナビリティ

財務情報

概要、グループ会社

財務情報

連結損益計算書

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)	当連結会計年度 (自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)
売上高	63,171	59,561
売上原価	51,779	48,261
売上総利益	11,392	11,299
販売費及び一般管理費	9,997	9,631
営業利益	1,394	1,667
営業外収益		
受取利息	77	81
受取配当金	24	29
為替差益	23	—
受取賃貸料	10	22
作業くず売却益	15	16
その他	69	72
営業外収益合計	220	221
営業外費用		
支払利息	178	246
為替差損	—	165
固定資産除却損	66	36
固定資産売却損	76	—
その他	33	24
営業外費用合計	354	472
経常利益	1,261	1,416
特別損失		
減損損失	345	329
事業構造改善費用	—	140
特別損失合計	345	469
税金等調整前当期純利益	916	946
法人税、住民税及び事業税	391	293
過年度法人税等	—	△59
法人税等調整額	△22	△42
法人税等合計	368	191
当期純利益	547	754
非支配株主に帰属する当期純利益	10	9
親会社株主に帰属する当期純利益	536	745

＊ 記載金額は百万円未満を切り捨てにより表示しています。



HOME



INDEX

イントロダクション

FDK グループの価値創造ストーリー

サステナビリティ

財務情報

概要、グループ会社

株主資本等変動計算書

前連結会計年度(自 2024 年 4 月 1 日 至 2025 年 3 月 31 日)

(単位:百万円)

	株主資本					その他の包括利益累計額				非支配株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	為替換算 調整勘定	退職給付に係る 調整累計額	その他の包括利益 累計額合計		
当期首残高	31,709	26,225	△ 44,993	△ 51	12,889	59	2,758	△ 164	2,653	102	15,645
当期変動額											
親会社株主に 帰属する 当期純利益			536		536						536
自己株式の取得				△ 0	△ 0						△ 0
連結範囲の変動											
株主資本以外の 項目の当期変動 額(純額)						△ 20	△ 270	515	223	9	232
当期変動額合計	—	—	536	△ 0	536	△ 20	△ 270	515	223	9	768
当期末残高	31,709	26,225	△ 44,456	△ 51	13,425	38	2,488	350	2,877	111	16,414

当連結会計年度(自 2025 年 4 月 1 日 至 2026 年 3 月 31 日)

(単位:百万円)

	株主資本					その他の包括利益累計額				非支配株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	為替換算 調整勘定	退職給付に係る 調整累計額	その他の包括利益 累計額合計		
当期首残高	31,709	26,225	△ 44,456	△ 51	13,425	38	2,488	350	2,877	111	16,414
当期変動額											
減資	△ 28,709	28,709									—
欠損填補		△ 51,888	51,888								—
親会社株主に 帰属する 当期純利益			745		745						745
自己株式の取得				△ 0	△ 0						△ 0
連結範囲の変動		49			49		2		2	6	59
株主資本以外の 項目の当期変動 額(純額)						7	1,377	521	1,905	9	1,915
当期変動額合計	△ 28,709	△ 23,130	52,634	△ 0	795	7	1,380	521	1,908	15	2,719
当期末残高	3,000	3,095	8,177	△ 51	14,220	45	3,868	872	4,786	126	19,133

* 記載金額は百万円未満を切り捨てにより表示しています。



INDEX

イントロダクション

FDK グループの価値創造ストーリー

サステナビリティ

財務情報

概要、グループ会社

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (自 2024 年 4 月 1 日 至 2025 年 3 月 31 日)	当連結会計年度 (自 2025 年 4 月 1 日 至 2026 年 3 月 31 日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	916	946
減価償却費	2,305	2,313
減損損失	345	329
退職給付に係る資産の増減額(△は増加)	—	△ 755
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	△ 414	433
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△ 31	△ 3
受取利息及び受取配当金	△ 101	△ 110
支払利息	178	246
為替差損益(△は益)	0	△ 0
固定資産除却損	66	36
売上債権の増減額(△は増加)	4,519	884
棚卸資産の増減額(△は増加)	1,299	180
仕入債務の増減額(△は減少)	△ 4,750	△ 3,592
未払費用の増減額(△は減少)	208	69
その他	△ 370	816
小計	4,169	1,795
利息及び配当金の受取額	101	110
利息の支払額	△ 181	△ 244
法人税等の支払額	△ 317	△ 530
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,773	1,131

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (自 2024 年 4 月 1 日 至 2025 年 3 月 31 日)	当連結会計年度 (自 2025 年 4 月 1 日 至 2026 年 3 月 31 日)
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△ 2,840	△ 2,264
有形固定資産の売却による収入	55	24
無形固定資産の取得による支出	△ 31	△ 62
投資有価証券の取得による支出	△ 6	△ 6
その他	△ 2	1
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 2,825	△ 2,306
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	73	1,350
自己株式の取得による支出	△ 0	△ 0
ファイナンス・リース債務の返済による支出	△ 48	△ 58
財務活動によるキャッシュ・フロー	24	1,291
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 87	442
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	884	558
合併に伴う現金及び現金同等物の増加額	—	81
現金及び現金同等物の期首残高	3,715	4,600
現金及び現金同等物の期末残高	4,600	5,239

＊ 記載金額は百万円未満を切り捨てにより表示しています。



INDEX

イントロダクション

FDK グループの価値創造ストーリー

サステナビリティ

財務情報

概要、グループ会社

12年間の主要財務・非財務データ

(単位:百万円)

		単位	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
会計年度	売上高(連結)	百万円	76,365	80,745	73,682	73,129	72,113	62,123	61,543	61,456	62,784	62,676	63,171	59,561
	対前年増減率	%	-0.3%	5.7%	-8.7%	-0.7%	-1.4%	-13.9%	-0.9%	-0.1%	2.2%	-0.2%	0.8%	-5.7%
	営業利益	百万円	2,211	1,580	△330	666	823	841	1,743	2,083	789	568	1,394	1,667
	営業利益率	%	2.9%	2.0%	-0.4%	0.9%	1.1%	1.4%	2.8%	3.4%	1.3%	0.9%	2.2%	2.8%
	経常利益(損失)	百万円	504	658	△697	78	718	565	1,274	1,968	851	720	1,261	1,416
	経常利益率	%	0.7%	0.8%	-0.9%	0.1%	1.0%	0.9%	2.1%	3.2%	1.4%	1.1%	2.0%	2.4%
	持分法による 投資利益(損失)	百万円	△2,353	△602	△141	△85	△60	△15	—	—	—	—	—	—
	親会社株主に帰属する 当期純利益(純損失)	百万円	961	167	△3,166	△630	△290	△2,340	2,009	740	318	120	536	745
	親会社株主に帰属する 当期純利益率(純損失率)	%	1.3%	0.2%	-4.3%	-0.9%	-0.4%	-3.8%	3.3%	1.2%	0.5%	0.2%	0.8%	1.3%
	設備投資額	百万円	2,593	2,531	3,571	2,672	1,934	1,421	3,847	2,516	3,041	2,210	2,541	2,661
	減価償却費	百万円	2,632	2,390	2,443	2,092	2,136	2,131	1,984	2,367	2,291	2,405	2,305	2,313
	研究開発費	百万円	960	959	937	1,061	947	817	710	711	704	703	747	793
	営業活動による キャッシュフロー	百万円	1,894	5,371	327	567	1,602	2,799	1,996	2,177	2,783	1,620	3,773	1,131
	投資活動による キャッシュフロー	百万円	△111	△1,650	△3,252	△1,959	△1,860	△2,390	△373	△3,920	△2,978	△2,533	△2,825	△2,306
	財務活動による キャッシュフロー	百万円	△2,717	△2,142	733	1,559	5,282	99	△4,077	△2,780	△116	1,813	24	1,291
	現金および 現金同等物期末残高	百万円	4,758	5,952	3,538	3,720	8,734	9,063	7,001	2,763	2,571	3,715	4,600	5,239



HOME



INDEX

イントロダクション

FDKグループの価値創造ストーリー

サステナビリティ

財務情報

概要、グループ会社

		単位	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
会計年度末	純資産	百万円	8,578	7,754	4,638	4,293	10,280	6,739	10,888	12,460	13,196	15,645	16,414	19,133
	株主資本	百万円	8,969	9,135	5,969	5,683	12,207	9,860	11,750	12,451	12,769	12,889	13,425	14,220
	総資産	百万円	57,256	54,217	49,132	51,054	54,145	47,685	48,064	46,903	47,130	51,556	46,340	47,254
	有利子負債	百万円	18,750	17,337	18,294	20,477	19,214	19,182	15,119	12,340	12,223	14,555	14,708	15,997
	純金利負担(支払利息- 受取利息および配当金)	百万円	100	99	104	105	126	108	97	87	50	31	76	135
一株当たり 情報	一株当たり当期純利益(EPS)	円	34.33	5.99	△113.04	△22.53	△9.91	△67.82	58.42	21.47	9.22	3.50	15.55	21.60
	一株当たり配当金	円	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	一株当たり純資産(BPS)	円	282.01	252.43	140.03	153.15	297.79	195.16	315.37	360.92	382.26	450.45	472.48	550.85
レシオ	配当性向	%	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
会計年度末	連結従業員数	人	4,169	4,175	4,103	3,971	3,557	3,030	2,486	2,431	2,436	2,418	2,405	2,420
	連結子会社数	社	16	14	14	12	12	12	11	10	9	10	10	9
	持分法適用会社数	社	2	2	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0
	子会社および関連会社数	社	19	18	17	15	15	15	14	12	11	12	12	10



HOME



INDEX

イントロダクション

FDKグループの価値創造ストーリー

サステナビリティ

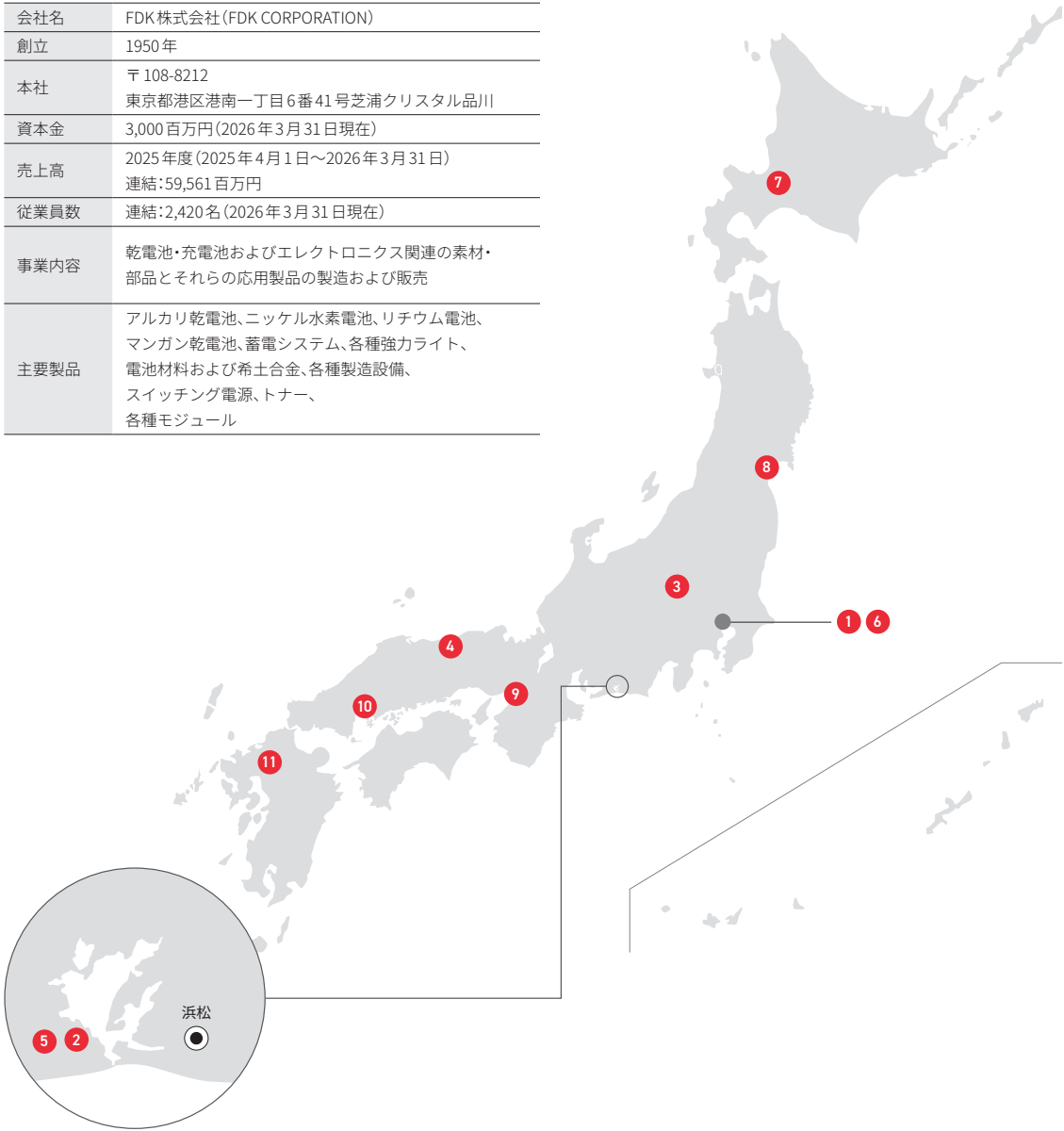
財務情報

概要、グループ会社

概要、グループ会社

会社概要

会社名	FDK 株式会社 (FDK CORPORATION)
創立	1950 年
本社	〒108-8212 東京都港区港南一丁目6番41号芝浦クリスタル品川
資本金	3,000 百万円 (2026 年 3 月 31 日現在)
売上高	2025 年度 (2025 年 4 月 1 日～2026 年 3 月 31 日) 連結:59,561 百万円
従業員数	連結:2,420 名 (2026 年 3 月 31 日現在)
事業内容	乾電池・充電電池およびエレクトロニクス関連の素材・部品とそれらの応用製品の製造および販売
主要製品	アルカリ乾電池、ニッケル水素電池、リチウム電池、マンガン乾電池、蓄電システム、各種強力ライト、電池材料および希土合金、各種製造設備、スイッチング電源、トナー、各種モジュール



本社、事業所、営業所

本社					
事業所	住所	TEL	ISO14001	ISO45001	ISO9001 および IATF16949
① 本社	〒108-8212 東京都港区港南1-6-41 (芝浦クリスタル品川)	03-5715-7400	EC25J0010	—	—
事業所					
事業所	住所	TEL	ISO14001	ISO45001	ISO9001 および IATF16949
② 湖西工場	〒431-0495 静岡県湖西市鷺津2281	053-576-2151	EC25J0010	WC04J0013	ISO9001:4745
③ 高崎工場	〒370-0071 群馬県高崎市小八木町307-2	027-361-7575	EC25J0010	WC04J0013	ISO9001:JP025023 IATF16949:478849
④ 鳥取工場	〒681-0063 鳥取県岩美郡岩美町太田28	0857-73-1771	EC25J0010	WC04J0013	ISO9001:JP025109 IATF16949:488358
⑤ 鷺津工場	〒431-0431 静岡県湖西市鷺津614	053-576-2111	EC25J0010	WC04J0013	ISO9001:JQA-0459
営業所					
事業所	住所	TEL	ISO14001	ISO45001	ISO9001 および IATF16949
⑥ 首都圏営業所	〒108-8212 東京都港区港南1-6-41 (芝浦クリスタル品川)	03-5715-7436	—	—	—
⑦ 札幌営業所	〒060-0007 北海道札幌市中央区北7条西13-9-1 (塚本ビル7号館4F)	011-798-4699	—	—	—
⑧ 仙台営業所	〒983-0852 宮城県仙台市宮城野区榴岡4-12-1 (榴岡BKテラス)	022-293-5265	—	—	—
⑨ 大阪営業所	〒532-0004 大阪府大阪市淀川区西宮原1-8-29 (テラサキ第2ビル)	(電池営業部門) 06-6350-4883 (電子営業部門) 06-6350-4877	—	—	—
⑩ 広島営業所	〒732-0052 広島県広島市東区光町2-9-27 (ユーベック光町ビル)	082-535-1450	—	—	—
⑪ 福岡営業所	〒812-0038 福岡県福岡市博多区祇園町1-28 (いちご博多ビル)	092-291-9421	—	—	—



HOME



INDEX

イントロダクション

FDK グループの価値創造ストーリー

サステナビリティ

財務情報

概要、グループ会社

INDEX

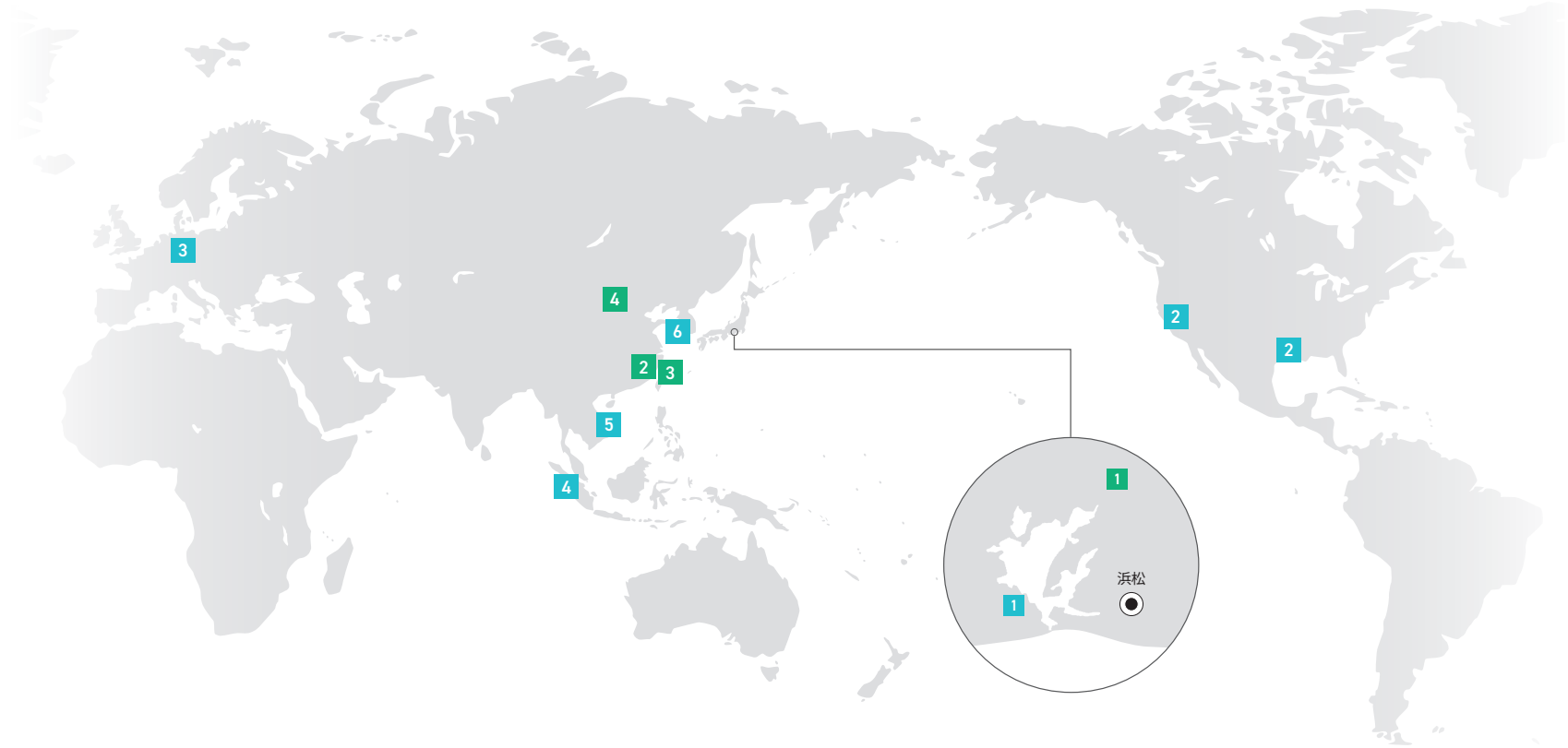
イントロダクション

FDK グループの価値創造ストーリー

サステナビリティ

財務情報

概要、グループ会社



グループ会社(生産関連会社 4 社)

事業所	住所	TEL	ISO14001	ISO45001	ISO9001 および IATF16949
1 (株) FDK エンジニアリング	〒431-1302 静岡県浜松市浜名区細江町広岡 281	053-522-5280	EC25J0010	—	ISO9001: JQA-QMA15241
2 XIAMEN FDK CORPORATION	No. 16, Malong Road, Huoju Garden, Huoju Hi-Tech District, Xiamen, Fujian, China	+86-592-603-0576	00123E30289R5M/3502	00123S30272R5M/3502	ISO9001: CN00126Q300288R601/3502 IATF16949: 0506720
3 FUCHI ELECTRONICS CO., LTD.	No. 355, Sec. 2, Nankan Rd., Luzhu Dist., Taoyuan City 338207, Taiwan	+886-3-322-2124	4E9E001-04	4E9H001-02	ISO9001: 2015/69024.5 IATF16949: 0551695
4 BAOTOU FDK CO., LTD.	No.21, Rare-earth Street, Rare-earth Hi-tech Industrial Development Zone, Baotou, Inner Mongolia, China	+86-472-5320163	02125E10748R2M	02125S10708R0M	ISO9001: 02125Q10990R2M

グループ会社(販売会社など 6 社)

事業所	住所	TEL	ISO14001	ISO45001	ISO9001 および IATF16949
1 FDK パートナース (株)	〒431-0431 静岡県湖西市鷺津 2281	053-576-3121	EC25J0010	—	—
2 FDK AMERICA, INC.	(Head Office) 17304 Preston Road, Suite225, Dallas, Texas 75252, U.S.A. (CA Office) 2445 Augustine Dr, Ste 150, Santa Clara, CA 95054, U.S.A.	+1-972-231-2531 +1-408-746-6815	—	—	—
3 FDK ELECTRONICS GMBH	Einsteinring 24, 85609 Aschheim/Munich, Germany	+49-89-3306680-0	—	—	ISO9001: 91110693/4
4 FDK SINGAPORE PTE. LTD.	4, Leng Kee Road. #04-08 SiS Bldg., Singapore 159088, Singapore	+65-6472-2328	—	—	—
5 FDK HONG KONG LTD.	Suite 1607-1608A, 16/F., Tower 3, China Hong Kong City, 33 Canton Road, Tsim Sha Tsui, Kowloon, Hong Kong	+852-2799-9773	—	—	—
6 FDK KOREA LTD.	Room. 614, Suseo Hyundai Venture-vill Bldg., 10, Bamgogae-ro 1-gil, Gangnam-gu, Seoul, 06349, Republic of Korea	+82-2-582-8452	—	—	—

*ISO14001、ISO45001、ISO9001およびIATF16949など、第三者認証取得状況は2026年3月31日現在

株式の状況

株式情報

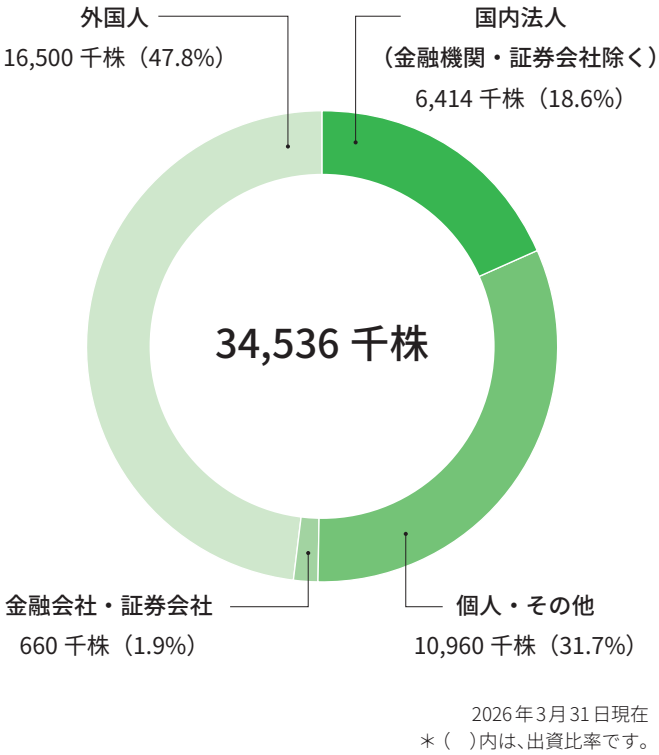
証券コード	6955
発行可能株式総数	51,000,000 株
発行済株式の総数および資本金	34,536,302 株 (自己株式 31,473 株を含む) 資本金 3,000 百万円 2026 年 3 月 31 日現在
当期中の株式の発行	なし
株主数	15,996 名 2026 年 3 月 31 日現在

大株主(上位 10 名)

株主名	当社への出資状況	
	持株数(千株)	持株比率(%)
SILITECH TECHNOLOGY CORPORATION	15,527	45.00
富士通株式会社	6,071	17.60
BNP PARIBAS LONDON BRANCH FOR PRIME BROKERAGE CLEARANCE ACC FOR THIRD PARTY	331	0.96
大佐古 幸典	205	0.59
細羽 強	170	0.49
FDK取引先持株会	166	0.48
BARCLAYS CAPITAL SECURITIES LIMITED	151	0.44
田中 隆士	140	0.41
株式会社SBI証券	138	0.40
田中 章吾	125	0.36

＊ 持株比率は、自己株式(31,473 株)を控除して計算しております。

所有者別持株比率の状況



HOME



INDEX

イントロダクション

FDK グループの価値創造ストーリー

サステナビリティ

財務情報

概要、グループ会社